

平成 28 年 度

群馬大学大学教育・学生支援機構
報 告 書



群馬大学大学教育・学生支援機構

「平成28年度群馬大学大学教育・学生支援機構」報告書 発刊にあたって

大学教育・学生支援機構長

窪田 健 二

群馬大学の大学教育・学生支援機構は、平成22年度から、主に教養教育の企画・運営を担当する教育基盤センター（平成28年度に、全学の教育実施・運営を担うことを明確にすべく大学教育センターに改編）、学生の大学生生活全般を支援する学生支援センター、入試業務と入試広報を担当する学生受入センター、学生及び大学構成員の健康支援を主務とする健康支援総合センターの4センター体制で構成されています。また、これまであった教育企画室を改編し、大学・大学院教育全般にわたっての改革に向けた企画・立案を進めるものとして、本機構の下に教育改革推進室を設置しました。さらに、総合情報メディアセンターと学内共同教育研究施設である国際センターも、学生の修学に必須の組織として本機構と連携して活動しております。これら全ての組織は、群馬大学の教育業務を基幹的に担う重要な組織です。

平成28年は第3期中期目標の最初の年であり、これからの第3期にわたって大学改革、とりわけ教育改革が強く求められる年でした。高大接続改革実行プランに基づく、「大学の個別選抜入試の改革・新テストの実施」、「高等学校教育の改革」、「大学教育の改革」の一体的推進方針の下、学力の3要素の育成、学士力の育成が高校・大学に求められています。そうした中で、大学教育、人材育成の充実にに向けた教学マネジメント体制の構築に向け、平成28年4月には、新たに3つのポリシー（DP、CP、AP）の改定を行い、大学教育センターへの改編を基に、大学教育の内部質保証のPDCAサイクルの構築に向けた取組みがスタートしました。また、大学全体においても、第4期に向けた大学の将来像を定めていくべく、幾つかのプロジェクトチームが立ち上がり、センター設置・改組構想が進められています。さらには、入試を含めた広報体制の整備としての広報本部の設置、縦割り型の支援事務体制を改善しグローバル化への更なる対応を推進すべく国際センター（国際課）の設置が行われてきました。

18歳人口の減少が始まりつつある現在、先の見通せない時代にあって我が国の将来を担い、世界に羽ばたくことのできる人材を群馬の地にあって育成していくためには、27年度の大学改革支援・学位授与機構による大学機関別認証評価、そして28年度の第2期6年についての法人評価で受けてきた多くの指摘事項の改革を基に、本学の教育・研究の質を更に一層高め、本学が、地域に根ざし知的な創造を通じて世界の最先端へとチャレンジし、社会と連携し21世紀を切り開いていく大学であることを示していくことが何よりも必要です。

そのため、本機構の各センターでの28年度の取り組みをここにまとめ、その総括と課題の抽出を進めていくものとして本報告書を作成するものです。いわゆる評価疲れというものの大きな原因は、大切なデータが散在していることによると思います。報告書をまとめ、評価と企画の基礎となるデータの系統的整理を行っていくことは、教学のPDCAサイクルを実行していく上で基本となる作業です。昨今、IRという言葉で重要視されている作業も、基礎データの整備があってこそうまく進むものです。今後とも各センターは、他組織とも連携をとりながら、学生及び社会のニーズに合った教育への支援を提供して頂くようお願いいたします。

最後になりますが、本報告書の作成に当たり、各センターの業務を遂行している中で編集にご協力を頂いた教職員の皆様、また執筆して頂いた方々に深く感謝申し上げます。

目 次

巻頭言

1	大学教育・学生支援機構の組織	1
1.1	大学教育・学生支援機構の組織図	1
1.2	大学教育・学生支援機構の構成員	2
1.3	教員による地域貢献事業	8
2	大学教育センター（平成28年7月改称：（旧）教育基盤センター）	11
2.1	教育企画室	11
2.2	教養教育部会	11
2.2.1	はじめに	11
2.2.2	平成28年度活動概要	11
2.2.3	平成28年度活動内容	12
2.3	外国語教育部会	13
2.3.1	はじめに	13
2.3.2	英語習熟度別クラス編成，及び英語アチーブメントテスト	13
2.3.3	TOEIC-IP	14
2.3.4	TOEFL-ITP	14
2.3.5	TOEIC・TOEFL説明会	14
2.3.6	ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験	15
2.3.7	ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト	15
2.3.8	理工学部の英語教育カリキュラムについて	16
2.3.9	教育学部の英語教育カリキュラムについて	16
2.4	教育推進部会	17
2.4.1	はじめに	17
2.4.2	ベストティーチャー賞	17
2.4.3	全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」	17
2.4.4	教養教育授業評価	17
3	学生支援センター	50
3.1	入学料免除及び徴収猶予	50
3.1.1	免除申請者数，免除者数	50
3.1.2	徴収猶予申請者数，徴収猶予者数	50
3.2	授業料免除及び徴収猶予	50
3.2.1	免除申請者数，免除者数	50

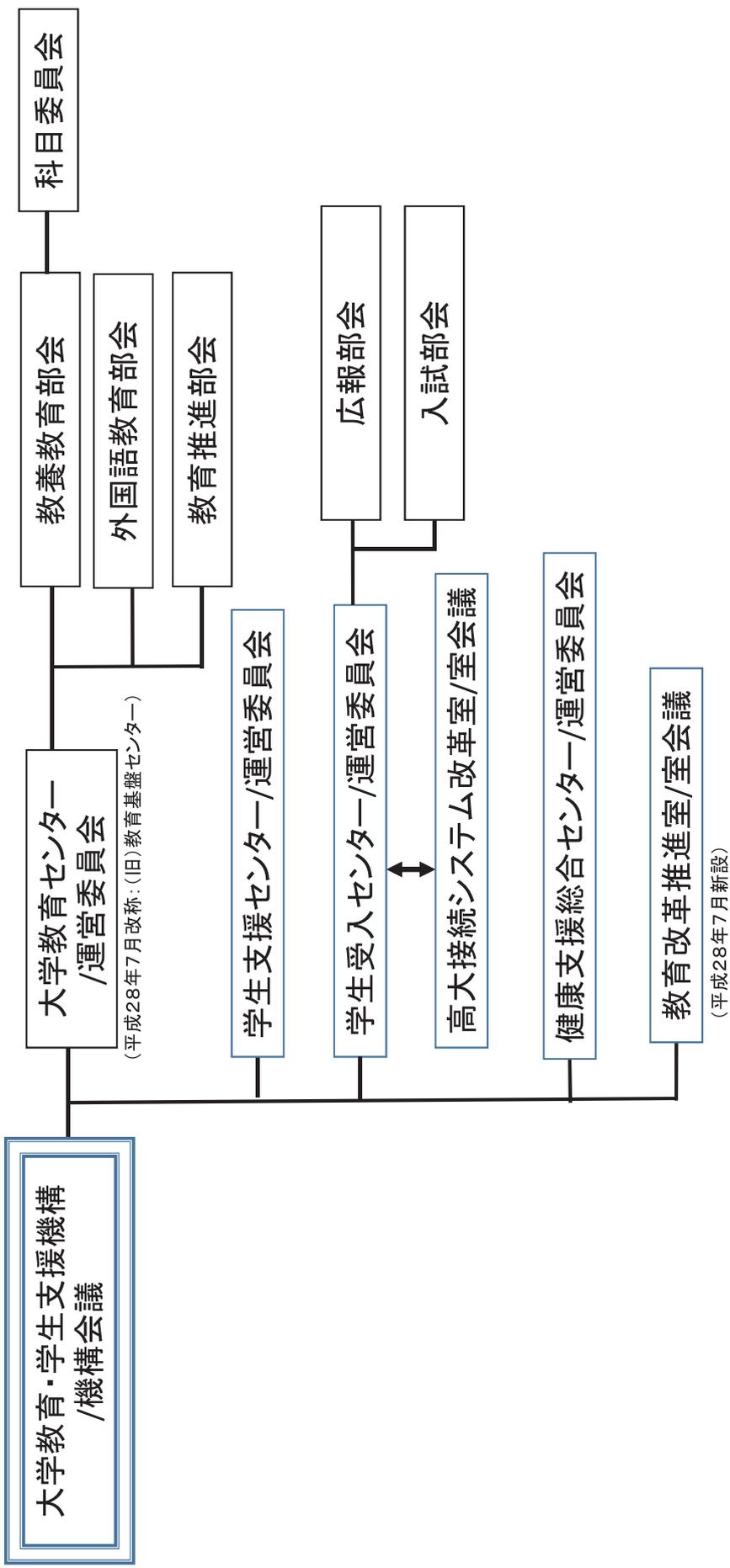
3.2.2	徴収猶予申請者数, 徴収猶予者数	50
3.3	寄宿料免除	51
3.3.1	免除申請者数, 免除者数	51
3.4	奨学金	51
3.4.1	日本学生支援機構奨学生数 (平成28年10月1日現在)	51
3.4.2	日本学生支援機構以外の奨学生数 (平成28年10月1日現在)	51
3.5	学生相談体制及び学生相談	51
3.5.1	学生相談体制	51
3.5.2	主な相談事項	51
3.5.3	学生相談アンケートの実施及び活用	51
3.6	授業欠席状況調査	52
3.6.1	授業欠席者数及び主な欠席理由	52
3.6.2	実施方法, 時期	52
3.7	障害学生への支援	52
3.7.1	障害学生数	52
3.7.2	支援内容	53
3.8	学生教育研究災害傷害保険, 学研災付帯賠償責任保険	53
3.8.1	加入者数	53
3.8.2	請求種別保険金請求件数	53
3.9	通学証明書, 旅客運賃割引証	53
3.9.1	発行枚数及び主な発行理由	53
3.10	学生寮	53
3.10.1	養心寮入寮者数	54
3.10.2	啓真寮入寮者数	54
3.11	生活支援施設	54
3.11.1	食堂	54
3.11.2	売店	54
3.12	課外活動施設	54
3.12.1	体育施設	54
3.12.2	文化施設	56
3.12.3	課外活動共用施設	57
3.12.4	合宿所	57
3.13	学生団体及び主な活動	57
3.13.1	学生団体	57
3.13.2	大学祭	57

3.13.3	関東甲信越大学体育大会	58
3.13.4	クラブ・サークルリーダーシップ研修会	58
3.14	研修施設	58
3.14.1	北軽井沢研修所	58
3.14.2	草津セミナーハウス	59
3.15	学生の就職支援	59
3.15.1	進路状況及び主な就職先	59
3.15.2	全学就職ガイダンス・セミナーの開催	59
3.15.3	キャリアカウンセリングの充実	60
3.15.4	キャリアサポート室における情報収集環境の充実	60
3.15.5	就職支援の体制強化の充実	60
3.15.6	就職支援BOOKの作成・配布	60
3.16	就業力育成支援	60
3.17	学生生活実態調査	61
3.18	キャンパスニュース群の発行	61
3.19	事件・事故	61
3.20	学生支援センター資料集	61
4	学生受入センター	77
4.1	はじめに	77
4.2	オープンキャンパス	77
4.2.1	群馬大学オープンキャンパス	77
4.2.2	学部別オープンキャンパス	77
4.3	学生募集に係わる広報活動	77
4.3.1	出前説明会，出張模擬授業及び大学見学	77
4.3.2	進学相談会	78
4.3.3	大学案内，大学紹介動画の作成	78
4.3.4	ウェブサイト等による広報	78
4.3.5	高等学校等の教員を対象とした説明会	78
4.4	広報戦略の立案	78
4.5	入学者の選抜方法改善と追跡調査	78
4.6	その他	79
5	健康支援総合センター	84
5.1	はじめに	84
5.2	平成28年度実施事業	84
5.2.1	学生定期健康診断の実施	84

5.2.2	精神保健調査の実施	84
5.2.3	学生特殊健康診断の実施	85
5.2.4	外国人留学生健康診断の実施	85
5.3	健康支援総合センター利用状況	85
5.3.1	利用人数及び件数	85
5.3.2	健康相談の対応内容別件数及びカウンセリング報告	85
5.3.3	疾病領域別利用者数	85
5.3.4	診療科別医療機関紹介件数	86
5.3.5	薬剤別処方日数	86
5.3.6	キャンパス・ソーシャルケースワーカーによる活動	86
5.4	教育関連活動	86
5.5	健康管理に関する調査研究活動	86
5.6	健康支援総合センター主催の委員会等	86
5.7	健康支援総合センターの全国会議等出席	87
5.8	学内行事实施に伴う救護業務	87
5.9	出版・広報活動	87
5.10	社会貢献活動	88
5.11	産業保健活動	88
5.11.1	安全衛生委員会	88
5.11.2	産業医部会	88
5.11.3	職員の定期健康診断	88
5.12	本来業務以外の支援業務	88
5.13	健康支援総合センターの現状及び今後の方向性	88
5.14	健康支援総合センター資料集	89
6	教育改革推進室（平成28年7月設置）	105
6.1	はじめに	105
6.2	平成28年度取り組み概要	105

1 大学教育・学生支援機構の組織

1.1 大学教育・学生支援機構の組織図



1.2 大学教育・学生支援機構構成員

機構長 窪 田 健 二
副機構長 尾 崎 広 明

大学教育センター

センター長 窪 田 健 二
副センター長 高 橋 浩
教授 結 城 恵
准教授 キース・ベアリー
准教授 コントレラス・ジェフリー
准教授 フーゲンブーム・レイモンド
講師 飯 田 敦 史
講師 サンプソン・リチャード

学生支援センター

センター長 窪 田 健 二
副センター長 福 地 豊 樹
教授 松 元 宏 行

障害学生支援室

室長 福 地 豊 樹

就業力育成支援室

室長 松 元 宏 行

学生受入センター

センター長 窪 田 健 二
副センター長 杉 山 学

健康支援総合センター

センター長 田 村 遵 一
副センター長 竹 内 一 夫
講師 宮 崎 博 子

教育改革推進室

室長 窪 田 健 二
准教授 二 宮 祐

委員会等

大学教育センター運営委員会

委員長 窪 田 健 二 理事（教育・企画・国際交流担当）・副学長
委員 高 橋 浩 理工学府
委員 三 原 智 子 教育学部

委員	輿	石	一	郎	保健学研究科
委員	渡	部	孝	子	教育学部
委員	西	村	尚	之	社会情報学部
委員	小	山	徹	也	医学系研究科
委員	大	西	浩	史	保健学研究科
委員	山	本	隆	夫	理工学府
委員	道	見	明	彦	学務部
委員	尾	崎	広	明	理工学府
委員	二	宮		祐	大学教育・学生支援機構

大学教育センター教養教育部会

部会長	高	橋		浩	理工学府
部会員	三	原	智	子	教育学部
部会員	豊	泉	周	治	教育学部
部会員	河	島	基	弘	社会情報学部
部会員	鎌	田	英	男	医学系研究科
部会員	吉	田		亨	保健学研究科
部会員	桂		進	司	理工学府
部会員	齋	藤	隆	泰	理工学府
部会員	三	國	正	樹	教育学部
部会員	齋	藤	勇	一郎	医学系研究科
部会員	上	條		隆	教育学部
部会員	山	内	春	光	社会情報学部
部会員	尾	崎	広	明	理工学府
部会員	高	橋		浩	理工学府
部会員	小	林	英	樹	教育学部
部会員	松	元	宏	行	学生支援センター
部会員	牧	原		功	国際教育・研究センター
部会員	北	村	忠	弘	生体調節研究所

科目委員会：学びのリテラシー委員会

委員長	齋	藤	隆	泰	理工学府
委員	小	谷	英	生	教育学部
委員	柿	本	敏	克	社会情報学部
委員	岡		美	智代	保健学研究科
委員	小	林	正	行	教育学部
委員	高	山	利	弘	社会情報学部
委員	岸		美	紀子	医学系研究科
委員	久	新	荘	一郎	理工学府

科目委員会：総合科目委員会

委員長	三	國	正	樹	教育学部
委員	大	野	富	彦	社会情報学部
委員	小	山	徹	也	医学系研究科
委員	浅	野	素	子	理工学府
委員	岩	瀧	大	樹	教育学部
委員	小	竹	裕	人	社会情報学部

委員 上 宮 英 之
委員 平 井 光 博 保健学研究科
理工学府

科目委員会：情報委員会

委員長 齋 藤 勇一郎 医学系研究科
委員 齋 江 貴 志 教育学部
委員 岩 井 淳 社会情報学部
委員 河 西 憲 一 理工学府
委員 寺 嶋 容 明 教育学部
委員 佐 渡 一 広 社会情報学部
委員 豊 村 暁 保健学研究科
委員 荒 木 幹 也 理工学府
委員 横 山 英 俊 総合情報メディアセンター

科目委員会：スポーツ・健康委員会

委員長 上 條 隆 教育学部
委員 新 井 康 平 社会情報学部
委員 坂 本 雅 昭 保健学研究科
委員 村 上 岩 範 理工学府
委員 福 地 豊 樹 教育学部
委員 西 田 順 一 教育学部

科目委員会：人文・社会科学委員会

委員長 山 内 春 光 社会情報学部
委員 豊 泉 周 治 教育学部
委員 藤 井 正 希 社会情報学部
委員 山 本 康次郎 医学系研究科
委員 森 本 英 行 理工学府
委員 山 崎 法 子 教育学部
委員 北 村 純 社会情報学部
委員 村 田 祥 子 保健学研究科

科目委員会：自然科学委員会

委員長 尾 崎 広 明 理工学府
委員 青 木 悠 樹 教育学部
委員 石 川 真 一 社会情報学部
委員 鯉 淵 典 之 医学系研究科
委員 弓 仲 康 史 理工学府
委員 山 本 亮 介 教育学部
委員 岩 崎 博 之 教育学部
委員 西 村 尚 之 社会情報学部
委員 柳 奈津子 保健学研究科
委員 大 塚 岳 理工学府
委員 後 藤 民 浩 理工学府

大学教育センター外国語教育部会

部会長	三原 智子	教育学部
部会員	高橋 浩	理工学府
部会員	キース・ベアリー	大学教育・学生支援機構
部会員	コントレラス・ジェフリー	大学教育・学生支援機構
部会員	フーゲンブーム・レイモンド	大学教育・学生支援機構
部会員	飯田 敦史	大学教育・学生支援機構
部会員	サンプソン・リチャード	大学教育・学生支援機構
部会員	宮本 文	教育学部
部会員	井門 亮	社会情報学部
部会員	松崎 利行	医学系研究科
部会員	川島 智幸	保健学研究科
部会員	高橋 学	理工学府
部会員	田中 一嘉	教育学部
部会員	野田 岳人	国際教育・研究センター
部会員	高橋 浩	理工学府

大学教育センター教育推進部会

部会長	輿石 一郎	保健学研究科
部会員	新井 淑弘	教育学部
部会員	大野 富彦	社会情報学部
部会員	鯉淵 典之	医学系研究科
部会員	白石 洋一	理工学府

学生支援センター運営委員会

委員長	窪田 健二	理事（教育・企画・国際交流担当）・副学長
委員	福地 豊樹	教育学部
委員	松元 宏行	大学教育・学生支援機構
委員	任 龍在	教育学部
委員	藤森 健太郎	教育学部
委員	杉山 学	社会情報学部
委員	和田 直樹	医学系研究科
委員	篠崎 博光	保健学研究科
委員	角田 欣一	理工学府
委員	片柳 雄大	教育学部
委員	鯉淵 典之	医学系研究科
委員	道見 明彦	学務部
委員	竹内 一夫	大学教育・学生支援機構
委員	園田 智子	国際教育・研究センター

学生受入センター運営委員会

委員長	窪田 健二	理事（教育・企画・国際交流担当）・副学長
副委員長	杉山 学	社会情報学部
委員	板橋 英之	理工学府

委員	三	国	正	樹	教育学部
委員	伊	藤	賢	一	社会情報学部
委員	松	崎	利	一	医学系研究科
委員	三	井	真	一	保健学研究科
委員	本	島	邦	一	理工学府
委員	道	見	明	彦	学務部
委員	喜多	村	徹	雄	教育学部
委員	高	山	利	弘	社会情報学部
委員	平	井	宏	和	医学系研究科
委員	山	崎	恆	夫	保健学研究科
委員	中	川	紳	好	理工学府

学生受入センター運営委員会広報部会

部会長	杉	山	学	社会情報学部
部会員	板	橋	英	理工学府
部会員	喜多	村	徹	教育学部
部会員	高	山	利	社会情報学部
部会員	平	井	宏	医学系研究科
部会員	山	崎	恆	保健学研究科
部会員	中	川	紳	理工学府
部会員	道	見	明	学務部

学生受入センター運営委員会入試部会

部会長	杉	山	学	社会情報学部
部会員	板	橋	英	理工学府
部会員	三	國	正	教育学部
部会員	伊	藤	賢	社会情報学部
部会員	松	崎	利	医学系研究科
部会員	三	井	真	保健学研究科
部会員	本	島	邦	理工学府

高大接続システム改革室

室長	窪	田	健	二	理事（教育・企画・国際交流担当）・副学長
室員	板	橋	英	之	理工学府
室員	杉	山	学	社会情報学部	
室員	小	池	啓	一	副学長
室員	伊	藤	隆	教育学部	
室員	平	井	宏	和	医学系研究科
室員	山	崎	恆	夫	保健学研究科

健康支援総合センター運営委員会

委員長	田	村	遵	一	医学系研究科
委員	竹	内	一	夫	大学教育・学生支援機構
委員	宮	崎	博	子	大学教育・学生支援機構
委員	藤	森	健	太郎	教育学部
委員	杉	山	学	社会情報学部	
委員	和	田	直	樹	医学系研究科

委員	篠崎博光	保健学研究科
委員	角田欣一	理工学府
委員	松谷治彦	総務部
委員	道見明彦	学務部

教育改革推進室

室長	窪田健二	理事（教育・企画・国際交流担当）・副学長
副室長	尾崎広明	理工学府
室員	二宮祐祐	大学教育・学生支援機構
室員	高橋浩子	理工学府
室員	三原智子	教育学部
室員	輿石一郎	保健学研究科
室員	板橋英之	理工学府
室員	杉山孝子	社会情報学部
室員	渡部孝子	教育学部
室員	鎌田英男	医学系研究科
室員	土橋邦生	保健学研究科
室員	結城恵	大学教育・学生支援機構
オブザーバー	末松美知子	社会情報学部

1.3 教員による地域貢献事業

平成28年度活動内容

No.	教員名	活動内容	実施日
1	結城 恵	文化庁文化審議会国語分科会委員	
2	結城 恵	文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育スタートアッププログラム【地域日本語教育アドバイザー】日本語教育施策推進アドバイザー	
3	結城 恵	群馬労働局 群馬地方最低賃金審議会委員	
4	結城 恵	前橋市 アーツ前橋運営評議会委員	
5	結城 恵	渋川市総合計画審議会副委員長	
6	結城 恵	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入環境充実事業」「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム委員	
7	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム グローバル・リーダーシップ・プログラム(GLLP)研究会委員	
8	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム 住環境整備推進委員会委員	
9	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム 生活・就職支援実行委員会委員	
10	結城 恵	群馬大学高度人材育成センター 平成28年度事前研修 自己表現スキル講師 (群馬県での実践事例をもとに)	4月11日
11	結城 恵	全国市町村国際文化研修所 平成28年度国際文化研修「第1回多文化共生マネージャー養成コース」外国人住民と法制度(2)外国人児童・生徒の教育 講師	5月10日
12	結城 恵	本県で学ぶ留学生の県内定着を促進する「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム	5月23日
13	松元 宏行	群馬県立中央中等教育学校学校評議員会	第1回6月22日/ 第2回2月8日
14	結城 恵	文化庁委託事業平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム(B)】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 指導者養成講座	7月3日/7月31日/ 8月6日/8月21日/ 9月4日/10月30日/ 11月6日/12月11日/ 1月8日/1月22日/ 2月5日/2月12日
15	リチャード・サンブソン	群馬県立中央中等教育学校平成28年度SGH課題研究 第6学年発表会。プレゼン指導助言者	7月20日
16	結城 恵	公益財団法人佐賀県国際交流協会 子ども支援サポーター養成講座 講師(群馬県での実践事例をもとに)	7月28日
17	松元 宏行	第12回群馬産学官金連携推進会議	8月1日
18	レイモンド・フーゲンブーム	群馬大学公開講座(地域貢献B)「英語教師の英語力アップ講座1:英語で授業を行うための「発音力UP」ワークショップ」	8月19日
19	レイモンド・フーゲンブーム	群馬大学公開講座(地域貢献B)「英語教師の英語力アップ講座2:英語で授業を行うための「流暢さUP」ワークショップ」	8月19日
20	結城 恵	文化庁委託事業平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム(B)】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 「名前」を通して学ぶ	8月21日

No.	教員名	活動内容	実施日
21	結城 恵	全国市町村国際文化研修所 平成28年度外国につながるを持つ子どもたちへの学習支援～多様性社会を生きる「次世代」の育成～講師（群馬県での実践事例をもとに）	8月22日～8月26日
22	松元 宏行	群馬県立中央中等教育学校SGHと群馬大学との連携調整会議	8月24日
23	結城 恵	文化庁委託事業平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム（B）】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 「防災」を通して学ぶ	9月4日
24	結城 恵	外国人留学生のための川場村観光モニターツアー	9月5日／9月19日
25	結城 恵	GLLP（グローバル・リーダーシッププログラム）インターンシップ・川場村	9月6日～11日／9月20日～25日
26	結城 恵	群馬大・川場村「グローバル化と持続可能な地域づくりに関わる協定」	9月25日
27	結城 恵	群馬大・国立赤城青少年交流の家「あかぎ多文化交流キャンプ」	10月1日～2日
28	リチャード・サンブソン	平成28年度群馬大学英語FDセミナー「Exploring the Classroom through Action Research」を運営	10月23日
29	レイモンド・フーゲンブーム	群馬県教育委員会・一般財団法人自治体国際化協会「JETプログラム外国語指導助手指導力等向上研修会」	10月27日
30	結城 恵	文化庁委託事業平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム（B）】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 「健康」骨粗しょう症予防・カルシウムを豊富に含む料理実習を通して学ぶ	10月30日
31	結城 恵	文化庁委託事業平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム（B）】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 「係活動／茶道入門」川場村での活動に関する事前学習	11月6日
32	結城 恵	船橋市「帰国・外国人児童生徒支援体制整備事業」帰国・外国人児童生徒支援体制法整備事業シンポジウム 講師（群馬県での実践事例をもとに）	11月18日
33	結城 恵	川場村協働研究 観光インバウンド環境整備に関するアクション・リサーチ	11月19日～20日
34	結城 恵	文化庁委託事業平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム（B）】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 「ブラ川場」川場村を舞台に「健康」に関する実践、「集団での係活動」等を通してコミュニケーション力を育む	11月20日
35	結城 恵	北上市・国際都市推進きたかみ市民会議 多文化共生講演会 次世代のため地域づくりにつなぐ多文化共生 講師（群馬県での実践事例をもとに）	11月26日
36	結城 恵	公益財団法人東広島市教育文化振興事業団 多文化共生講演会&ワークショップ 講師	12月3日
37	結城 恵	文化庁委託事業平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム（B）】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 「環境」“もったいない”について理解し話しあい次世代に伝える	12月11日

No.	教員名	活動内容	実施日
38	結城 恵	文化庁委託事業平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム (B)】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 「報告会の企画」を通して学ぶ	1月8日
39	結城 恵	文化庁委託事業平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム (B)】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 「茶道」茶道を通して実感する日本語について学ぶ	1月22日
40	結城 恵	文化庁委託事業平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム (B)】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 「報告・スピーチ」を学ぶ	2月5日
41	結城 恵	GLLP (グローバル・リーダーシッププログラム) インターンシップ・川場成果報告ならびにフォローアップ調査	2月9日～11日 / 2月22日～24日
42	結城 恵	文化庁委託事業平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム (B)】日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 実践交流・意見交換会	2月12日
43	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム 留学生のための就職活動スタートアップ・セミナー	2月14日～16日, 20日
44	松元 宏行	群馬大学理工学部地域貢献諮問委員会(理工学人材育成)	2017年3月15日

2 大学教育センター（平成28年7月改称： （旧）教育基盤センター）

2.1 教育企画室

平成23年度から、教養教育及びこれに関連した教育体制のあり方を検討するために、教育基盤センターに教育企画室を設置し、センター長と連携して、教養教育に関する企画立案等を行ってきた。平成27年5月27日以降は、教育企画室と教育基盤センター運営委員会とで重複している委員が多いことから、合同で会議を開催することとした。平成28年7月1日に教育改革推進室が設置されたことに伴い廃止された。平成28年度の議題内容は、次のとおりである。（議題は、教育企画室関連を抜粋）

H28. 4.27

- ・平成28年度の体制について
- ・グローバルサイエンスキャンプについて
- ・大学教育再生加速プログラム「高大接続改革推進事業」について
- ・学校教育法施行規則の一部を改正する省令の公布について（3つのポリシーの策定について）

H28. 5.25

- ・教育実施体制の再構築に関するWGについて
- ・大学院教育に関するWGについて
- ・大学教育再生加速プログラム「高大接続改革推進事業」について
- ・教育改革推進室の設置について

H28. 6.22

- ・教育改革推進室の設置について
- ・教育企画室の廃止について

2.2 教養教育部会

2.2.1 はじめに

平成23年度に発足した教養教育部会は、教養教育を実施・運営するための調整をはじめとする実務的側面を担う組織である。部会長、副部会長、大学教育センター副センター長、外国語教育部会部会長、科目委員会（学びのリテラシー、総合科目、情報、スポーツ・健康、人文・社会科学、自然科学）の各委員長、就業力育成支援室、国際教育・研究センター、生体調節研究所から各1名、および、各学部教務委員（教育学部、社会情報学部、理工学部からは各1名、医学部からは医学科、保健学科より各1名の計2名）の構成員からなる。平成28年度は兼担者がおり総計17名のメンバーで活動した。

2.2.2 平成28年度活動概要

教養教育部会は、毎月1回（原則として第3月曜日）に定例部会を開催し、教養教育実施に関する諸問題について討議した。平成28年度は、4月に第1回の部会を開催し、8月の休会を除いて、平成29年3月まで計11回の定例会議をもった。それに加えて、メールによる持ち回り会議を1回実施した。活動全般としては、例年通りであった。例年前期中に実施して

いた「学生と学長の懇談会」を、諸事情により後期10月に実施した。昨年度とは少し形式を変えて、より活発な懇談となるようにした。

2.2.3 平成28年度活動内容

平成28年度教養教育部会の主な業務は例年と大きな変化はなく下記の通りであった。

- 1) 次年度教養教育科目開講コマ数の確定
- 2) 次年度教養教育実施体制（担当教員などの確定）についての承認
- 3) 次年度教養教育科目等の時間割の確定
- 4) 次年度学年暦の作成・承認
- 5) 非常勤講師（ゲスト講師を含む）採用のための審査
- 6) 教養教育科目の授業にかかわる経費などの承認
- 7) 合宿研修費要求に関する審査
- 8) TAの採用に関する審査
- 9) 障害を有する入学志願者との事前相談に関する報告
- 10) 放送大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 11) 協定を結ぶ他大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 12) 交換留学生の教養教育科目履修についての報告

これらの主要業務、およびそれに関連する事項について、月別に示すと以下の通りとなる。

- 4月 新入生のオリエンテーションの実施
文化講演会の開催
- 5月 交換留学生の前期教養教育科目履修届についての報告
教養教育関係予算案の承認
- 6月 平成29年度学年暦案の提示
- 7月 前期期末試験の実施
平成29年度学部別担当コマ数に関する基本方針の承認
平成29年度学年暦案の承認
- 9月 平成29年度教養教育実施体制案の提示
- 10月 学生と学長の懇談会実施
- 11月 交換留学生の後期教養教育科目履修届についての報告
放送大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 12月 平成29年度教養教育実施体制および開講科目についての承認
協定を結ぶ他大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 1月 平成29年度教養教育開講科目（一部変更）についての承認
- 2月 後期期末試験の実施
- 3月 平成29年度新入生オリエンテーション計画の作成
平成29年度TAの採用計画案についての承認

その他、具体的な活動の一部を以下に記載する。

1) 「日本語手話」関連科目の増設

これもでも総合科目群として「手話」に関する科目は開講されていたが、日本財団の「学術手話サポーター養成」助成事業を受けて、平成29年度より、人文科学科目群に「言語としての日本語手話」等の「手話」関連科目を新たに開講することを決定した。

2) 授業補助者の授業への参加させる際のルールの明確化

無給の授業助者を授業に参加させる際の報告義務の規則を作製した。具体的には、授業担当教員の判断により、外部資金等で謝金を払うまたは無給の授業助者を講義・実習・演習に参加させる場合は、事前に本部会への報告を義務付けることを明文化した。

3) 平成28年度文化講演会について

今年度の文化講演会を以下の通り実施した。なお、一般にも公開した。

○開催日時：平成28年4月26日（火）16：00～17：30

○会場：荒牧地区 大学会館ミュージズホール

○講師：住友文彦氏 [アーツ前橋館長]

○演題：「まちづくりと美術館～アーツ前橋の活動」

参加者は124名で、成功裡に終了した。参加者の内訳は以下の通りであった。

総合科目群「ぐんま未来学」受講学生	115名
授業以外の本学学生	2名
教職員	7名

2.3 外国語教育部会

2.3.1 はじめに

平成28年度、外国語教育部会は、前年度同様、全学の外国語教育の改善に取り組んだ。4月には全学部で新入生を対象に英語プレイスメントテストを実施し、その結果にもとづき、英語習熟度別クラス編成を行った。1年生のクラス規模については、全学部において、単位認定者見込み数を差し引いた実質的な履修者数を34名以下とした。

アチーブメントテストに関しては、まず、理工学部において、前期終了時にTOEIC-IPをアチーブメントテストとして実施し、その結果を前期の英語授業（「英語AI」「英語BI」）の成績に算入した。

また、平成27年度より引き続き、全学部1年生を対象に、後期末にアチーブメントテストとして英語統一テスト（TOEIC-IP）を実施した。理工学部においては、その結果を後期の英語授業（「英語AII」「英語BII」）の成績に算入し、社会情報学部においては、同テストの結果をもとに「英語2年」の習熟度別クラス編成を行った。今年度の外国語教育部会では、同テストの利用について以下の3点を決定した：①社会情報学部・教育学部・医学部保健学科についても、英語統一テストの成績を1年生の後期英語授業の成績に算入すること、②教育学部においても、同テストの結果に基づき「英語2年」の習熟度別クラス編成を行うこと、③教育学部と社会情報学部の2年生について、2年次後期末に英語統一テストを実施し、その結果を後期の英語授業の成績に算入すること（これにより、理工学部・社会情報学部・教育学部において、TOEIC-IPをアチーブメントテストとして計2回実施し、伸び率を測ることが可能となる）。この3点は、平成29年度以降の入学者について適応される。

なお、また、例年同様、希望者対象のTOEFL-ITPの実施、eラーニングの推進を行った。さらに、ドイツ語及びフランス語の技能検定試験ならびに年度末共通テスト（アチーブメントテスト）を実施し、受講学生の学力向上の度合いを客観的に計測した。

2.3.2 英語習熟度別クラス編成、及び英語アチーブメントテスト

英語習熟度別のクラス編成は、平成19年度に行ったアンケート調査によって確認された、教員側のきわめて高い期待と受講生の一定の希望に基づき、平成20年度から、希望する学部・学科のクラスを対象として正式に実施され始めた。平成21年度より、社会情報学部1年・2

年、保健学科看護学専攻1年（保健A・Bクラス）、工学部応用化学・生物化学科1年の英語クラスにおいて習熟度別クラス編成が行われた。平成22年度には、翌年度以降、工学部すべての学科に対して実施することが計画されたため、22年度末に社会情報学部及び工学部の全一年次生に対して、アチーブメントテストを実施した。このデータをもとに、平成23年度の4月には両学部の全新生に対して、プレイスメントテストを行い、習熟度別クラス編成を行った。平成25年度には、医学部（医学科・保健学科）の新生に対して、翌26年度には、教育学部の新生に対してもプレイスメントテストを実施した。今年度も、例年同様、1年次生については1クラス40名以下の習熟度別クラスを全学部で編成し、単位認定者見込み数を差し引いた実質的な履修者数を1クラス34名以下とした。また、今年度、平成29年度以降に入学した教育学部2年生について、習熟度別クラス編成の実施が決定し、この結果、平成30年度には、医学部2年生（医学科・保健学科）を除く、すべての教養英語クラスにおいて、習熟度別クラス編成が実施される見込みとなった。

プレイスメントテスト	平成28年4月1日（金）14：00～15：20
受験者：医学部医学科	108名
医学部保健学科	164名
社会情報学部	101名
教育学部	230名
理工学部	540名

監督：12名（理工学部より2名、社会情報学部より2名、医学科より3名、保健学科より2名、教育学部より2名、国際教育・研究センターより1名）

2.3.3 TOEIC-IP

群馬大学では平成15年度からTOEIC-IPを継続的に実施しており、外国語教育部会が中心となって、多くの学生のTOEIC受験を促している。

実施は年2回（7月／1月）で、平成21年度からは、申し込み手続を群馬大学で直接行うことにより、受験料を低く抑えることが可能になった。平成28年度の実施日時、受験者数は以下のとおりである。

1回目：平成28年7月27日（水；17：40～20：10）	実施：受験者	646名
2回目：平成29年1月24日（火；9：40～12：10）	実施：受験者	1,055名

2.3.4 TOEFL-ITP

海外留学を希望する学生にとってTOEFLの成績が要求されることが多いため、群馬大学では平成20年度から、TOEFL-ITPを荒牧キャンパスで年2回（6月もしくは7月と、12月もしくは1月）実施することとした。平成28年度の日程と受験者数は以下のとおりであった。

1回目：平成28年7月20日（水；17：40～20：05）	実施：受験者	83名
2回目：平成28年12月14日（水；17：40～20：05）	実施：受験者	18名

TOEFL-ITPは、10名以上が参加しないと実施できないため、今後も外国語教育部会が中心となって、広報に努力を払い、各部局の協力を得ながら、参加者の拡充を目指していくこととした。

2.3.5 TOEIC・TOEFL説明会

TOEICならびにTOEFLについて、全1年生対象に、英語プレイスメントテスト（4月1日）

の後、各試験室に資料を配布して説明を行った。

2.3.6 ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験

群馬大学では、外国語教育部会が実施主体となっており、ドイツ語、フランス語担当教員の協力のもと、群馬大学を会場にして、周辺地域の受験希望者がドイツ語技能検定試験、フランス語技能検定試験を受験できるよう継続的に努力してきており、平成28年度もドイツ語技能検定試験（5級～1級）を1回、フランス語技能検定試験（5級～1級）を2回、荒牧キャンパスにおいて実施した。実施日時と受験者数は以下のとおりである。

ドイツ語技能検定試験

・実施日時：秋季試験：平成28年12月4日（日）（全級5・4・3・2・準1・1級）
学内外の総受験者数：52名（複数級併願者含む）
群馬大学生受験者数：6名（但し、学校名を記入していない本学学生の受験者はこの数値に含まれない。）

フランス語技能検定試験

・実施日時：春季試験：平成28年6月19日（日）（5, 4, 3, 準2, 2, 1級）
学内外の総申込者数：45名（複数級併願者含む）
・実施日時：秋季試験：平成28年11月20日（日）（5, 4, 3, 準2, 2, 準1級）
学内外の総申込者数：63名（複数級併願者含む）：群馬大学受験者5名
・春秋の申込者数総計108名

2.3.7 ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト

外国語教養科目のうち、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語などの印欧語族の言語学習は、中学での英語授業時間の短縮、高校での英文法授業の簡略化に伴い、同系語族の文法を論理的に理解する貴重な機会となってきている。また、英語以外の外国語学習は、その言語のみならず、英語や母語を含んだ総合的な言語能力を高め、学習者のコミュニケーション能力全体の向上に寄与することも期待される。したがって学習の達成度を客観的に測ることが望ましい。

外国語教養科目のうち、専任教員が在籍しているドイツ語及びフランス語については、学生たちの学習意欲を向上させるために、またその学習の進捗を図るために、平成21年度以来実施している共通のアチーブメントテストを今年度も実施した。（週2回1年間4単位（学習時間年間120時間*）履修可能な学部学科のうち、週1回分を専任教員が担当するクラスで年度末最終授業時に共通問題で実施（試験時間：ドイツ語45分、フランス語30分**）

ドイツ語共通アチーブメントテスト

- ・実施日 平成29年1月31日（火）教育学部EB3・EB4クラス14名受験
- ・実施日 平成29年2月3日（金）医学部医学科78名受験
- ・実施日 平成29年1月30日（月）社会情報学部Aクラス13名受験

フランス語共通アチーブメントテスト

- ・実施日 平成29年2月6日（月）教育学部EA1～EA4クラス32名受験
- ・実施日 平成29年2月7日（火）医学部医学科22名受験

平成21年度以来今年度に至るまでの実施結果からおおむね以下のことが得られている。

* 4単位（120時間）を履修する学生の平均得点は、どの学部でも全国のドイツ語技能検定3級ないしフランス語技能検定3級合格者の最低得点とほぼ同等である。* 医学科の2単位

履修者の平均得点は4単位履修者に比べて例年約20点低く、高得点者が少ないうえ、極端に得点が低い者が多い傾向が続いている。

*クラスサイズが30名を超えると得点が下がりはじめる傾向がある。教室では、学生の興味やモチベーションは十分高いのに、学力・学習能力のみが年々少しずつ低下している印象を受ける。学生たちの英語以外の外国語への興味を保ちながら、外国語の学習能力を高める指導の工夫が、今後の課題であろう。外国語の学習能力の全般的な向上は、学生たちの英語力並びに母語の能力の向上にも大きく寄与すると思われる。

2.3.8 理工学部英語教育カリキュラムについて

理工学部においては、学生の大学院進学率が高く、その進学の可否判定にはTOEICの得点が利用されている。また学部・大学院ともに、卒業・修了後ビジネス界に就職する率もとても高い学部・研究科であり、職に就いた後も英語力を要求されることは必至である。そこで外国語教育部会は平成22年度に、群馬大学の学生のおよそ半数を占める工学部（現、理工学部）学生の英語力を増強するために、大幅な英語カリキュラムの改善を検討した。その結果23年度には、教育基盤センター「外国語教育部会」がこれを実行に移した。おもな変更点は以下のとおりであるが、24年度以降もこの方策を継承し、さらに、1クラスの受講者数を削減するために、全体のクラス増を実現した。平成28年度現在、計20クラスを開講し、引き続き、少人数クラスでの授業を実施している。

- 1) 週2回（90分×2回）の英語授業を履修させる。
- 2) 前期2単位、後期2単位で、1年次に4単位を取得させる。
- 3) 週2回のうち、1回は文法・読解力の養成、1回は聴解・会話等、コミュニケーション能力の育成を目指した授業とする。
- 4) 4月入学時にプレースメントテストを行い、達成度別クラスを実現する。
- 5) 7月の前期終了時にアチーブメントテストを行い、その結果をもって、後期からのクラス編成を行う。
- 6) 1月に後期用のアチーブメントテストを行い、達成度を計測する。

本学では全学的に、卒業要件となる英語の単位は4単位となっているが、基本的な英語力の低い学生については、一年次に4単位を履修させることが望ましい。そのため、週2回の英語の授業で4単位を取得させるカリキュラムに変更した。また授業形態も「読解型」と「コミュニケーション型」の2種類とした。

こうした改変の成果は、新カリキュラムの導入から2年度の平成25年度末のアチーブメントテストの結果に明確に現れた。また、平成27年7月のTOEIC-IPテストの結果は前年度比の伸び率が高く、その原因としては、理工学部における統一カリキュラムの効果に加え、平成27年度より、理工学部の入試に英語試験が導入されたことに起因すると考えられる。なお、今年度7月のTOEIC-IPテストの平均点は、平成21年度1月に実施した同テストの平均点に比べ、およそ90点の伸びを示した。

2.3.9 教育学部英語教育カリキュラムについて

平成23年度より小学校第5・第6学年の外国語（英語）活動が必修化され、平成32年度には教科化全面実施が計画されている現在、教育現場では、小学校教員にも英語を指導する能力だけでなく、ALTとのティーム・ティーチングを行うための英語コミュニケーション能力が求められている。群馬大学教育学部では、大多数の学生が小学校の免許を取得しており、英語教育の重要性が増している。

平成28年度、昨年度に引き続き、外国語教育部会では、教育学部の教養英語について、平成29年度入学生以降の新カリキュラム実施を目指し、2年間で4技能を総合的に鍛えるための共通のシラバスの考案、適切な教科書・教材を選定、成績の付け方の統一、ないしは、不

公平のない成績の付け方，2年次の習熟度別クラス編成等について，検討した。

2.4 教育推進部会

2.4.1 はじめに

前年度と同様，ベストティーチャー賞選考，全学FD連続講演会，教養教育授業評価および教養教育アンケートを行った。また，前年度教養教育でのベストティーチャー賞受賞者による公開授業を実施した。

2.4.2 ベストティーチャー賞

平成18年度に創設された「ベストティーチャー賞」を継続実施した。

平成27年に実施した平成26年度ベストティーチャー賞最優秀賞候補者による公開模擬授業の結果，審査委員より一人あたりの発表時間が短い旨の意見が出され，平成28年度の公開模擬授業から，一人あたりの発表時間を延長することとなった。対策として，各部局より推薦された最優秀賞候補者より，審査委員会委員による書面審査により概ね3～4名を選定し，最終審査である公開模擬授業を実施していただくこととなった。平成28年度ベストティーチャー賞最優秀賞候補者の書面審査により教育学部附属学校教育臨床総合センター岩瀧准教授，保健学研究科看護学講座牧野講師，理工学府電子情報部門天野教授が最終候補者に選ばれた。平成29年7月18日に，3名の最優秀賞候補者による公開模擬授業，及び，学長・理事・学部長等による審査委員会を開催し，最優秀賞・優秀賞受賞者を決定した。最優秀賞受賞者は，理工学府から選出された天野教授で，他の受賞候補者は全員が優秀賞を受賞した。今年度も，公開模擬授業を荒牧地区で実施し，昭和地区及び桐生地区にも同時中継することで，効果の波及を図った。また，昨年度に引き続き教養教育科目の「ぐんま未来学」の一貫としても行い，多数の学生が参加した。

昨年度と同様に教養教育から選出された3名の受賞者の後期担当授業を，公開授業として指定し，教員，学生に公開した。

2.4.3 全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」

平成21年度から実施している全学FD連続講演会を開催した。

平成28年11月15日に，京都大学高等教育研究開発推進センター 山田剛史准教授により「学校から社会へのトランジションとアクティブラーニングの可能性」をテーマに開催した。アクティブラーニング導入の背景や意義，様々な方法とその効用などについて，社会人や大学生のデータも交えて紹介いただき，出席者は57名であった。

2.4.4 教養教育授業評価

各授業題目に対する授業評価アンケートを，25年度から全学として教養教育科目に導入された「学びのリテラシー（1）」および「学びのリテラシー（2）」に，「情報」を追加して実施するとともに，1年生全員を対象に，教養教育全体に対するアンケートを実施した。

「学びのリテラシー（1）」は，全学共通の講義として開始し，試行年度を含めて5年目を迎えた。「学びのリテラシー（1）」の目的は「日本語能力の涵養」ならびに「プレゼン能力の涵養」である。今年度のアンケートでは，部局間の差が顕著に表れている。教育学部では，ほぼ全ての質問項目で，1「あてはまる」を選んだ学生が5割近くに達した。一方，全体的には，「学びのリテラシー（1）」の目標である日本語能力の向上（質問3）および，大学での学習方法の修得（質問6）では2割を超える学生が3「あてはまらない」・4「あまりあてはまらない」を選択したのに対し，報告の仕方やレポートの書き方（質問4），および，情報収集や引用の方法（質問5）では，概ね目的は達成されていると判断できる。また，本講義の

実施には、アクティブラーニングを取り入れることを推奨しているが、教育学部を除き、教室での討論（質問8）およびコミュニケーションをとる機会（質問9）では、3「あまりあてはまらない」・4「あてはまらない」を選んだ学生が2割を超えた。

「学びのリテラシー（2）」では、授業内容（質問1）および授業の進行（質問2）では、9割を超える学生が1「あてはまる」・2「ややあてはまる」と答えている。しかしながら、アクティブラーニングに関する内容の質問3「教室での討論は活発であった」・質問4「教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった」に関しては、2割を超える学生が3「あまりあてはまらない」・4「あてはまらない」と回答した。授業のマネジメントに関する質問6・8・9に関しては、9割以上の学生が1「あてはまる」・2「ややあてはまる」と答えている。全体を通して、「学びのリテラシー（2）」では、満足のいく教育効果が得られているものと判断される。

「情報」では、質問1から質問9で、7割を超える学生が1「あてはまる」・2「ややあてはまる」と答えていることから、満足のいく教育効果が得られているものと判断できる。また、授業内容のレベルを問う質問10では1「あてはまる」・2「ややあてはまる」と答えた学生が35.2%であったことから、授業のレベルは適切であったと判断できる。

教養教育アンケートでは、「教養教育のカリキュラム」（設問2）、「教員の授業の教え方」（設問3）、「学生支援体制」（設問7）、「全学オリエンテーション」（設問8）、「シラバス」（設問9）、「教養教育の授業案内・履修手引き」（設問10）に関しては「あまり役に立たなかった・役に立たなかった」と否定的に答えた学生は1割程度にとどまっている。しかしながら、学生の講義以外の学習時間に関する設問（設問12・13）では、1日当たりの予習・復習時間が1時間未満と答えた学生が概ね6割で、9割を超える学生が2時間未満であった。科目群別にみると、「あまり役に立たなかった・役に立たなかった」と回答した学生は、「学びのリテラシー（1）」9.8%、「学びのリテラシー（2）」7.7%、「情報」7.2%、「就業力」13.1%、「人文科学科目群」10.1%、「社会科学科目群」9.2%、「自然科学科目群」7.5%、「健康科学科目群」5.9%、「外国語教養科目群」8.1%、「総合科目群」5.4%、「学部別科目」2.2%であった。一方、「大変役に立った・少し役に立った」と回答した学生は、「学びのリテラシー（1）」77.1%、「学びのリテラシー（2）」77.1%、「情報」78.7%、「就業力」65.6%、「人文科学科目群」68.2%、「社会科学科目群」69.1%、「自然科学科目群」65.0%、「健康科学科目群」69.1%、「外国語教養科目群」68.1%、「総合科目群」73.8%、「学部別科目」84.3%であった。全体的に、全ての科目群で3人に2人近くの学生が役に立ったと判断しており、また、役に立たなかったと感じた学生が1割程度であったことから、教養教育科目は概ね問題なく進行していると判断できる。

資料

1. 平成28年度ベストティーチャー賞行事予定
2. 平成28年度各学部等ベストティーチャー賞受賞候補者一覧
3. 平成28年度ベストティーチャー賞最優秀賞候補者プロフィール及び授業・教育方法の紹介
4. 平成28年度教養教育ベストティーチャーによる公開授業開催について
5. 第8回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」の開催について
6. 平成28年度授業評価「学びのリテラシー（1）」集計表
7. 平成28年度授業評価「学びのリテラシー（2）」集計表
8. 平成28年度授業評価「情報」集計表
9. 平成28年度教養教育アンケート集計表

資料1

平成28年度ベストティーチャー賞行事予定

主 催：大学教育センター

1. 日時：平成29年7月18日（火）16：00～18：20
2. 場所：大学会館ミュージズホール（荒牧キャンパス）
3. 日程

（1）公開模擬授業（16：00～17：35）

場所：ミュージズホール

司会：（大学教育センター教育推進部会長）

- 1-1 開会
- 1-2 挨拶・趣旨説明（教育・企画担当理事）
- 1-3 模擬授業 最優秀賞候補者3人

16：05-16：35 岩瀧 大樹

（教育学部 附属学校教育臨床総合センター 准教授）

16：35-17：05 牧野 孝俊（保健学研究科 看護学講座 講師）

17：05-17：35 天野 一幸（理工学府 電子情報部門 教授）

- 1-4 閉会

（2）審査委員会の開催（17：40～18：00）

場所：大学会館3階会議室

議長：平塚浩士 学長（審査委員会委員長）

- 2-1 審議（審査委員会 / 学長・理事・学部長等）

（3）ベストティーチャー賞授与式（18：05～18：20）

場所：ミュージズホール

進行：（教育・企画担当理事）

- 3-1 開式
- 3-2 審査結果・学長挨拶
- 3-3 表彰状・副賞授与
- 3-4 受賞者代表挨拶
- 3-5 閉式
- 3-6 記念撮影

（4）その他

新採用教員は、FDの一環として公開模擬授業へ参加するものとする。

資料2

平成28年度 各学部等ベストティーチャー賞受賞候補者一覧

推薦学部等	氏名	ふりがな	所 属	最優秀賞候補者 ※印の者
大学教育・ 学生支援機構	高江洲俊光	たかえす としみつ	理工学府 理工学基盤部門 講師	
	山崎 法子	やまざき のりこ	教育学部 音楽教育講座 准教授	
	小林 正行	こばやし まさゆき	教育学部 国語教育講座 准教授	
教育学部	岩瀧 大樹	いわたき だいじゅ	教育学部附属学校教育臨床総合センター 准教授	※
	佐藤 浩一	さとう こういち	教育学研究科 教職リーダー専攻 教授	
社会情報学部	伊藤 賢一	いとう けんいち	社会情報学部 社会情報学講座 教授	
医学部医学科	佐藤 浩子	さとう ひろこ	医学系研究科 総合医療学分野 講師	
医学部保健学科	牧野 孝俊	まきの たかとし	保健学研究科 看護学(母子看護学) 講師	※
理工学部	天野 一幸	あまの かずゆき	理工学府 電子情報部門 教授	※
	松本 健作	まつもと けんさく	理工学府 環境創生部門 助教	
	若松 馨	わかまつ かおり	理工学府 分子科学部門 教授	

平成28年度ベストティーチャー賞最優秀賞候補者

プロフィール及び授業・教育方法の紹介

【教育学部 推薦】

(1) プロフィール

氏 名 (ふりがな): **岩瀧大樹 (いわたきだいじゅ)**

所属・職名: 教育学部附属学校教育臨床総合センター 教育臨床心理部門 准教授

出身: 群馬県

最終学歴: 昭和女子大学大学院生活機構研究科生活機構学専攻博士後期課程 (単位取得満期退学)

簡単な職歴:

平成19年4月～平成23年3月 東洋学園大学人文学部 非常勤講師

平成23年4月～平成26年8月 群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター講師

平成26年8月～現在 群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター准教授

専門内容: 臨床心理学 (臨床心理士), 認知行動療法, キャリアカウンセリング, 学校教育相談

主な著書: 1. 岩瀧大樹 (2009) 「第4章 動機・欲求・情動」, (分担執筆), 青木智子編著『医療と福祉のための心理学 対人援助とチームアプローチ』, 北樹出版, 全235頁.
2. 岩瀧大樹 (2012) 『教育臨床と心理学－支える・学ぶ・教えるを科学する－』学文社, 全223頁.
3. 岩瀧大樹 (2017) 「第4章第5節 (6) 自閉症スペクトラム障害, (7) 不登校, 第6節 (2) いじめ, ふれいく・たいむ新型うつ病?」, (分担執筆), 吉武光世編著『新はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学』, 学文社, 全244頁.

(2) 受賞授業名

「ネイチャー・カウンセリング」, 「生徒指導・生活指導(初等)(一)」

(3) 授業の概要

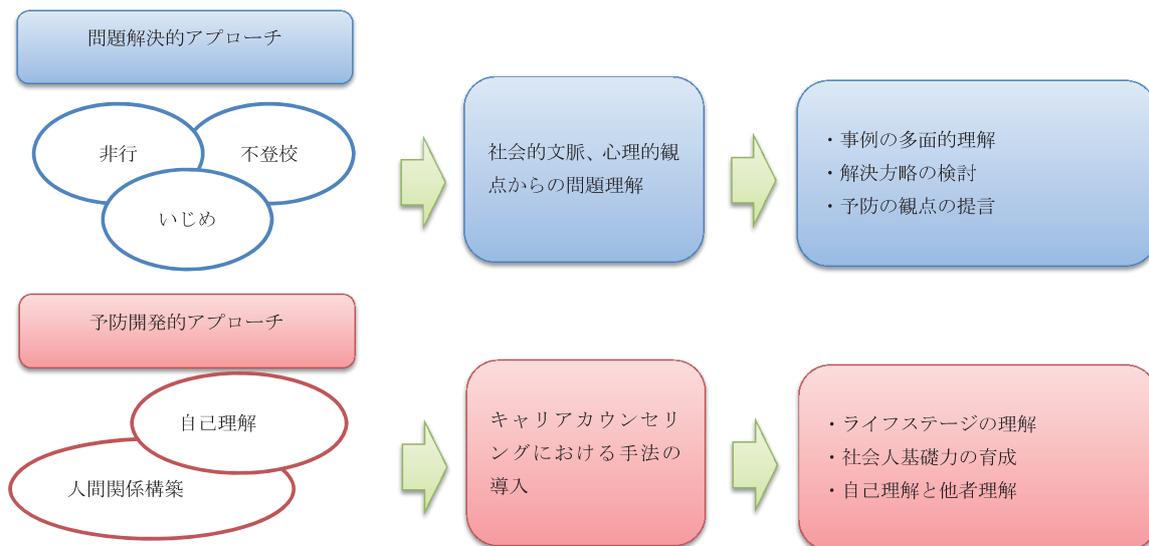
1. ネイチャー・カウンセリング

自然と触れ合う環境の下で, 対人援助に携わる者としてまず「自分を知る (自己理解の深化)」に主眼を置き, 実際に地域の子どもたちと関わるための基本的カウンセリングスキルやコミュニケーションスキルと, 受講者のキャリアデザインにおける「気づき」の習得をねらいとしている。その手法として, ピア・ラーニング (学生同士での学び) のメソッドを積極的に導入している。

2. 生徒指導・生活指導 (初等) (一)

生徒指導・生活指導においては, いじめや不登校などの問題解決的な関わりが広く知られているが, 本講義では, 認知行動療法を活用した予防的な関わり, キャリアカウンセリングに基づく開発的な関わりも重視する。また, 学校現場での事例 (モデルケース) などを多角的に検討することで, 新たな発見や学びのモチベーションの向上にはたらきかけられるよう, 尽力している。

【生徒指導・生活指導（初等）（一）の概略】



（４）授業で学生に接する場合に留意している点 〔実施要項第3（1）関連〕

講義開始時間以上に、終了時刻を遵守している。また、オリエンテーションに際し、講義内での静粛性と秩序の維持に関するルールについて十分なインフォームドコンセントを実施し、受講者より合意を得るようにしている。ゆえに、遅刻、講義中の私語・スマートフォンの不適切な使用に関しては、その都度注意を促している。なお、受講者の積極的な発言、質問には感謝の意を伝え、誠意をもって対応している。

（５）授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点 〔実施要項第3（2）関連〕

知識や理論を伝えること以上に、受講者が新たな気づきや発見、問題解決能力を習得することを念頭に置いている。そのため、教員の説明は最小限にし、敢えてやや漠然として提示することで、受講者に考えさせたり、意見交換させたりする機会を部分的に設定している。

（６）授業で能動的な学修への学生の主体的な参加を取り入れた教授法（アクティブ・ラーニング）に取り組んでいる点 〔実施要項第3（3）関連〕

教員の話の黙って聴く、といった受動的な講義に偏らぬよう、講義内での質疑応答やディスカッションなどにより、受講者と教員、受講者同士の学びのコミュニケーションを構築している。しかしそれ以上に、ただの意見交換やエクササイズに陥らぬよう、それらを通じた学びのねらいを重視し、適宜確認している。

（７）意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点 〔実施要項第3（4）関連〕

受講者と教員で協力しつつ、講義を作り上げていくスタンスを意識している。毎回、受講者より全面的な協力を得て、講義が進められている。受講者の皆さんに心より感謝申し上げます。

【医学部保健学科 推薦】

（１）プロフィール

氏名（ふりがな）：**牧野 孝俊（まきの たかとし）**

所属・職名：保健学研究科 看護学講座 講師

出身：北海道

最終学歴：2013年3月群馬大学大学院保健学研究科保健学専攻博士後期課程修了

簡単な職歴：2000年に群馬県立医療短期大学看護学科を卒業する。総合病院の小児科に5年

間、看護師として勤務した後、高崎健康福祉大学助手、群馬大学医学部保健学科看護学専攻助教を経て、2015年に群馬大学大学院保健学研究科看護学講座講師となる。2013年には群馬大学大学院保健学研究科保健学専攻博士後期課程を修了し、その後世界保健機関（WHO）の世界保健医療人材連合にて博士研究員を務める。

専門内容：小児看護学，多職種連携教育

主な著書：Interprofessional Education Initiatives at Gunma University : Simulated Interprofessional Training for Students of Various Health Science Professions

（2）受賞授業名

小児看護学方法論，小児看護学方法論演習，小児看護学実習，チームワーク原論，チーム医療，チームワーク実習，看護専門外国語演習，卒業研究

（3）授業の概要

講義（小児看護学方法論，小児看護学方法論演習，チームワーク原論，チーム医療，看護専門外国語演習）においては，勉強意欲，理解能力に差がある多様な学生が同じ講義を受講することにより，全ての学生が最低限の共通な知識を理解することを目指している。講義には，学生の理解が深まるように写真，図譜とともに動画も活用したパワーポイントを用いている。講義資料は，国家試験に出題されている重要な部分を空欄にし，学生に記入してもらうがその際に重要度について明示するようにしている。

実習（小児看護学実習，チームワーク実習，卒業研究）においては，教科書から学んだ最低限の共通な知識から，看護の対象者である患者や家族への説明方法や実技を学生と教員が一緒に行うことにより，早期に学生が応用を理解し，かつ技術が習得できることを目指している。実習中は説明が言語だけに偏ってしまいがちなため，学生が落ち着いている時間帯にiPadやA4サイズのホワイトボードを用い，学生が説明内容を理解し，イメージできるように振り返りを行うようにしている。

（4）授業で学生に接する場合に留意している点 [実施要項第3（1）関連]

準備の段階において，理解能力に差がある多様な学生でも理解しやすい言葉を用いた説明になるよう準備をしたり，自分の臨床経験やエピソードなど，学生の印象に残るような話を交えたりすることを心がけている。また，習得すべき知識は膨大にあるが，講義では多くの情報を詰め込むのではなく，重要かつ基本的な内容のみを説明し，理解できた達成感を持ってもらうことによりその後の自主勉強につながるように講義準備をしている。

講義の際には，講義中に早口で話す傾向があるため，学生が聞き取れるように一語一語はっきりと発音するようしたり，一方的な講義にならないように，常に学生の反応を見ながら，講義中学生になるべく質問したり，内容を考えてもらう参加型講義になるように心がけている。また，周囲の先生に「甘い」と言われるが，学生のネガティブな面ではなく，学生のポジティブな面を伸ばし，「学生が自信を持って取り組む」「学生の力を最大限引き出す」ことができるように学生とかかわることを心がけている。

（5）授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点 [実施要項第3（2）関連]

準備の段階において，過去20年分の国家試験問題を研究し，教えるべき事項を削り込んだことと，重要なポイントを説明する前に必ず雑談を行い，学生の注目がある時に重要なポイントを説明している。

講義の際には，上位学年になると知っていることが前提で話が進むことにより「学生の自信喪失」が生じる可能性があるため，重要なポイントの基礎となる部分については学年を問わず，何度でも説明し，「学生が学ぶことの楽しみ」を得られるように工夫している。また

以前は講義資料へ学生が記述する部分が多くあったが、多くのことをメモさせるより、講義をしっかりと聴けるようにする方が学生の成績が良くなるという論文を読んだため、重要な部分のみ穴埋めとし、学生には講義内容をしっかりと聴くように説明し、講義を受講してもらうように取り組んでいる。さらに、講義の最後に全ての学生にその講義に関連した国家試験問題に取り組ませ、学生がその回答だけではなく、適切または不適切な理由を発表できるように講義に取り組んでいる。

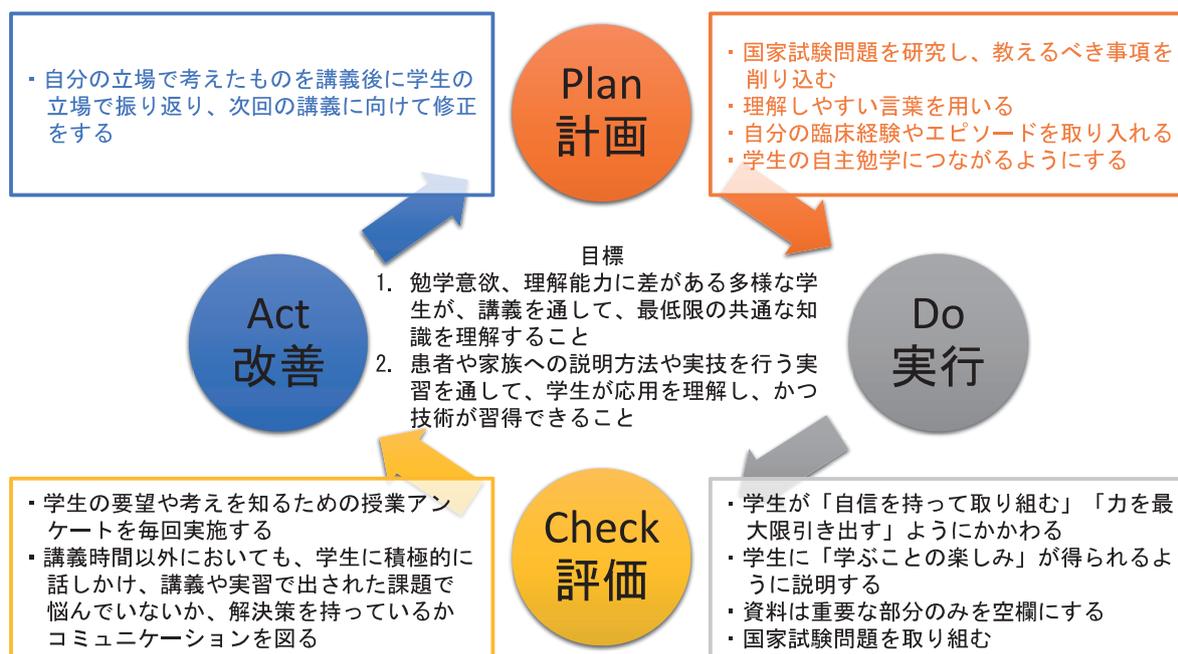
講義後は、保健学研究科において、ベストティーチャー賞優秀賞を受賞した先生が取り入れていた学生の要望や考えを知るための授業アンケートを自分の講義にも取り入れ、学生の声に耳を傾け、学生に合わせた講義になるよう修正を行っている。特に、自分の立場で考えたものを講義後に学生の立場で振り返り、次回の講義に向けて修正等を行っている。

(6) 授業で能動的な学修への学生の主体的な参加を取り入れた教授法（アクティブ・ラーニング）に取り組んでいる点 [実施要項第3（3）関連]

講義後に、講義時間を越えても可能な限り学生が納得して終わるまで学生と一緒に考えたり、資料を探したりしている。また、講義時間以外にラウンジや図書館で学生に積極的に話しかけ、講義や実習で出された課題で悩んでいないか、解決策を持っているかコミュニケーションを図っている。さらに、学生が講義時間だけではなく、自宅においても勉学意欲が向上できるようにMoodleを用いたe-learningを取り入れている。

(7) 意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点 [実施要項第3（4）関連]

自分自身がかつて劣等生だったため、講義や実習についていけないと感じる学生を作ることなく、「知らないこと、できないことは学生の特権である」ことを繰り返し学生へ伝え、「学生が自信を持って取り組む」「学生の力を最大限引き出す」ことができるよう取り組んでいる。



【理工学部 推薦】

(1) プロフィール

氏 名 (ふりがな) : **天野 一幸 (あまの かずゆき)**

所属・職名 : 理工学府 電子情報部門 教授

出 身 : 北海道

最終学歴：東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了（博士（情報科学））

簡単な職歴：平成8年4月東北大学大学院情報科学研究科助手、平成18年3月群馬大学工学部助教授、平成24年4月より群馬大学大学院理工学府教授

専門内容：計算困難問題に対する計算量の解析手法の開発、および、実験数学に基づく離散数理構造の解明など。

（2）受賞授業名

学生が履修した全ての科目（学生実験、卒業研究を含む）が対象授業である。主な担当科目として、「計算機システムⅠ、Ⅱ（3年前後期）」、「離散数学Ⅱ（2年後期）」などがある。

（3）授業の概要

学科の要請により、性格が大きく異なるいくつかの授業を担当している。例えば、「計算機システムⅠ、Ⅱ」においては、計算機アーキテクチャや計算機の効率的利用に必要な事柄等に関する実践的内容の授業を行っている（「計算機システムⅠ」については添付ポンチ絵参照）。「離散数学Ⅱ」においては、計算機の動作や設計のベースとなる離散的数理構造に関する理論的内容の授業を行っている。

（4）授業で学生に接する場合に留意している点 [実施要項第3（1）関連]

Mooc (Massive Online Open Course) 等のしくみによって、世界中の優れた講義がインターネットを通じて無償で手に入る時代にあっては、大学の授業の存在意義は、学生との双方向性にあると信じている。大学教員として目標としていることの一つは、学生個々が到達可能なできるだけ高いレベルへと届くようその手助けをすることである。もちろん、単独で行う授業で、実際に数十人の学生全てに同時に個別の指導をすることは不可能である。しかし、例えば、授業中教室を巡回し学生個々のレベルをすばやく察知しそれに応じた助言を与えることによって。あるいは、いくつかのレベルの練習問題を同時に提示し、個々のレベルに合ったものを重点的に考えてもらうことや、学生同士が教え教わりあう状態を作ることなどで、その幾らかは実現できるのではないかと考えている。教室にいる学生達が一端自発的に考え出した状態になってしまえば、もはや教員はほとんど不要であるとさえ思っていて、そのような雰囲気が上手に創り出せるよう心がけている。

（5）授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点 [実施要項第3（2）関連]

大学での学びは自由であるべきとの信念に立ち、学生の自由な発想が促されるような空間の提供を心がけている。また、まだ誰も答えを知らない問題に対して自身の全力をもって挑む、研究の楽しさが少しでも伝えられるよう心を配っている。教科書に載っているような、今となっては至極シンプルな知識も、例えば半世紀前には未知のことで、それを発見するに至った研究者達の感動の歴史があるはずである。その場に居合わせたとしたら感じられたであろうエキサイティングな気持ちを可能な限り追体験させてあげられたら、と願いながら授業をしている。例えば、理論的内容を扱う「離散数学Ⅱ」においては、一つ一つの内容は一見ドライな数式であることが多い。しかし、そこに込められたいろいろな意味や、その短い数式へと至った長い道のりを、できるだけ学生が発想できる余裕や手掛かりを与えながら一緒に考えることで、生きた授業が創り上げられるよう工夫している。

（6）授業で能動的な学修への学生の主体的な参加を取り入れた教授法（アクティブ・ラーニング）に取り組んでいる点 [実施要項第3（3）関連]

授業においては、できるだけ学生が主体となるように、あらかじめ準備した講義資料に忠実になり過ぎず、その場の空気を大事にすることを心がけている。上手く行かないことも多いのだけれど、可能な限り、学生との、あるいは、学生同士のディスカッション

から生まれる展開に添えるよう努力している。思い返すと、各学年数名という非常に小規模な小学校に通っていた頃に当時の「先生」方から受けた、超小規模校ゆえに可能であったろう教育スタイルが、今流行りのアクティブ・ラーニングそのものだったようにも思え、強い影響を受けている。なかなか難しいのだけれども、学生との「掛け合い」が楽しめるようになりたい、と願いながら授業を行っている。

(7) 意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点 [実施要項第3(4) 関連]

至極単純ではあるが、せめて大学生でいる間は学生達に学ぶことを楽しんで欲しいというのが一番の願いである。学生が楽しく学ぶ環境を提供するのには、教える側である自分達が楽しむことが大切だとも考えており、特に、自身の研究活動で得られた体験や感動を教育活動へフィードバックできるように心がけている。増えて行くばかりにも見える定型的な仕事にも、創造力を失わぬような柔軟さを持ちたいと願っている。昨今の大学を取り巻く状況に無意味に抗っているようにも思えるが、それでもやはり自由な学びの場を提供することを通じて、学び考えることの楽しさを学生達と共有したい、と強く願っている。

← → ↻ www.cs.gunma-u.ac.jp/~amano/lecture/sys116.html

計算機システム I (2016年)

(水曜5-6限(12:40~14:10 @総研304))

講義の概要:

コンピュータアーキテクチャの基礎について講義する。

下記教科書の第1~3章に沿って、実機での例を交えながら講義の予定。
(教科書の第4章は、後期の計算機システムIIで使用予定です)

教科書: [バターンソン, ヘネシー著, コンピュータの構成と設計\(第5版\)上巻](#) (日経BP社)

注: 昨年から、教科書が第5版になりました。購入の際は注意してください。先輩から加えて、授業中に適宜資料を配布します。

評価:

中間レポート + 期末試験 (期末試験の結果を重視します)

講義予定:

	日程	講義内容	教科書の範囲 (第5版)
第1回	4月13日	ガイダンス, イントロ	
第2回	4月20日	計算機の内部	1, 4~1, 5節



1980

2050?



2015

練習問題3

計算機システム I 5/25

```

andi $s1, $s0, 0x5555
srl $s0, $s0, 1
andi $s2, $s0, 0x5555
add $s0, $s1, $s2

andi $s1, $s0, 0x3333
srl $s0, $s0, 2
andi $s2, $s0, 0x3333
add $s0, $s1, $s2

andi $s1, $s0, 0x0f0f
srl $s0, $s0, 4
andi $s2, $s0, 0x0f0f
add $s0, $s1, $s2

andi $s1, $s0, 0x00ff
srl $s0, $s0, 8
andi $s2, $s0, 0x00ff
add $s0, $s1, $s2

```

初期値: \$s0 = 0xBEEF
出力 (\$s0) は??



平成28年度教養教育ベストティーチャー による公開授業開催について

平成28年度教養教育ベストティーチャー優秀賞を受賞された先生方の公開授業を下記のとおり実施します。

教職員・学生の皆さんの参加をお待ちしています。

記

教員名	授業題目	日時	教室
高江洲 俊光 (理工学府・講師)	線形代数学Ⅱ 微分積分学Ⅱ	10月12日(木)5・6限 10月16日(月)7・8限	教養教育棟 GB101 教養教育棟 GA302
山崎 法子 (教育学部・准教授)	合唱 合唱	10月 5日(木)7・8限 10月19日(木)7・8限	教育学部F棟 202大練習室
小林 正行 (教育学部・准教授)	日本語の歴史と現在 日本語の歴史と現在	10月17日(火)7・8限 10月31日(火)7・8限	教育学部N棟 119教室

※ 教室の入口に受付を用意しますので、受付名簿に記載の上、入室してください。

主催：大学教育センター

第8回全学FD連続講演会 「大学教育のグランドデザイン」の開催について

この全学FD連続講演会は、平成21年度から毎年開催しているものです。

今回は、京都大学高等教育研究開発推進センター准教授 山田剛史氏をお招きしてアクティブラーニング導入の背景や意義、様々な方法とその効用などについてご講演いただきます。

全学FDの一環として開催しますので、ぜひ参加してください。

記

日時 平成28年11月15日（火）13時00分～14時30分

場所 群馬大学事務局棟5階 大会議室（荒牧キャンパス）

テーマ 「学校から社会へのトランジションとアクティブラーニングの可能性」

予測困難な時代と称される21世紀社会に若者が力強く生きていくため、教育機関の在り方は激しく問われています。現在、大学教育の質的転換、大学入学者選抜の改革、そして高等学校教育の改革といった高大接続の一体的改革が急速に進められています。

その改革の中核に据えられているのがアクティブラーニング（AL）です。AL導入の背景や意義、様々な方法とその効用などについて、社会人や大学生のデータも交えながら紹介します。

講師 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授 山田剛史氏

日程 13:00 開会挨拶 理事(教育・企画・国際交流担当) 窪田健二

13:10～14:20 講演 京都大学高等教育研究開発推進センター
山田剛史 准教授

14:20～14:30 質疑応答

14:30 閉会挨拶 大学教育センター副センター長 高橋 浩

(司会：大学教育センター教育推進部会長 興石一郎)

主催：大学教育・学生支援機構 大学教育センター

資料6

平成28年度授業評価「(学びのリテラシー(1))」集計表

区分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	233	172	73.8
社会情報学部	102	84	82.4
医学部医学科	111	89	80.2
医学部保健学科	165	138	83.6
理工学部	543	512	94.3
合計	1,154	995	86.2

※評価基準 「1」あてはまる 「2」ややあてはまる 「3」あまりあてはまらない 「4」あてはまらない(以下 同様)

質問 1. この授業によって論理的思考力を身につけることができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	86	50.0	77	44.8	9	5.2	0	0.0	172	100.0
社会情報学部	0	0.0	13	15.5	55	65.5	13	15.5	3	3.6	84	100.0
医学部医学科	0	0.0	28	31.5	42	47.2	17	19.1	2	2.2	89	100.0
医学部保健学科	0	0.0	20	14.5	92	66.7	22	15.9	4	2.9	138	100.0
理工学部	0	0.0	136	26.6	293	57.2	61	11.9	22	4.3	512	100.0
全体	0	0.0	283	28.4	559	56.2	122	12.3	31	3.1	995	100.0

質問 2. この授業によってコミュニケーション能力を身につけることができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	72	42.4	81	47.6	14	8.2	3	1.8	170	100.0
社会情報学部	0	0.0	13	16.0	46	56.8	18	22.2	4	4.9	81	100.0
医学部医学科	0	0.0	18	20.7	36	41.4	28	32.2	5	5.7	87	100.0
医学部保健学科	0	0.0	19	13.8	82	59.4	30	21.7	7	5.1	138	100.0
理工学部	0	0.0	105	20.6	285	56.0	99	19.4	20	3.9	509	100.0
全体	0	0.0	227	23.0	530	53.8	189	19.2	39	4.0	985	100.0

質問 3. この授業によって表現力を高めることができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	74	43.0	88	51.2	10	5.8	0	0.0	172	100.0
社会情報学部	0	0.0	11	13.1	46	54.8	23	27.4	4	4.8	84	100.0
医学部医学科	0	0.0	28	31.5	39	43.8	21	23.6	1	1.1	89	100.0
医学部保健学科	0	0.0	23	16.7	82	59.4	27	19.6	6	4.3	138	100.0
理工学部	0	0.0	107	20.9	287	56.1	96	18.8	22	4.3	512	100.0
全体	0	0.0	243	24.4	542	54.5	177	17.8	33	3.3	995	100.0

質問 4. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	98	59.4	62	37.6	4	2.4	1	0.6	165	100.0
社会情報学部	0	0.0	34	42.0	40	49.4	5	6.2	2	2.5	81	100.0
医学部医学科	0	0.0	53	62.4	26	30.6	6	7.1	0	0.0	85	100.0
医学部保健学科	0	0.0	70	51.9	59	43.7	5	3.7	1	0.7	135	100.0
理工学部	0	0.0	201	39.6	247	48.7	52	10.3	7	1.4	507	100.0
全体	0	0.0	456	46.9	434	44.6	72	7.4	11	1.1	973	100.0

質問 5. この授業で情報収集や引用の方法について学ぶことができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	100	60.6	58	35.2	5	3.0	2	1.2	165	100.0
社会情報学部	0	0.0	24	29.6	48	59.3	8	9.9	1	1.2	81	100.0
医学部医学科	0	0.0	60	70.6	22	25.9	3	3.5	0	0.0	85	100.0
医学部保健学科	0	0.0	85	63.0	47	34.8	1	0.7	2	1.5	135	100.0
理工学部	0	0.0	182	35.9	264	52.1	52	10.3	9	1.8	507	100.0
全体	0	0.0	451	46.4	439	45.1	69	7.1	14	1.4	973	100.0

質問 6. この授業で大学での学習方法を修得できた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	57	33.1	99	57.6	15	8.7	1	0.6	172	100.0
社会情報学部	0	0.0	7	8.3	51	60.7	25	29.8	1	1.2	84	100.0
医学部医学科	0	0.0	25	28.1	37	41.6	22	24.7	5	5.6	89	100.0
医学部保健学科	0	0.0	27	19.6	75	54.3	29	21.0	7	5.1	138	100.0
理工学部	0	0.0	105	20.5	271	52.9	109	21.3	27	5.3	512	100.0
全体	0	0.0	221	22.2	533	53.6	200	20.1	41	4.1	995	100.0

質問 7. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	73	42.4	85	49.4	12	7.0	2	1.2	172	100.0
社会情報学部	0	0.0	9	10.7	45	53.6	25	29.8	5	6.0	84	100.0
医学部医学科	0	0.0	27	30.3	33	37.1	25	28.1	4	4.5	89	100.0
医学部保健学科	0	0.0	24	17.4	76	55.1	30	21.7	8	5.8	138	100.0
理工学部	0	0.0	103	20.1	239	46.7	126	24.6	44	8.6	512	100.0
全体	0	0.0	236	23.7	478	48.0	218	21.9	63	6.3	995	100.0

質問 8. 教室での討論は活発であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	74	43.0	77	44.8	14	8.1	7	4.1	172	100.0
社会情報学部	0	0.0	8	9.5	34	40.5	31	36.9	11	13.1	84	100.0
医学部医学科	0	0.0	26	29.2	41	46.1	17	19.1	5	5.6	89	100.0
医学部保健学科	0	0.0	16	11.6	75	54.3	39	28.3	8	5.8	138	100.0
理工学部	0	0.0	100	19.5	251	49.0	130	25.4	31	6.1	512	100.0
全体	0	0.0	224	22.5	478	48.0	231	23.2	62	6.2	995	100.0

質問 9. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	108	62.8	52	30.2	9	5.2	3	1.7	172	100.0
社会情報学部	0	0.0	13	15.5	43	51.2	22	26.2	6	7.1	84	100.0
医学部医学科	0	0.0	32	36.0	34	38.2	17	19.1	6	6.7	89	100.0
医学部保健学科	0	0.0	35	25.4	74	53.6	22	15.9	7	5.1	138	100.0
理工学部	0	0.0	142	27.7	229	44.7	111	21.7	30	5.9	512	100.0
全体	0	0.0	330	33.2	432	43.4	181	18.2	52	5.2	995	100.0

質問10. 宿題(課題)の内容や量は適切であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	69	40.1	77	44.8	23	13.4	3	1.7	172	100.0
社会情報学部	0	0.0	23	27.4	51	60.7	7	8.3	3	3.6	84	100.0
医学部医学科	0	0.0	24	27.0	36	40.4	26	29.2	3	3.4	89	100.0
医学部保健学科	0	0.0	29	21.0	70	50.7	35	25.4	4	2.9	138	100.0
理工学部	0	0.0	127	24.8	271	52.9	93	18.2	21	4.1	512	100.0
全体	0	0.0	272	27.3	505	50.8	184	18.5	34	3.4	995	100.0

質問11. グループワークの人数(グループワークを実施しなかった場合はクラスの数)は適切であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	122	70.9	46	26.7	2	1.2	2	1.2	172	100.0
社会情報学部	0	0.0	44	52.4	36	42.9	3	3.6	1	1.2	84	100.0
医学部医学科	0	0.0	51	57.3	33	37.1	3	3.4	2	2.2	89	100.0
医学部保健学科	0	0.0	83	60.1	52	37.7	3	2.2	0	0.0	138	100.0
理工学部	0	0.0	284	55.6	195	38.2	23	4.5	9	1.8	511	100.0
全体	0	0.0	584	58.8	362	36.4	34	3.4	14	1.4	994	100.0

質問12. 学部の専門教育を学ぶために必要な授業内容であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	82	47.7	71	41.3	16	9.3	3	1.7	172	100.0
社会情報学部	0	0.0	10	11.9	40	47.6	30	35.7	4	4.8	84	100.0
医学部医学科	0	0.0	37	41.6	34	38.2	15	16.9	3	3.4	89	100.0
医学部保健学科	0	0.0	36	26.1	80	58.0	18	13.0	4	2.9	138	100.0
理工学部	0	0.0	147	28.7	249	48.6	86	16.8	30	5.9	512	100.0
全体	0	0.0	312	31.4	474	47.6	165	16.6	44	4.4	995	100.0

質問13. 自分はこの授業に積極的に取り組んだ。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	88	51.2	76	44.2	7	4.1	1	0.6	172	100.0
社会情報学部	0	0.0	18	21.4	52	61.9	12	14.3	2	2.4	84	100.0
医学部医学科	0	0.0	43	48.3	38	42.7	8	9.0	0	0.0	89	100.0
医学部保健学科	0	0.0	51	37.0	73	52.9	12	8.7	2	1.4	138	100.0
理工学部	0	0.0	193	37.7	239	46.7	73	14.3	7	1.4	512	100.0
全体	0	0.0	393	39.5	478	48.0	112	11.3	12	1.2	995	100.0

質問14. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	91	52.9	75	43.6	6	3.5	0	0.0	172	100.0
社会情報学部	0	0.0	29	34.5	45	53.6	7	8.3	3	3.6	84	100.0
医学部医学科	0	0.0	42	47.2	39	43.8	7	7.9	1	1.1	89	100.0
医学部保健学科	0	0.0	47	34.1	79	57.2	11	8.0	1	0.7	138	100.0
理工学部	0	0.0	178	34.8	286	55.9	31	6.1	17	3.3	512	100.0
全体	0	0.0	387	38.9	524	52.7	62	6.2	22	2.2	995	100.0

質問15. この授業は教員による一方的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加(例えば、教室内のグループディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど)を取り入れた授業(アクティブ・ラーニング)であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	164	95.3	8	4.7	172	100.0
社会情報学部	0	0.0	75	89.3	9	10.7	84	100.0
医学部医学科	0	0.0	80	89.9	9	10.1	89	100.0
医学部保健学科	0	0.0	126	91.3	12	8.7	138	100.0
理工学部	0	0.0	453	88.5	59	11.5	512	100.0
全 体	0	0.0	898	90.3	97	9.7	995	100.0

※評価基準 1「あてはまる」 2「あてはまらない」

資料7

平成28年度授業評価「(学びのリテラシー(2))」集計表

区 分	対象者数	回答者数	回答率 (%)
教育学部	230	107	46.5
社会情報学部	98	72	73.5
医学部医学科	110	59	53.6
医学部保健学科	166	79	47.6
理工学部	544	377	69.3
合 計	1,148	694	60.5

※評価基準 1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」(以下 同様)

質問 1. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	65	60.7	32	29.9	7	6.5	3	2.8	107	100.0
社会情報学部	40	55.6	27	37.5	4	5.6	1	1.4	72	100.0
医学部医学科	35	59.3	19	32.2	4	6.8	1	1.7	59	100.0
医学部保健学科	33	41.8	42	53.2	4	5.1	0	0.0	79	100.0
理工学部	181	48.0	164	43.5	23	6.1	9	2.4	377	100.0
全 体	354	51.0	284	40.9	42	6.1	14	2.0	694	100.0

質問 2. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	57	53.3	44	41.1	4	3.7	2	1.9	107	100.0
社会情報学部	45	62.5	23	31.9	3	4.2	1	1.4	72	100.0
医学部医学科	29	49.2	26	44.1	3	5.1	1	1.7	59	100.0
医学部保健学科	42	53.2	33	41.8	2	2.5	2	2.5	79	100.0
理工学部	200	53.1	155	41.1	17	4.5	5	1.3	377	100.0
全 体	373	53.7	281	40.5	29	4.2	11	1.6	694	100.0

質問 3. 教室での討論は活発であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%								
教育学部	39	36.4	31	29.0	25	23.4	12	11.2	107	100.0
社会情報学部	26	36.1	25	34.7	17	23.6	4	5.6	72	100.0
医学部医学科	23	39.0	17	28.8	14	23.7	5	8.5	59	100.0
医学部保健学科	20	25.3	27	34.2	21	26.6	11	13.9	79	100.0
理工学部	144	38.2	127	33.7	82	21.8	24	6.4	377	100.0
全体	252	36.3	227	32.7	159	22.9	56	8.1	694	100.0

質問 4. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%								
教育学部	51	47.7	28	26.2	20	18.7	8	7.5	107	100.0
社会情報学部	39	54.2	23	31.9	5	6.9	5	6.9	72	100.0
医学部医学科	34	57.6	12	20.3	6	10.2	7	11.9	59	100.0
医学部保健学科	28	35.4	23	29.1	19	24.1	9	11.4	79	100.0
理工学部	189	50.1	109	28.9	67	17.8	12	3.2	377	100.0
全体	341	49.1	195	28.1	117	16.9	41	5.9	694	100.0

質問 5. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%								
教育学部	39	36.4	43	40.2	18	16.8	7	6.5	107	100.0
社会情報学部	18	25.0	28	38.9	17	23.6	9	12.5	72	100.0
医学部医学科	21	35.6	20	33.9	14	23.7	4	6.8	59	100.0
医学部保健学科	25	31.6	33	41.8	15	19.0	6	7.6	79	100.0
理工学部	121	32.1	157	41.6	76	20.2	23	6.1	377	100.0
全体	224	32.3	281	40.5	140	20.2	49	7.1	694	100.0

質問 6. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生との対応は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	71	66.4	29	27.1	5	4.7	2	1.9	107	100.0
社会情報学部	46	63.9	24	33.3	2	2.8	0	0.0	72	100.0
医学部医学科	35	59.3	22	37.3	2	3.4	0	0.0	59	100.0
医学部保健学科	48	60.8	28	35.4	3	3.8	0	0.0	79	100.0
理工学部	225	59.7	133	35.3	16	4.2	3	0.8	377	100.0
全体	425	61.2	236	34.0	28	4.0	5	0.7	694	100.0

質問 7. 希望した科目を選ぶことができた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	64	59.8	28	26.2	10	9.3	5	4.7	107	100.0
社会情報学部	43	59.7	17	23.6	8	11.1	4	5.6	72	100.0
医学部医学科	37	62.7	15	25.4	6	10.2	1	1.7	59	100.0
医学部保健学科	44	55.7	25	31.6	7	8.9	3	3.8	79	100.0
理工学部	203	53.8	115	30.5	32	8.5	27	7.2	377	100.0
全体	391	56.3	200	28.8	63	9.1	40	5.8	694	100.0

質問 8. クラスの人数は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	81	75.7	21	19.6	4	3.7	1	0.9	107	100.0
社会情報学部	52	72.2	16	22.2	3	4.2	1	1.4	72	100.0
医学部医学科	42	71.2	14	23.7	2	3.4	1	1.7	59	100.0
医学部保健学科	57	72.2	21	26.6	1	1.3	0	0.0	79	100.0
理工学部	268	71.1	95	25.2	12	3.2	2	0.5	377	100.0
全体	500	72.0	167	24.1	22	3.2	5	0.7	694	100.0

質問 9. 教室の環境は適切であった。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	63	58.9	35	32.7	5	4.7	4	3.7	107	100.0
社会情報学部	49	68.1	15	20.8	7	9.7	1	1.4	72	100.0
医学部医学科	34	57.6	18	30.5	5	8.5	2	3.4	59	100.0
医学部保健学科	43	54.4	30	38.0	6	7.6	0	0.0	79	100.0
理工学部	228	60.5	122	32.4	20	5.3	7	1.9	377	100.0
全 体	417	60.1	220	31.7	43	6.2	14	2.0	694	100.0

質問 10. この授業は教員による一方向的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加（例えば、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど）を取り入れた授業（アクティブ・ラーニング）であった。

区 分	「1」		「2」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	86	80.4	21	19.6	107	100.0
社会情報学部	61	84.7	11	15.3	72	100.0
医学部医学科	47	79.7	12	20.3	59	100.0
医学部保健学科	56	70.9	23	29.1	79	100.0
理工学部	310	82.2	67	17.8	377	100.0
全 体	560	80.7	134	19.3	694	100.0

※評価基準 1「あてはまる」 2「あてはまらない」

質問 11. 【その他自由記述欄】

区 分	記入有り「1」		記入なし「0」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	19	17.8	88	82.2	107	100.0
社会情報学部	6	8.3	66	91.7	72	100.0
医学部医学科	13	22.0	46	78.0	59	100.0
医学部保健学科	7	8.9	72	91.1	79	100.0
理工学部	76	20.2	301	79.8	377	100.0
全 体	121	17.4	573	82.6	694	100.0

平成28年度授業評価「情報」集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	233	138	59.2
社会情報学部	104	85	81.7
医学部医学科	109	90	82.6
医学部保健学科	166	78	47.0
理工学部	544	506	93.0
合 計	1,156	897	77.6

※評価基準 1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」(以下 同様)

あなたが本年度受講した「情報」の授業についてお尋ねします。

質問 1. コンピュータやインターネットの基礎知識を修得できた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	72	52.2	64	46.4	1	0.7	1	0.7	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	25	29.4	53	62.4	4	4.7	3	3.5	85	100.0
医学部医学科	0	0.0	24	26.7	44	48.9	16	17.8	6	6.7	90	100.0
医学部保健学科	0	0.0	45	57.7	30	38.5	3	3.8	0	0.0	78	100.0
理工学部	0	0.0	248	49.0	225	44.5	22	4.3	11	2.2	506	100.0
全 体	0	0.0	414	46.2	416	46.4	46	5.1	21	2.3	897	100.0

質問 2. コンピュータの活用能力を高めることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	71	51.4	61	44.2	3	2.2	3	2.2	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	30	35.3	51	60.0	2	2.4	2	2.4	85	100.0
医学部医学科	0	0.0	29	32.2	40	44.4	16	17.8	5	5.6	90	100.0
医学部保健学科	0	0.0	35	44.9	39	50.0	4	5.1	0	0.0	78	100.0
理工学部	0	0.0	242	47.8	227	44.9	24	4.7	13	2.6	506	100.0
全 体	0	0.0	407	45.4	418	46.6	49	5.5	23	2.6	897	100.0

質問 3. 情報倫理に関する知識・態度を身につけることができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	65	47.1	67	48.6	6	4.3	0	0.0	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	25	29.4	49	57.6	9	10.6	2	2.4	85	100.0
医学部医学科	0	0.0	33	36.7	45	50.0	10	11.1	2	2.2	90	100.0
医学部保健学科	0	0.0	30	38.5	39	50.0	9	11.5	0	0.0	78	100.0
理工学部	0	0.0	190	37.5	262	51.8	43	8.5	11	2.2	506	100.0
全体	0	0.0	343	38.2	462	51.5	77	8.6	15	1.7	897	100.0

質問 4. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	43	31.2	79	57.2	14	10.1	2	1.4	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	6	7.1	31	36.5	34	40.0	14	16.5	85	100.0
医学部医学科	0	0.0	19	21.1	22	24.4	34	37.8	15	16.7	90	100.0
医学部保健学科	0	0.0	16	20.5	48	61.5	11	14.1	3	3.8	78	100.0
理工学部	0	0.0	136	26.9	245	48.4	98	19.4	27	5.3	506	100.0
全体	0	0.0	220	24.5	425	47.4	191	21.3	61	6.8	897	100.0

質問 5. シラバスの記述は、授業の進行に沿った適切なものであった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	53	38.4	79	57.2	6	4.3	0	0.0	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	26	30.6	49	57.6	6	7.1	4	4.7	85	100.0
医学部医学科	0	0.0	33	36.7	45	50.0	11	12.2	1	1.1	90	100.0
医学部保健学科	0	0.0	33	42.3	45	57.7	0	0.0	0	0.0	78	100.0
理工学部	0	0.0	225	44.5	239	47.2	32	6.3	10	2.0	506	100.0
全体	0	0.0	370	41.2	457	50.9	55	6.1	15	1.7	897	100.0

質問 6. 教員やTAの教え方は、よく配慮されており適切なものであった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	56	40.6	69	50.0	12	8.7	1	0.7	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	6	7.1	26	30.6	33	38.8	20	23.5	85	100.0
医学部医学科	0	0.0	20	22.2	44	48.9	23	25.6	3	3.3	90	100.0
医学部保健学科	0	0.0	25	32.1	37	47.4	11	14.1	5	6.4	78	100.0
理工学部	0	0.0	158	31.2	230	45.5	82	16.2	36	7.1	506	100.0
全体	0	0.0	265	29.5	406	45.3	161	17.9	65	7.2	897	100.0

質問 7. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	54	39.1	65	47.1	15	10.9	4	2.9	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	17	20.0	41	48.2	14	16.5	13	15.3	85	100.0
医学部医学科	0	0.0	36	40.0	43	47.8	8	8.9	3	3.3	90	100.0
医学部保健学科	0	0.0	41	52.6	34	43.6	3	3.8	0	0.0	78	100.0
理工学部	0	0.0	199	39.3	250	49.4	44	8.7	13	2.6	506	100.0
全体	0	0.0	347	38.7	433	48.3	84	9.4	33	3.7	897	100.0

質問 8. クラスの人数は適切であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	74	53.6	52	37.7	11	8.0	1	0.7	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	29	34.1	44	51.8	11	12.9	1	1.2	85	100.0
医学部医学科	0	0.0	46	51.1	38	42.2	6	6.7	0	0.0	90	100.0
医学部保健学科	0	0.0	54	69.2	24	30.8	0	0.0	0	0.0	78	100.0
理工学部	0	0.0	269	53.2	183	36.2	42	8.3	12	2.4	506	100.0
全体	0	0.0	472	52.6	341	38.0	70	7.8	14	1.6	897	100.0

質問 9. 教室の環境は適切であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	74	53.6	58	42.0	5	3.6	1	0.7	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	24	28.2	42	49.4	17	20.0	2	2.4	85	100.0
医学部医学科	0	0.0	58	64.4	28	31.1	3	3.3	1	1.1	90	100.0
医学部保健学科	0	0.0	53	67.9	23	29.5	2	2.6	0	0.0	78	100.0
理工学部	0	0.0	256	50.6	201	39.7	36	7.1	13	2.6	506	100.0
全体	0	0.0	465	51.8	352	39.2	63	7.0	17	1.9	897	100.0

質問10.もっと高度な内容を学びたかった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	17	12.3	28	20.3	66	47.8	27	19.6	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	4	4.7	16	18.8	47	55.3	18	21.2	85	100.0
医学部医学科	0	0.0	8	8.9	9	10.0	45	50.0	28	31.1	90	100.0
医学部保健学科	0	0.0	4	5.1	13	16.7	37	47.4	24	30.8	78	100.0
理工学部	0	0.0	80	15.8	137	27.1	216	42.7	73	14.4	506	100.0
全体	0	0.0	113	12.6	203	22.6	411	45.8	170	19.0	897	100.0

平成28年度教養教育アンケート集計表

区 分	対象者数	回答数	回答率 (%)
教育学部	230	102	44.3
社会情報学部	98	58	59.2
医学部医学科	110	58	52.7
医学部保健学科	166	85	51.2
理工学部	544	360	66.2
合 計	1,148	663	57.8

以下の質問項目について、該当するものを選択してください。

設問1 所属学部

設問2 教養教育のカリキュラム(授業科目のメニュー、時間割、授業内容)についてどう感じましたか。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	29	28.4	56	54.9	14	13.7	2	2.0	1	1.0	102	100.0
社会情報学部	19	32.8	27	46.6	9	15.5	3	5.2	0	0.0	58	100.0
医学部医学科	13	22.4	26	44.8	13	22.4	1	1.7	5	8.6	58	100.0
医学部保健学科	14	16.5	57	67.1	13	15.3	1	1.2	0	0.0	85	100.0
理工学部	103	28.6	178	49.4	58	16.1	13	3.6	8	2.2	360	100.0
合 計	178	26.8	344	51.9	107	16.1	20	3.0	14	2.1	663	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問3 教養教育における教員の授業の教え方について、全体的にみてどう感じましたか。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	24	23.5	53	52.0	22	21.6	2	2.0	1	1.0	102	100.0
社会情報学部	10	17.2	29	50.0	13	22.4	6	10.3	0	0.0	58	100.0
医学部医学科	9	15.5	21	36.2	16	27.6	7	12.1	5	8.6	58	100.0
医学部保健学科	16	18.8	45	52.9	23	27.1	1	1.2	0	0.0	85	100.0
理工学部	94	26.1	175	48.6	62	17.2	21	5.8	8	2.2	360	100.0
合 計	153	23.1	323	48.7	136	20.5	37	5.6	14	2.1	663	100.0

* 「1」：大変満足している 「2」：少し満足している 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり満足していない 「5」：満足していない

設問4 事務窓口（各学部）の対応についてはどう感じましたか。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%										
教育学部	30	29.4	36	35.3	33	32.4	2	2.0	1	1.0	102	100.0
社会情報学部	14	24.1	15	25.9	23	39.7	4	6.9	2	3.4	58	100.0
医学部医学科	9	15.5	19	32.8	17	29.3	6	10.3	7	12.1	58	100.0
医学部保健学科	22	25.9	32	37.6	29	34.1	0	0.0	2	2.4	85	100.0
理工学部	56	15.6	98	27.2	149	41.4	32	8.9	25	6.9	360	100.0
合計	131	19.8	200	30.2	251	37.9	44	6.6	37	5.6	663	100.0

* 「1」：大変満足している 「2」：少し満足している 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり満足していない 「5」：満足していない

設問5 事務窓口（学生センター）の対応についてはどう感じましたか。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%										
教育学部	19	18.6	28	27.5	41	40.2	8	7.8	6	5.9	102	100.0
社会情報学部	13	22.4	13	22.4	21	36.2	5	8.6	6	10.3	58	100.0
医学部医学科	3	18.0	18	31.0	17	29.3	8	13.8	12	20.7	58	100.0
医学部保健学科	14	16.5	23	27.1	36	42.4	7	8.2	5	5.9	85	100.0
理工学部	56	15.6	99	27.5	118	32.8	49	13.6	38	10.6	360	100.0
合計	105	15.8	181	27.3	233	35.1	77	11.6	67	10.1	663	100.0

* 「1」：大変満足している 「2」：少し満足している 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり満足していない 「5」：満足していない

設問6 教養教育GB棟1階の学習スペースはよく利用しましたか。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	10	9.8	27	26.5	9	8.8	32	31.4	24	23.5	102	100.0
社会情報学部	6	10.3	17	29.3	5	8.6	9	15.5	21	36.2	58	100.0
医学部医学科	8	13.8	25	43.1	2	3.4	11	19.0	12	20.7	58	100.0
医学部保健学科	11	12.9	34	40.0	7	8.2	16	18.8	17	20.0	85	100.0
理工学部	61	16.9	121	33.6	29	8.1	75	20.8	74	20.6	360	100.0
合計	96	14.5	224	33.8	52	7.8	143	21.6	148	22.3	663	100.0

* 「1」：よく利用している 「2」：ときどき利用している 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり利用していない 「5」：利用していない

設問7 学生支援体制についてはどう感じましたか。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	15	14.7	36	35.3	44	43.1	6	5.9	1	1.0	102	100.0
社会情報学部	7	12.1	19	32.8	24	41.4	7	12.1	1	1.7	58	100.0
医学部医学科	8	13.8	14	24.1	28	48.3	5	8.6	3	5.2	58	100.0
医学部保健学科	12	14.1	27	31.8	44	51.8	1	1.2	1	1.2	85	100.0
理工学部	47	13.1	115	31.9	152	42.2	34	9.4	12	3.3	360	100.0
合計	89	13.4	211	31.8	292	44.0	53	8.0	18	2.7	663	100.0

* 「1」：大変満足している 「2」：少し満足している 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり満足していない 「5」：満足していない

設問8 入学時に行った全学オリエンテーション（学園生活、教養教育、図書館、パソコン利用、健康支援総合センター、教務システム操作説明）についてどう感じましたか。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	30	29.4	43	42.2	23	22.5	6	5.9	0	0.0	102	100.0
社会情報学部	22	37.9	18	31.0	9	15.5	7	12.1	2	3.4	58	100.0
医学部医学科	19	32.8	21	36.2	12	20.7	4	6.9	2	3.4	58	100.0
医学部保健学科	20	23.5	44	51.8	19	22.4	1	1.2	1	1.2	85	100.0
理工学部	113	31.4	154	42.8	63	17.5	21	5.8	9	2.5	360	100.0
合計	204	30.8	280	42.2	126	19.0	39	5.9	14	2.1	663	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問9 授業のシラバスはよく利用しましたか。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	11	10.8	79	77.5	11	10.8	1	1.0	102	100.0
社会情報学部	7	12.1	43	74.1	8	13.8	0	0.0	58	100.0
医学部医学科	14	24.1	28	48.3	13	22.4	3	5.2	58	100.0
医学部保健学科	11	12.9	68	80.0	5	5.9	1	1.2	85	100.0
理工学部	64	17.8	248	68.9	35	9.7	13	3.6	360	100.0
合計	107	16.1	466	70.3	72	10.9	18	2.7	663	100.0

* 「1」：授業の内容や進度の確認などに学期中何度も見た 「2」：履修登録をするときなどには参考にした
「3」：ほとんど見なかった 「4」：一度も見なかった

設問 1 0 入学時に配付した教養教育の「授業案内」「履修手引」等は役立ちましたか。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	42	41.2	51	50.0	6	5.9	3	2.9	0	0.0	102	100.0
社会情報学部	28	48.3	19	32.8	7	12.1	3	5.2	1	1.7	58	100.0
医学部医学科	19	32.8	23	39.7	10	17.2	3	5.2	3	5.2	58	100.0
医学部保健学科	37	43.5	39	45.9	8	9.4	1	1.2	0	0.0	85	100.0
理工学部	145	40.3	147	40.8	45	12.5	14	3.9	9	2.5	360	100.0
合計	271	40.9	279	42.1	76	11.5	24	3.6	13	2.0	663	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問 1 1 大学における履修科目の1日あたりの授業時間（実時間）はどれくらいですか。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%										
教育学部	3	2.9	22	21.6	7	6.9	24	23.5	46	45.1	102	100.0
社会情報学部	7	12.1	11	19.0	6	10.3	17	29.3	17	29.3	58	100.0
医学部医学科	5	8.6	7	12.1	4	6.9	20	34.5	22	37.9	58	100.0
医学部保健学科	3	3.5	22	25.9	19	22.4	27	31.8	14	16.5	85	100.0
理工学部	28	7.8	90	25.0	55	15.3	90	25.0	97	26.9	360	100.0
合計	46	6.9	152	22.9	91	13.7	178	26.8	196	29.6	663	100.0

* 「1」：1時間未満 「2」：1時間以上2時間未満 「3」：2時間以上3時間未満
「4」：3時間以上4時間未満 「5」：4時間以上

設問 1 2 大学における履修科目の授業に対する1日あたりの予習・復習時間はどれくらいですか。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	69	67.6	29	28.4	3	2.9	0	0.0	1	1.0	102	100.0
社会情報学部	36	62.1	20	34.5	1	1.7	0	0.0	1	1.7	58	100.0
医学部医学科	43	74.1	12	20.7	3	5.2	0	0.0	0	0.0	58	100.0
医学部保健学科	58	68.2	23	27.1	4	4.7	0	0.0	0	0.0	85	100.0
理工学部	160	44.4	150	41.7	36	10.0	11	3.1	3	0.8	360	100.0
合計	366	55.2	234	35.3	47	7.1	11	1.7	5	0.8	663	100.0

* 「1」：1時間未満 「2」：1時間以上2時間未満 「3」：2時間以上3時間未満
「4」：3時間以上4時間未満 「5」：4時間以上

設問 1 3 大学における履修科目以外での課外時間における1日当たり学習（資格取得・自己研鑽など）時間はどれくらいですか。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	71	69.6	25	24.5	4	3.9	1	1.0	1	1.0	102	100.0
社会情報学部	44	75.9	11	19.0	3	5.2	0	0.0	0	0.0	58	100.0
医学部医学科	46	79.3	6	10.3	2	3.4	2	3.4	2	3.4	58	100.0
医学部保健学科	66	77.6	15	17.6	3	3.5	0	0.0	1	1.2	85	100.0
理工学部	236	65.6	91	25.3	25	6.9	3	0.8	5	1.4	360	100.0
合計	463	69.8	148	22.3	37	5.6	6	0.9	9	1.4	663	100.0

* 「1」：1時間未満 「2」：1時間以上2時間未満 「3」：2時間以上3時間未満
「4」：3時間以上4時間未満 「5」：4時間以上

設問 1 4 総合的に考えて、本学の教養教育に満足していますか。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	21	20.6	52	51.0	22	21.6	4	3.9	3	2.9	102	100.0
社会情報学部	6	10.3	34	58.6	12	20.7	4	6.9	2	3.4	58	100.0
医学部医学科	9	15.5	18	31.0	12	20.7	14	24.1	5	8.6	58	100.0
医学部保健学科	12	14.1	47	55.3	22	25.9	3	3.5	1	1.2	85	100.0
理工学部	70	19.4	173	48.1	75	20.8	31	8.6	11	3.1	360	100.0
合計	118	17.8	324	48.9	143	21.6	56	8.4	22	3.3	663	100.0

* 「1」：大変満足している 「2」：少し満足している 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり満足していない 「5」：満足していない

以下の授業科目および学部別科目について、履修してみてくださいか。

設問 1 5 学びのリテラシー (1)

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	57	55.9	38	37.3	5	4.9	1	1.0	1	1.0	102	100.0
社会情報学部	16	27.6	26	44.8	12	20.7	3	5.2	1	1.7	58	100.0
医学部医学科	16	27.6	21	36.2	10	17.2	8	13.8	3	5.2	58	100.0
医学部保健学科	29	34.1	38	44.7	13	15.3	4	4.7	1	1.2	85	100.0
理工学部	113	31.4	157	43.6	47	13.1	30	8.3	13	3.6	360	100.0
合計	231	34.8	280	42.2	87	13.1	46	6.9	19	2.9	663	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問 1 6 学びのリテラシー (2)

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	38	37.3	43	42.2	12	11.8	5	4.9	4	3.9	102	100.0
社会情報学部	21	36.2	24	41.4	8	13.8	3	5.2	2	3.4	58	100.0
医学部医学科	15	25.9	25	43.1	12	20.7	2	3.4	4	6.9	58	100.0
医学部保健学科	24	28.2	41	48.2	15	17.6	4	4.7	1	1.2	85	100.0
理工学部	123	34.2	157	43.6	54	15.0	13	3.6	13	3.6	360	100.0
合計	221	33.3	290	43.7	101	15.2	27	4.1	24	3.6	663	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問 1 7 情報

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	35	34.3	52	51.0	12	11.8	0	0.0	3	2.9	102	100.0
社会情報学部	19	32.8	26	44.8	9	15.5	2	3.4	2	3.4	58	100.0
医学部医学科	5	8.6	28	48.3	11	19.0	10	17.2	4	6.9	58	100.0
医学部保健学科	36	42.4	35	41.2	9	10.6	4	4.7	1	1.2	85	100.0
理工学部	113	31.4	173	48.1	52	14.4	13	3.6	9	2.5	360	100.0
合計	208	31.4	314	47.4	93	14.0	29	4.4	19	2.9	663	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問 1 8 就業力（理工学部・社会情報学部のみ回答）

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
社会情報学部	11	19.0	21	36.2	17	29.3	8	13.8	1	1.7	58	100.0
理工学部	84	23.3	158	43.9	72	20.0	28	7.8	18	5.0	360	100.0
合計	95	22.7	179	42.8	89	21.3	36	8.6	19	4.5	418	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問 1 9 人文科学科目群

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%										
教育学部	25	24.5	55	53.9	17	16.7	3	2.9	2	2.0	102	100.0
社会情報学部	12	20.7	28	48.3	16	27.6	0	0.0	2	3.4	58	100.0
医学部医学科	14	24.1	20	34.5	9	9.0	9	15.5	6	10.3	58	100.0
医学部保健学科	19	22.4	40	47.1	20	23.5	5	5.9	1	1.2	85	100.0
理工学部	83	23.1	156	43.3	82	22.8	21	5.8	18	5.0	360	100.0
合計	153	23.1	299	45.1	144	21.7	38	5.7	29	4.4	663	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問 2 0 社会科学科目群

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%										
教育学部	20	19.6	59	57.8	17	16.7	6	5.9	0	0.0	102	100.0
社会情報学部	15	25.9	27	46.6	13	22.4	2	3.4	1	1.7	58	100.0
医学部医学科	10	17.2	19	32.8	13	22.4	9	15.5	7	12.1	58	100.0
医学部保健学科	17	20.0	45	52.9	19	22.4	3	3.5	1	1.2	85	100.0
理工学部	87	24.2	159	44.2	82	22.8	16	4.4	16	4.4	360	100.0
合計	149	22.5	309	46.6	144	21.7	36	5.4	25	3.8	663	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問 2 1 自然科学科目群

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	25	24.5	52	51.0	20	19.6	5	4.9	0	0.0	102	100.0
社会情報学部	8	13.8	21	36.2	21	36.2	4	6.9	4	6.9	58	100.0
医学部医学科	15	25.9	23	39.7	8	13.8	8	13.8	4	6.9	58	100.0
医学部保健学科	15	17.6	39	45.9	25	29.4	5	5.9	1	1.2	85	100.0
理工学部	91	25.3	142	39.4	108	30.0	10	2.8	9	2.5	360	100.0
合計	154	23.2	277	41.8	182	27.5	32	4.8	18	2.7	663	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問 2 2 健康科学科目群

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	41	40.2	50	49.0	8	7.8	2	2.0	1	1.0	102	100.0
社会情報学部	14	24.1	24	41.4	16	27.6	1	1.7	3	5.2	58	100.0
医学部医学科	17	29.3	23	39.7	9	15.5	5	8.6	4	6.9	58	100.0
医学部保健学科	25	29.4	37	43.5	20	23.5	2	2.4	1	1.2	85	100.0
理工学部	89	24.7	138	38.3	113	31.4	10	2.8	10	2.8	360	100.0
合計	186	28.1	272	41.0	166	25.0	20	3.0	19	2.9	663	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問 2 3 外国語教養科目群（履修者のみ回答）

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	32	32.3	55	55.6	10	10.1	0	0.0	2	2.0	99	100.0
社会情報学部	18	31.6	29	50.9	6	10.5	2	3.5	2	3.5	57	100.0
医学部医学科	12	20.7	22	37.9	11	19.0	8	13.8	5	8.6	58	100.0
医学部保健学科	19	27.5	30	43.5	14	20.3	3	4.3	3	4.3	69	100.0
理工学部	76	26.4	96	33.3	95	33.0	7	2.4	14	4.9	288	100.0
合計	157	27.5	232	40.6	136	23.8	20	3.5	26	4.6	571	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問 2 4 総合科目群

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%										
教育学部	29	28.4	52	51.0	18	17.6	3	2.9	0	0.0	102	100.0
社会情報学部	19	32.8	24	41.4	13	22.4	1	1.7	1	1.7	58	100.0
医学部医学科	9	15.5	19	32.8	16	27.6	7	12.1	7	12.1	58	100.0
医学部保健学科	26	30.6	38	44.7	19	22.4	2	2.4	0	0.0	85	100.0
理工学部	110	30.6	163	45.3	72	20.0	6	1.7	9	2.5	360	100.0
合 計	193	29.1	296	44.6	138	20.8	19	2.9	17	2.6	663	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

設問 2 5 学部別科目（医学部・理工学部のみ回答）

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
医学部医学科	27	46.6	24	41.4	7	12.1	0	0.0	0	0.0	58	100.0
医学部保健学科	41	48.2	37	43.5	7	8.2	0	0.0	0	0.0	85	100.0
理工学部	148	41.1	147	40.8	54	15.0	6	1.7	5	1.4	360	100.0
合 計	216	42.9	208	41.4	68	13.5	6	1.2	5	1.0	503	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない
「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

3 学生支援センター

学生支援センターは、学生生活及び就職活動に対する支援、修学に係る相談等を行っている。運営に当たり委員会を置き、各学部等から委員が選出されている。審議内容等は、学生相談、生活支援及び就職支援等である。当該支援業務の事務は、学生支援課が各学部の学生支援担当係と連携を図り行っている。平成28年度の主な支援等の事項は、次のとおりである。

3.1 入学料免除及び徴収猶予

入学料について、学部生においては、特別な事情（学資負担者が1年以内に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合をいう。）により納入が著しく困難な場合について、また、大学院生、専攻科生においては、経済的理由により納入が困難、かつ、学業優秀と認められる場合又は特別な事情により納入が著しく困難な場合について、修学を支援するため、免除及び徴収猶予を行っている。

また、東日本大震災により罹災したことに伴う経済的理由により納入が著しく困難な場合について、免除を行っている。

3.1.1 免除申請者数、免除者数

平成28年度入学料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである（詳細は資料3-1-1のとおり）。

4月1日入学：免除申請者数 130人、免除者数 105人

10月1日入学：免除申請者数 8人、免除者数 8人

3.1.2 徴収猶予申請者数、徴収猶予者数

平成28年度入学料徴収猶予申請者数、徴収猶予者数は、次のとおりである（詳細は資料3-1-2のとおり）。

4月1日入学：徴収猶予申請者数 33人、徴収猶予者数 27人

10月1日入学：徴収猶予申請者数 0人、徴収猶予者数 0人

3.2 授業料免除及び徴収猶予

経済的理由により納入が困難、かつ、学業優秀と認められる学生又は特別な事情（学資負担者が納入期限の6ヶ月以内（入学者については、入学前1年以内。）に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合をいう。）により納入が著しく困難な場合について、修学を支援するため、免除及び徴収猶予を行っている。

また、東日本大震災により罹災したことに伴う経済的理由により納入が著しく困難な場合について、又は学部生及び大学院（修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程）に在籍する、成績が特に優秀な学生を対象として、免除を行っている。

3.2.1 免除申請者数、免除者数

平成28年度授業料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである（詳細は資料3-2-1のとおり）。

前期：免除申請者数 754人、免除者数 648人

後期：免除申請者数 775人、免除者数 697人

3.2.2 徴収猶予申請者数、徴収猶予者数

平成28年度授業料徴収猶予申請者、徴収猶予者数は、次のとおりである（詳細は資料3-2-2

のとおり)。

前期：徴収猶予申請者数 0人，徴収猶予者数 0人

後期：徴収猶予申請者数 0人，徴収猶予者数 0人

3.3 寄宿料免除

本学では，学生本人又は学資負担者が風水害等の災害を受け，納入が著しく困難と認められる場合，免除を行っている。

3.3.1 免除申請者数，免除者数

平成28年度寄宿料免除申請者数，免除者数は，次のとおりである。

免除申請者数 0人，免除者数 0人

3.4 奨学金

本学では，日本学生支援機構の奨学金と地方公共団体や民間奨学団体から本学に募集依頼のあった奨学金を扱っている。これらの奨学金は，いずれも学業・人物ともに優秀であり，かつ健康であって経済的理由により学資の支弁が困難であると認められた者が対象となる。

なお，日本学生支援機構の奨学金には，無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金があり，いずれも貸与終了後には，返還が必要となる。

3.4.1 日本学生支援機構奨学生数（平成28年10月1日現在）

第一種：学部生 1,001人，大学院生 301人

第二種：学部生 931人，大学院生 44人

（詳細は資料3-3のとおり：「学部生」には，専攻科生を含む。）

3.4.2 日本学生支援機構以外の奨学生数（平成28年10月1日現在）

学部生 71人，大学院生 21人

（「学部生」には，専攻科生を含む。人数は，延べ人数でカウント。）

3.5 学生相談体制及び学生相談

本学は，次のような学生相談体制を設け，学生の個人的な問題や悩みごとについての相談に応じている。

3.5.1 学生相談体制

全学の学生を対象に荒牧キャンパスに学生相談室を，また，理工学部の学生を対象に桐生キャンパスに学生相談室分室を設けて相談に応じている。

3.5.2 主な相談事項

主な相談事項は，勉学・進路・就職活動，メンタルヘルス，クラブ・サークル活動，経済的事情・アルバイト，対人関係についてなどである。

3.5.3 学生相談実態調査アンケートの実施及び活用

平成28年12月に助教以上の専任教員に対して，平成28年1月1日から平成28年12月31日までの間に学生から相談のあった内容や各教員の対応について「学生相談実態調査アンケート」を実施し，回収率は49.77%であった。

なお、各教員が個々の相談事例にどのように対処したのかの内容を報告書にまとめ、全教員に配付し学生指導に活用している。

3.6 授業欠席状況調査

欠席状況調査は、授業への受講状況を通して本学学生の学業意欲を調査し、精神面の障害や不健康状態にある者を早期に発見して、面談等により本人へ適切な指導を与えることを目的としている。

3.6.1 授業欠席者数及び主な欠席理由

平成28年度前期欠席者数：21名（詳細は資料3-4のとおり）

主な欠席理由：早朝に授業があるため寝坊、精神的な悩み、身体的病気怪我、進路の迷い等
平成28年度後期欠席者数：47名（詳細は資料のとおり）

主な欠席理由：早朝に授業があるため寝坊、精神的な悩み、身体的病気怪我、進路の迷い等

3.6.2 実施方法、時期

1) 実施方法

- ・実施時期は、5月（前期）と11月（後期）の年2回を実施基準月とする。
- ・調査対象は、卒業研究に着手（研究室に所属）しない学部全学生とする。
- ・調査科目は、各学部が指定した科目とする。
ただし、1年次は、学部の依頼により大学教育センターが指定した授業科目とする。
- ・調査方法は、調査科目について連続4回の出欠チェックを行う。
- ・集計作業は、各学部担当事務（1年次生は学務部）が行う。
- ・4回のチェックのうち3回以上欠席した者をクラス担任別に集計する。
- ・クラス担任別集計に基づき面接対象一覧と個人ごとの面接票を作成する。
- ・面接票には学籍番号、所属、氏名、住所、電話番号等を記載する。
- ・学部長名（1年次生は学生相談・生活部会長名）で面接対象一覧と面接票を添えて、クラス担任等に対して欠席者の事情聴取を期限内に終了するよう依頼する。

2) クラス担任による欠席者の事情聴取

- ・調査方法は、クラス担任等が対象者を呼び出し、直接面談により欠席理由等を聴取する。
- ・面談により適切な指導を行い、かつ、精神科医の面談の要否を判断し、その内容を面接票に記載して、その都度学部長（1年次生は学務部）に提出する。

3) 医師による欠席者との面談

クラス担任等から学部長（1年次生は学務部）に提出された面接票を健康支援総合センター医師に回付し、医師が指導の必要があると判断した欠席者と面談を行い、必要なカウンセリング等を行う。

3.7 障害学生への支援

障害のある学生がその能力並びに障害の種別及び程度に応じ、十分な教育を受け、学生生活を送ることができるよう、大学教育・学生支援機構学生支援センターに、障害学生支援室を設置している。

3.7.1 障害学生数

平成28年度に障害学生支援室が障害のある学生と認定し、修学支援の対象となっている学生は18名（聴覚障害者6名、肢体不自由者4名、内部障害者0名、発達障害者4名、メンタルヘルス不調者4名）である。

3.7.2 支援内容

群馬大学障害学生修学支援実施要項に基づく修学支援の必要な学生には、個別に障害の種類及び程度に応じた支援内容を明記した「配慮願い」を授業担当教員へ通知している。また、全教員に対して「障害学生支援での一般的な配慮事項」を配付して周知を図っている。

聴覚障害学生には、授業ごとに必要に応じてFM補聴器の貸し出しや、パソコンテイクと手話通訳による支援等を行い、肢体不自由学生には、休憩室の設置、車椅子対応の施設整備、低身長者のための踏み台の設置、介助者による移動介助などの支援を行い、内部障害学生には、講義中のトイレ退席等の配慮、また、発達障害学生には、休憩室の設置、健康支援総合センター医師による面談、履修相談などの支援を行っている。

3.8 学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険

学生教育研究災害傷害保険は、学生が正課，学校行事，学校施設内外における課外活動，学校施設内，通学，学校施設等相互間の移動時に係る全ての傷害に対して補償を行う保険である。

学研災付帯賠償責任保険は、学生が正課，学校行事，インターンシップ，介護等体験活動，教育実習，ボランティア活動等及びその移動時に，他人にけがを負わせたり，他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する保険である。本学では，教育研究の円滑な実施のために，入学の際に当該保険に全員が加入することを勧めている。

3.8.1 加入者数

平成28年度の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の加入者数は，資料3-5のとおりである。

3.8.2 請求種別保険金請求件数

平成28年度の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の請求種別保険金請求件数は，資料3-6のとおりである。

3.9 通学証明書，旅客運賃割引証

通学証明書は，学生がJR，私鉄，バス等の通学定期券を購入する際に必要となる証明書である。学生旅客運賃割引証は，学生の修学上の経済的負担軽減と学校教育の振興に寄与することを目的としている制度で，片道乗車区間の距離100kmを超える区間を乗車する際に使用することができる。

通学証明書及び学生旅客運賃割引証発行業務については，荒牧地区，昭和地区，桐生地区及び太田地区で証明書自動発行機にて行っている。

3.9.1 発行枚数及び主な発行理由

平成28年度の通学証明書及び学生旅客運賃割引証の発行枚数等は，資料3-7のとおりである。

3.10 学生寮

本学には，前橋地区に養心寮，桐生地区に啓真寮の2寮がある。

学生寮は，学生が修学にふさわしい環境において勉学を継続するための住居施設として設けられている。

3.10.1 養心寮入寮者数

平成28年度の養心寮入寮者数（定員は男子74人, 女子62人, 合計136人, 寄宿料月額4,300円）は, 延入居者数が1,612人で, 入居率は98.8%である。なお, 男子部屋数は77室であるが, 入居不可室が3室あるため, 74人を定員とした。

3.10.2 啓真寮入寮者数

平成28年度の啓真寮入寮者数（定員は男子65人, 女子24人, 合計89人, 寄宿料月額 ワンルーム型25,000円, シェア型15,000円）は, 延入居者数が462人で, 入居率は43.3%である。

3.11 生活支援施設

本学では, 学生生活の利便性を確保し, 経済面の支援を図るために荒牧地区, 昭和地区及び桐生地区にそれぞれ食堂・売店等を設けており, 群馬大学生生活協同組合に委託している。

食堂では食事及び懇親会等を, 売店では, 書籍, 日用品, 旅行鞆等を市価より安く提供している。

3.11.1 食堂

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
座席数	447席 (ホール内405席, 外42席)	286席 (ホール内264席, 外22席)	558席 (ホール内438席, 外20席, 桐園100席)
営業時間	11:00～14:00 17:30～19:30	11:00～14:00	11:00～14:00 17:30～19:30 桐園 11:00～14:00
年間営業日数	239日	233日	239日
年間利用者数	107,914人	42,642人	133,755人
提供メニュー数	40以上	20以上	40以上

3.11.2 売店

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
営業時間	9:30～18:00	8:30～18:00	9:30～18:00
年間営業日数	235日	233日	233日
年間利用者数	160,589人	120,226人	160,720人

3.12 課外活動施設

本学には, 荒牧, 昭和, 桐生の各キャンパスに各種の課外活動施設があり, 体育の授業の他, 学生の利用に供している。その主な施設については, 次のような施設仕様, 使用等状況である。

3.12.1 体育施設

○荒牧キャンパス

陸上競技場

陸上競技場は, 400メートルトラックである。陸上競技部が主として使用している。

また、トラック内のインフィールドも、やり投げ等の陸上種目の他、多目的な軽スポーツ実施の場として使用している。

サッカー・ラグビー場

サッカー・ラグビー場は、サッカー又はラグビーの公式試合が可能な面積を持っており、サッカー、ラグビー及びフットサル用のゴールが設置してある。なお、サッカー・ラグビー場には、夜間照明も設置してある。サッカー部、ラグビー部、アメリカンフットボール部及びフットサルサークルが主として使用している。

テニスコート

テニスコートは、硬式専用コート3面、軟式専用コート3面（いずれもクレーコート）、全天候型コート2面（オムニコート）、両用コート1面（クレーコート（ゴルフ練習施設併設））の9コートがあり、硬式テニス部やソフトテニス部が主として使用している。

なお、オムニコートは夜間照明が設置してあり、人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあるため、人気が非常に高い。その反面、人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

野球場

野球場は、天然芝で、夜間照明も設置してある。準硬式野球部、硬式野球部、軟式野球サークルアウィル及び医学部準硬式野球部が主に使用している。

プール

プールは、50メートル8コースで、6月～8月に使用している。水泳部が主として使用している。

第1体育館

第1体育館は、主としてバレーボール、バスケットボールなどにより使用し、それぞれ2面使用可能である。バレーボール部、バスケットボール部が主として使用している。

第2体育館

第2体育館は、主としてバドミントン、卓球、体操競技、ダンスなどにより使用している。なお、ダンス用の広い面積の鏡や、体操での安全確保用のウレタンを敷き詰めたピットも設けている。バドミントン部、卓球部、体操部、ダンス部が主として使用している。なお、第1体育館、第2体育館の間にトレーニングルームが併設されている。

武道場

武道場は、剣道用の床面が1面、柔道用の畳面が1面の計2面があり、各種武道で使用する他、畳面にレスリング用マットを敷き詰めてレスリングをすることも可能である。剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部、レスリング部が主として使用している。

弓道場

弓道場は、平成22年度に新営され、公式試合が可能となった。弓道部が主として使用している。

馬場

馬場は、馬術部が使用している。乗馬して練習すると表面が荒れるため、馬術部学生が馬場の部室に常駐（授業時間及び深夜を除く）し、馬の飼育と馬場の管理を行っている。なお、

飼育している馬は馬術部の所有であり、その餌代は学生が拠出している。

○昭和キャンパス

体育館

体育館は、バレーボール・バスケットボール・バドミントンなどの球技で使用するアリーナと、剣道場・柔道場各1面の武道場があり、武道場の2階は卓球場となっている。

昭和地区では体育の正課授業がないため、学生の課外活動用として、バレーボール部、バスケットボール部、バドミントン部、剣道部、柔道部、卓球部が主に使用している。

弓道場

弓道場は敷地面積が狭隘であるため、荒牧地区と比べると射場の幅は狭くなっている。弓道部が主として使用している。

○桐生キャンパス

菱グラウンド（サッカー・ラグビー場、野球場）

サッカー・ラグビー場は、サッカー及びラグビー用のゴールが設置してあり、サッカー部、ラグビー部及びフットサルサークルが主として使用している。野球場は、天然芝で、硬式野球部が主として使用している。

テニスコート

テニスコートは全天候型コート（オムニコート）が3面あり、硬式テニス部、ソフトテニス部が主に使用している。

なお、夜間照明が設置してあり、人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあるため、人気非常に高い。その反面人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

プール

プールは、25メートル7コースで、6月～8月まで使用している。水泳部が主として使用している。

体育館

体育館は、1階には剣道用の床面が1面、柔道用の畳面が1面の計2面があり、各種武道で使用している。剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部、ダンスサークル、八木節同好会が主として使用している。また、トレーニングルームも併設されている。2階は主として球技用のフロアであり、バスケットボール部、バレーボール部、卓球部、バドミントン部が主に使用している。

弓道場

弓道場は、弓道部が主として使用している。

3.12.2 文化施設

文化施設等は、次のとおりである（荒牧キャンパスのみ）。

ミュージズホール

ミュージズホールは、大学会館内の多目的ホールで、各種会合、集会等に使用する施設である。

集会室

2室の集会室があり、うち1室は和室である。和室は主に茶道部が使用している。

3.12.3 課外活動共用施設

○荒牧キャンパス

課外活動共用施設は、南北に2棟あり北棟は主に運動系サークルが、南棟は主として文化系サークルが共同で利用している施設である。北棟は1階、2階ともに8部屋の計16部屋あり、南棟は1階、2階ともに6部屋の計12部屋がある。

北棟1階に運動講義関係の器具庫があり、その他の部屋は部室として使用している。南棟は音楽演奏に向く防音の部屋が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。また、荒牧祭実行委員会もこの課外活動共用施設を中心に活動している。

○昭和キャンパス

課外活動施設は体育館と繋がっており1階、2階、3階に各6部屋（計18室）あり、1階には音楽演奏に向く防音の部屋が4室ある。主に文化系クラブ・サークルが利用している。

○桐生キャンパス

課外活動共用施設は、1階に9部屋、2階と3階に各6部屋の計21部屋あり、1階には音楽演奏に向く防音の部屋が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。主に文化系クラブ・サークルの活動場所や運動部の器具庫及び倉庫として利用されている。

3.12.4 合宿所

○荒牧キャンパス

4部屋あり、広さは談話室が12畳、1・2号室が計22畳、3号室が14畳、4号室が14畳である。

なお、就寝用具などは学生の持ち込みとなっている。

○桐生キャンパス

4部屋あり、大きさは1号室が12畳、2号室が15畳、3・4号室が各6畳である。関東甲信越大学体育大会などの各種競技大会開催間近には、強化合宿で利用率が非常に高くなる。

なお、各部屋には就寝用具が備えられており、共用の調理場や浴室等も利用できる。

3.13 学生団体及び主な活動

学生団体及び主な活動は、次のとおりである。

3.13.1 学生団体

平成28年度のクラブ・サークルは、資料3-8のとおりである。

本学の運動部の対外試合のある種目では、荒牧キャンパスと桐生キャンパスのクラブ等は、「4年制大学」の出場枠となり、昭和キャンパスは「6年制大学」の出場枠となるため、同じスポーツ名ではあっても「荒牧・桐生」と「昭和」は別団体、というクラブ・サークルが多い。

3.13.2 大学祭

学生の意識高揚と、広く群馬大学を学外に情報発信することなどを目的とし、大学祭を開催している。

・荒牧祭(荒牧キャンパス)は、平成28年11月12日(土)～13日(日)に開催し、来場者数は9,500人位であった。

- ・医学祭（昭和キャンパス）は、隔年開催のため平成28年度は開催せず。
- ・群桐祭（桐生キャンパス）は、平成28年10月14日（金）～16日（日）に開催し、来場者数は、4,000人位であった。
- ・太田キャンパスは、平成28年7月17日（日）に太田市祭りに併せて開催し、大学祭として参加した。

3.13.3 関東甲信越大学体育大会

関東甲信越大学体育大会は、学生スポーツの健全な発達及び普及を図り、併せて相互の親睦に資するため関東甲信越地区13大学（東京地区大学を除く。）が共同で開催している。

平成28年度は、山梨大学が主管校として、都留文科大学、埼玉大学、群馬大学の4大学が担当して行われた。平成28年8月15日（月）～8月31日（水）の日程で全種目が開催され、各大学が担当した競技は以下のとおりである。

山梨大学担当：硬式テニス、バスケットボール、剣道、卓球

都留文科大学：陸上競技、バレーボール

埼玉大学担当：硬式野球、サッカー、ソフトテニス、水泳、体操、柔道

群馬大学担当：準硬式野球、ラグビー、弓道、バドミントン、空手道

群馬大学が好成績（3位以上）を取めた競技は以下の通りである。

- ・優勝：空手道（自由）
- ・準優勝：バスケットボール（男子）、硬式テニス（女子）、バドミントン（女子）
- ・第3位：卓球（男子）、ラグビー

3.13.4 クラブ・サークルリーダーシップ研修会

クラブ・サークルリーダーシップ研修会は、クラブ・サークルの新旧リーダー等を対象に課外活動団体の健全な活動及び発展に寄与させることを目的として毎年行っている。

平成28年度は、以下の通り実施した。

第1回 平成29年2月15日（水）

（内 容）

- ・講演 ①「飲酒とタバコ：健康に関するルールとマナー」
- ②「自殺予防について（ゲートキーパーの養成）」
- ③「アルバイトトラブルの防止について」
- ・AED講習

3.14 研修施設

研修施設として北軽井沢研修所と草津セミナーハウスがある。その概要等は次のとおりである。

3.14.1 北軽井沢研修所

本研修所は、本学指導教員及び学生等がセミナー等で利用することを目的に昭和49年に設置された。所在地は、群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢字南木山榎2032-242（北軽井沢大学村1条8丁目）で、敷地面積2,497㎡、建物面積285㎡のC型鋼ビン接合フレーム型2階建の建物となっている。

収容人員は15人で居室は3、研修室1、炊事施設等が完備されている。開所時期は、5月1日から10月15日までで、施設運営費は、1人1日1,000円、食事は自炊となっている。ただし、本学の教職員及び学生以外は施設運営費の他に施設使用料1人1日40円が必要となる。

平成28年度延利用者数

群馬大学所属者	その他	総数
189人	71人	260人

3.14.2 草津セミナーハウス

この施設は、関東甲信越地区国立大学の共同利用合宿研修施設として、教職員及び学生が起居を共にし、相互に研鑽し人間関係を深め、対話や学習を重ねながら教養を高め、自然に親しみ、豊かな人間性を育成することを目的に昭和59年に設置された。所在地は群馬県吾妻郡草津町大字草津字白根737である。

上信越県境にそびえる草津白根山の中腹に広がる日本有数の温泉地、草津町にあるこの施設は、敷地12,084㎡、建物延2,569㎡で120人を収容することができる。

四季を通して、セミナーや体育館を利用してのクラブ合宿の他、冬のスキー、春の新入生合宿、夏の登山及び秋の自然観察など、多彩な利用ができる。

草津セミナーハウス使用料金表（平成28年度）

区 分	(1) 地区国立大学教職員・学生	(2) (1) 以外の者
運 営 費	1,500円 (2,000円)	1,900円 (2,400円)
施 設 使 用 料	(2) の者のみが負担 (毎年4月1日決定)	
食 事	朝食 480円 昼食 520円	夕食 1,020円

- (1) 地区国立大学とは関東甲信越地区国立大学をいう。
- (2) () 内の数字は10月1日から4月30日までの運営費である。
- (3) 地区国立大学の教職員及び学生以外が利用する場合は施設運営費の他に施設使用料1人1日100円が必要となる。
- (4) 既納の運営費及び施設使用料は還付しない。ただし、使用日の7日前までの取り消しについては、運営費の70%を還付する。

平成28年度延利用者数

地区大学所属者	地区大学所属者以外	総数
3,141人	2,502人	5,643人

3.15 学生の就職支援

荒牧キャンパスに全学生が利用可能な進路指導室としてキャリアサポート室を設置している。学生自身の適性や志向を見定め、明確な目的意識を持たせ、社会や仕事、働くことの意味や意義を考え学ばせる実践的な就業体験や各種の就職ガイダンス・セミナーを開催し、多様化する就職活動に対する支援を行っている。

3.15.1 進路状況及び主な就職先

平成28年度の学生の進路状況等は、資料3-9のとおりである。

3.15.2 全学就職ガイダンス・セミナーの開催

学生支援センター就職支援部会主催による就職ガイダンス等は、次のとおりである。

1) 就職ガイダンス

基本講座 全6回 参加延人数 493人

実践講座	全18回	参加延人数	1,569人
特別講座	全11回	参加延人数	564人

2) 公務員講座

(全6回, 参加延人数: 224人)

3) 1・2年生向けガイダンス

(全2回, 参加延人数: 141人)

4) インターンシップ関係説明会及び体験報告会

(全6回, 参加延人数: 861人)

5) 職務適性診断テスト等

(全4回, 参加延人数: 361人)

3.15.3 キャリアカウンセリングの充実

学生の就職相談体制の強化として、前橋地区及び桐生地区にキャリアカウンセラーを配置し、対面式によるカウンセリングを実施した。さらに、ハローワークの協力により、個別相談会や集団面接模擬練習を実施した。

1) 利用件数: 271件

2) 主な相談・指導内容

- ・就職活動の進め方・職業適性・自己分析の相談
- ・エントリーシート, 履歴書の添削
- ・面接試験の指導助言

3.15.4 キャリアサポート室における情報収集環境の充実

1) 学生用に就職情報検索等のためのパソコン・プリンターを設置

2) 各種企業情報データを集約して教務システムに公表

3) 各種求人案内(公務員試験案内含む)の設置と配付

4) 先輩の就職活動報告書の公開

5) 就職関連書籍・ガイダンス撮影ビデオの貸出

6) 学内企業説明会の案内やカウンセリングの予約状況等について、ツイッターによる情報発信

3.15.5 就職支援の体制強化の充実

1) 国公立大学が参加する就職指導担当者研修会や全国就職指導ガイダンスにおいて意見交換を図るとともに企業の人事担当者等による専門的助言や情報の収集により就職支援体制を強化した。

2) 体験型インターンシップを推進するため、実習先企業(登録企業)等を継続的に確保して実習先との協力体制を整備。

・事前説明会参加者: 467人

・実習事前講座参加者: 146人

・実習参加者: 191人

・インターンシップ終了後の体験報告会参加者: 248人

3.15.6 就職支援BOOKの作成・配付

就職支援BOOK(手帳版)を作成し、各学部の就職対象学生に配付した。

3.16 就業力育成支援

本学では、以下のような就業力育成の取組を実施している。

- 1) 就業力育成を実施するために就業力育成支援室を設置し、専任教員（教授）を配置して、キャリアサポート室と連携しながら就業観育成から将来の就業までを意識したキャリア教育をおこなっている。
- 2) 就業力育成のための科目として「キャリア計画」、「キャリア設計」、及び「学びを構築する」を開講している。
- 3) 企業での就業体験型インターンシップの事前教育として、理工学部2年生に「インターンシップI」を開講している。
- 4) 学びの履歴、アンケート等は、電子的に記録し、自身の学びを振り返ることのできるキャリアデザインポートフォリオシステムを利用している。

3.17 学生生活実態調査

学生の生活実態や要望等を把握し、有効な学生支援の方策を検討するために、5年毎に実施することとした学生生活実態調査を、平成15年度、平成20年度及び平成25年度に実施した。また、内容を報告書にまとめ、講師以上の教員及び関係事務職員に配付し学生支援への活用を図った。

なお、平成30年度に4回目の学生生活実態調査を実施する予定である。

3.18 キャンパスニュース群の発行

「キャンパスニュース群」は、平成25年度からウェブサイトにて掲載しており、今年度も同様にウェブサイトでの掲載となった。

主な掲載内容は、各地区学園祭及びフットサル大会レポート、インターンシップ、生協食堂人気メニュー等である。

3.19 事件・事故

本学学生が関係した事件・事故の件数は、次のとおりである。

- ・交通事故：26件（学内9件，学外17件）
- ・盗難：3件（被害者5人）
- ・その他迷惑行為等不適切な行動等：4件

3.20 学生支援センター資料集

資料 3-1-1, 3-1-2：平成28年度入学料免除及び入学料徴収猶予実施状況

資料 3-2-1, 3-2-2：平成28年度授業料免除及び授業料徴収猶予実施状況

資料 3-3：日本学生支援機構奨学生数（平成28年10月1日現在）

資料 3-4：平成28年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（前期，後期）

資料 3-5：平成28年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険加入者数

資料 3-6：平成28年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

資料 3-7：平成28年度通学証明書発行枚数，学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

資料 3-8：平成28年度クラブ・サークル一覧

資料 3-9：平成28年度学部卒業生の進路状況及び主な就職先

3.20 学生支援センター資料集

資料3-1-1-3-1-2

平成28年度入学科免除実施状況

	免除申請者数 (人)		免除許可者数 (人)		合計
	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	
教育学部	0	0	全額免除 0	0	0
社会情報学部	0	0	全額免除 0	0	0
医学部	1	0	全額免除 1	0	1
			半額免除 0	0	0
保健学科	1	0	全額免除 1	0	1
理工学部(工学部)	3	0	全額免除 3	0	3
総合理工学科(夜間主)除く	5	0	全額免除 5	0	5
学部の計	0	0	0	0	0
総合理工学科(夜間主)	0	0	全額免除 0	0	0
教育学研究科 (修士課程)	1	0	全額免除 1	0	1
教育学研究科 (専門職学位課程)	2	0	全額免除 2	0	2
社会情報学研究科	1	2	全額免除 1	2	3
医学系研究科 (生命医科学専攻)	2	2	全額免除 2	2	4
保健学研究科 (博士前期課程)	14	0	全額免除 9	0	9
理工学部(工学研究科) (博士前期課程)	96	2	全額免除 79	2	81
大学院修士課程の計	116	6	全額免除 94	6	100
医学系研究科 (医科学専攻)	7	2	全額免除 4	2	6
保健学研究科 (博士後期課程)	2	0	全額免除 2	0	2
理工学部(工学研究科) (博士後期課程)	0	0	全額免除 0	0	0
大学院博士課程の計	9	2	全額免除 6	2	8
特別支援教育特別専攻科	0	0	全額免除 0	0	0
合計	130	8	全額免除 105	8	113

平成28年度入学科徴収猶予実施状況

	猶予申請者数 (人)		猶予許可者数 (人)		合計
	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	
教育学部	2	0	全額猶予 2	0	2
社会情報学部	5	0	全額猶予 5	0	5
医学部	1	0	全額猶予 1	0	1
			半額猶予 0	0	0
保健学科	5	0	全額猶予 5	0	5
理工学部(工学部)	15	0	全額猶予 14	0	14
総合理工学科(夜間主)除く	28	0	全額猶予 27	0	27
学部の計	0	0	0	0	0
総合理工学科(夜間主)	0	0	全額猶予 0	0	0
教育学研究科 (修士課程)	0	0	全額猶予 0	0	0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	全額猶予 0	0	0
社会情報学研究科	0	0	全額猶予 0	0	0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	0	0	全額猶予 0	0	0
保健学研究科 (博士前期課程)	1	0	全額猶予 0	0	0
理工学部(工学研究科) (博士前期課程)	0	0	全額猶予 0	0	0
大学院修士課程の計	1	0	全額猶予 0	0	0
医学系研究科 (医科学専攻)	4	0	全額猶予 0	0	0
保健学研究科 (博士後期課程)	0	0	全額猶予 0	0	0
理工学部(工学研究科) (博士後期課程)	0	0	全額猶予 0	0	0
大学院博士課程の計	4	0	全額猶予 0	0	0
特別支援教育特別専攻科	0	0	全額猶予 0	0	0
合計	33	0	全額猶予 27	0	27

平成28年度授業料免除実施状況

	免除申請者数 (人)		免除許可者数 (人)		合計(進<人数)	
	前期	後期	判定	前期	後期	合計
教育学部	全額免除	76	45	45	52	97
	半額免除		20	20	27	47
社会情報学部	全額免除	45	28	28	31	59
	半額免除		10	10	14	24
医学部	全額免除	39	19	19	21	40
	半額免除		10	10	9	19
保健学科	全額免除	63	39	39	48	87
	半額免除		19	19	21	40
理工学部(工学部) 総合理工学科(夜間主)除<	全額免除	231	126	126	134	260
	半額免除		70	70	75	145
学部の計	全額免除	454	257	257	286	543
	半額免除		129	129	146	275
総合理工学科(夜間主)	7	8	4	4	4	8
教育学研究科 (修士課程)	全額免除	7	5	5	7	12
	半額免除		2	2	2	4
教育学研究科 (専門職学位課程)	全額免除	2	1	1	1	2
	半額免除		1	1	1	2
社会情報学研究科	8	11	7	7	10	17
医学系研究科 (生命医科学専攻)	全額免除	5	4	4	8	12
	半額免除		1	1	1	2
保健学研究科 (博士前期課程)	全額免除	26	4	4	8	12
	半額免除		15	13	18	28
理工学府(工学研究科) (博士前期課程)	全額免除	185	97	97	97	194
	半額免除		63	63	51	114
大学院修士課程の計	全額免除	233	118	118	131	249
	半額免除		82	82	69	151
医学系研究科 (医科学専攻)	全額免除	25	14	14	14	28
	半額免除		8	8	10	18
保健学研究科 (博士後期課程)	全額免除	13	5	5	5	10
	半額免除		8	8	8	16
理工学府(工学研究科) (博士後期課程)	全額免除	22	18	18	19	37
	半額免除		3	3	3	6
大学院博士課程の計	全額免除	60	37	37	38	75
	半額免除		19	19	21	40
特別支援教育特別専攻科	0	0	0	0	0	0
合計	全額免除	754	416	416	459	875
	半額免除		232	232	238	470

平成28年度授業料徴収猶予実施状況

	猶予申請者数 (人)		猶予許可者数 (人)		合計(進<人数)	
	前期	後期	判定	前期	後期	合計
教育学部	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
社会情報学部	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
医学部	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
保健学科	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
理工学部(工学部) 総合理工学科(夜間主)除<	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
学部の計	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
総合理工学科(夜間主)	0	0	0	0	0	0
教育学研究科 (修士課程)	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
教育学研究科 (専門職学位課程)	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
社会情報学研究科	0	0	0	0	0	0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
保健学研究科 (博士前期課程)	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
理工学府(工学研究科) (博士前期課程)	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
大学院修士課程の計	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
医学系研究科 (医科学専攻)	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
保健学研究科 (博士後期課程)	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
理工学府(工学研究科) (博士後期課程)	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
大学院博士課程の計	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0
特別支援教育特別専攻科	0	0	0	0	0	0
合計	全額猶予	0	0	0	0	0
	半額猶予		0	0	0	0

平成28年度日本学生支援機構奨学生数（学部・研究科別内訳）

平成28年10月1日現在(人)

学部・研究科	区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		計		
		一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	計
		教育学部	社会学部	医学部	工学部	理学部	学部計	特別支援教育特別専攻科	教育学研究科	社会学研究科	医学系研究科	保健学研究科	工学研究科	理工学府	大学院	学部計
42	44	44	35	38	46	27	39	27	39	27	39	27	39	151	164	315
36	17	30	24	27	27	24	23	24	23	24	23	24	23	117	91	208
11	8	11	14	12	16	11	9	14	20	17	23	76	90	163	137	300
56	33	34	31	36	37	37	36	37	36	37	36	37	36	163	137	300
			1				3							0	4	4
														0	0	0
128	99	123	121	133	100	110	125	110	125	110	125	110	125	494	445	939
273	201	242	226	246	226	209	235	209	235	14	20	17	23	1001	931	1932
1	1													1	1	2
4		7	1											11	1	12
3														3	0	3
														0	0	0
3	1	4	2											7	3	10
						1								1	0	1
4	1	4	2											8	3	11
		1												1	0	1
														0	0	0
														0	0	0
124	17	130	19											254	36	290
4		6		6	1									16	1	17
142	19	152	24	6	1	1	0							301	44	345
大学院																

※一人の学生が一種と二種を併用している場合もあるので、延べ人数である。

総計 2277

平成28年度 学部1～3年次生欠席状況調査一覽 (前期)

	教育学部 名	医学部			社会情報学部 名	理工学部 (工学部) 名	合計 名
		医学部 名	保健学科 名	計 名			
1年生 対象者数	231	112	168	280	100	553	1,164
欠席者数	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
2年生 対象者数	227	151	162	313	103	576	1,219
欠席者数	1 0.4%	0 0.0%	2 1.2%	2 0.6%	1 1.0%	3 0.5%	7 0.6%
3年生 対象者数	224	132	166	298	127	607	1,256
欠席者数	1 0.4%	1 0.8%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	12 2.0%	14 1.1%
合計 対象者数	682	395	496	891	330	1,736	3,639
欠席者数	2 0.3%	1 0.3%	2 0.4%	3 0.3%	1 0.3%	15 0.9%	21 0.6%

※ 学生数は、平成28年5月1日
※ 欠席者数下段は、欠席率

平成28年度 学部1～3年次生欠席状況調査一覽 (後期)

	教育学部 名	医学部			社会情報学部 名	理工学部 (工学部) 名	合計 名
		医学部 名	保健学科 名	計 名			
1年生 対象者数	231	112	168	280	99	551	1,161
欠席者数	2 0.9%	0 0.0%	3 1.8%	3 1.1%	1 1.0%	6 1.1%	12 1.0%
2年生 対象者数	227	151	161	312	103	574	1,216
欠席者数	2 0.9%	3 2.0%	0 0.0%	3 1.0%	2 1.9%	8 1.4%	15 1.2%
3年生 対象者数	224	132	166	298	126	605	1,253
欠席者数	3 1.3%	8 6.1%	0 0.0%	8 2.7%	0 0.0%	9 1.5%	20 1.6%
合計 対象者数	682	395	495	890	328	1,730	3,630
欠席者数	7 1.0%	11 2.8%	3 0.6%	14 1.6%	3 0.9%	23 1.3%	47 1.3%

※ 学生数は、平成28年11月1日
※ 欠席者数下段は、欠席率

資料3-5 平成28年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険加入者数

(平成29年3月31日現在)

学部	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他(研究生等)	計
教育学部	231	227	224	250	0	0	28	960
社会情報学部	100	103	127	135	0	0	22	487
医学部	112	151	132	108	126	120	7	756
保健学科	168	162	166	168	0	0	1	665
計	280	313	298	276	126	120	8	1,421
理工学部	523	541	576	538	0	0	31	2,209
夜間コース	30	35	31	37	0	0	0	133
計	553	576	607	575	0	0	31	2,342
合計	1,164	1,219	1,256	1,236	126	120	89	5,210

(平成29年3月31日現在)

大学院・専攻科	1年	2年	3年	4年	その他(研究生等)	計
研究科名	46	48	0	0	0	94
教育学研究科	11	19	0	0	4	34
社会情報学研究科	19	12	0	0	1	32
修士課程	56	63	70	111	3	303
博士課程	50	55	0	0	5	110
博士前期課程	12	10	39	0	14	75
博士後期課程	137	140	109	111	23	520
計	330	334	0	0	13	677
理工学府	20	32	48	0	1	101
工学研究科	350	366	48	0	14	778
計	11	0	0	0	3	14
特別支援教育特別専攻科	555	573	157	111	44	1,440
合計						

資料3-6 平成28年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

(件)

	学生教育研究災害傷害保険						学研災付帯 賠償責任保険	総計
	正課中	学校行事中	通学中	課外活動中	その他	合計		
荒牧地区	6	0	3	7	0	16	1	17
昭和地区	1	0	2	3	1	7	0	7
桐生地区	7	0	2	2	0	11	0	11
太田地区	1	0	0	0	0	1	0	1
合計	15	0	7	12	1	35	1	36

平成28年度通学証明書発行枚数

(枚)

荒牧地区		昭和地区		桐生地区		太田地区		合計
電車	バス	電車	バス	電車	バス	電車	バス	
577	506	75	30	213	33	19	0	1,453

平成28年度学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

(枚)

	正課	帰省	就職	課外活動	見学	旅行	その他 傷病・治療	計
荒牧地区	350	1,872	785	708	964	373	22	5,074
昭和地区	569	648	871	225	3,487	18	1,346	7,164
桐生地区	252	1,020	362	48	1,719	10	430	3,841
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,171	3,540	2,018	981	6,170	401	1,798	16,079

平成28年度 クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
1	Advance	○				文化部
2	AAA☆KIDS		○			文化部
3	Beyond	○				文化部
4	E. S. S(English Speaking Society)	○				文化部
5	ELMO		○			文化部
6	E∞gg		○			文化部
7	enerGy	○				文化部
8	FLOW Orchestra	○	○			文化部
9	Fore-Bridge Orchestra(FBO)		○			文化部
10	FORS(国際医療ボランティアの会)		○			文化部
11	GA研究会	○				文化部
12	G. K. Allstars	○		○		文化部
13	Guit's		○			文化部
14	LEADS		○			文化部
15	Origin折紙研究会	○	○	○		文化部
16	PCDC	○		○		文化部
17	SRC	○	○	○	○	文化部
18	TRPG研究会	○		△		文化部
19	Voice Cream	○	○	○		文化部
20	青竹	○				文化部
21	荒牧ジャズ研究会	○				文化部
22	医学部★ダンスサークル(M★DC)		○			文化部
23	囲碁将棋部		○			文化部
24	泉の会	○				文化部
25	エレクtoon部		○			文化部
26	テアトル・ヒューメ	○				文化部
27	音楽研究会			○		文化部
28	カル旅研究会	○				文化部
29	気象天文研究部	○		○		文化部
30	クラシックギター部	○		○		文化部
31	グリークラブ	○		○		文化部
32	群馬おきりこみ合唱団	○				文化部
33	軽音楽部(医学部)		○			文化部
34	混声合唱団	○		○		文化部
35	茶道部	○				文化部
36	写真部(荒牧)	○				文化部
37	写真部(昭和)		○			文化部
38	写真部(桐生)			○		文化部
39	書道部	○				文化部
40	吹奏楽団	○				文化部
41	0から始めるゲーム制作会	○				文化部
42	たんぽぽ	○				文化部
43	てふてふ	○				文化部
44	でんでんむし	○				文化部
45	でんでんむし(医学部)		○			文化部
46	電子計算機研究会			○		文化部
47	天文部		○			文化部
48	東洋医学研究会		○			文化部
49	読書同好会			○		文化部
50	ピアノ部		○			文化部
51	美術愛好会		○			文化部
52	ビリヤード部		○			文化部

平成28年度 クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
53	ファンタスティック手芸部	○				文化部
54	フィルハーモニックオーケストラ部	○		○		文化部
55	フォーク・ロック愛好会	○		○		文化部
56	ボードゲーム倶楽部	○	○	○		文化部
57	漫画研究部	○		○		文化部
58	マンドリン・ソサエティ	○	○	○		文化部
59	麻雀部	○		○		文化部
60	メサイア管弦楽団・合唱団	○				文化部
61	モダンジャズ研究会(医学部)		○			文化部
62	モダンジャズ研究会(理工学部)			○		文化部
63	野外教育研究会	○	○	○		文化部
64	教育学部八木節同好会	○				文化部
65	八木節同好会			○		文化部
66	夢のわたらせ なないろ号		○			文化部
67	落語・コント研究会	○		○		文化部
68	ラジオ同好会			○		文化部
69	ロボット研究会	△		○		文化部
70	B-STYLE	○		○		運動部
71	Bborderless	○				運動部
72	CRAFT	○				運動部
73	Et's		○			運動部
74	FAST BREAK	○				運動部
75	G☆バンビーズ(旧:夜間バスケ)	○	○			運動部
76	Get's	○	○			運動部
77	ONE WAY	○		○		運動部
78	LEST	○		○		運動部
79	R. F. C	○	○			運動部
80	Rough	○				運動部
81	RUSH		○			運動部
82	Seven Stars			○		運動部
83	TSUBASA. FCコーチングスタッフ		○			運動部
84	Vit'z	○		○		運動部
85	V. B. C. 桐生	○	○	○		運動部
86	アイスホッケー	○		○		運動部
87	アウイル	○				運動部
88	合気道部	○		○		運動部
89	アメリカンフットボール部			○		運動部
90	エスケープ	○		○		運動部
91	オリエンテーリング部		○			運動部
92	空手道部		○			運動部
93	環境プロセススポーツ同好会	○	○	○		運動部
94	弓道部	○	○			運動部
95	弓道部(医学科)	○		○		運動部
96	弓道部(保健学科)		○			運動部
97	クライミング部	○		○		運動部
98	剣道部		○			運動部
99	剣道部(医学部)	○				運動部
100	硬式テニス部	○		○		運動部
101	硬式テニス部(医学部)	○				運動部
102	硬式野球部	○				運動部
103	ゴルフ部(医学部)			○		運動部
104	サイクリング部			○		運動部

平成28年度 クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
105	サッカー部(全学)	○	○			運動部
106	サッカー部(医学部)	○				運動部
107	サバゲーサークル	○				運動部
108	自動車部	○		○		運動部
109	柔道部(荒牧)	○	○	○		運動部
110	柔道部(理工学部)	○	○	○	○	運動部
111	準硬式野球部(荒牧)		○			運動部
112	準硬式野球部(医学部)	○		○		運動部
113	少林寺拳法部	○		○		運動部
114	水泳部	○		○		運動部
115	スキー部(全学)		○			運動部
116	スキー部(医学部)			○		運動部
117	ソフトテニス部	○				運動部
118	ソフトテニス部(医学部)	○				運動部
119	体操部		○			運動部
120	大東流合気柔術部	○		○		運動部
121	卓球部		○			運動部
122	ダンス部		○			運動部
123	肉じゃが		○			運動部
124	バイク部	○		○		運動部
125	馬術部	○		○		運動部
126	バスケットボール部	○				運動部
127	バスケットボール部(医学部)	○		○		運動部
128	バスケットボール部(理工学部)	○				運動部
129	バスケットボール研究会	○		○		運動部
130	バドミントン部	○	○			運動部
131	バドミントン部(医学部)	○		○		運動部
132	バレーボール部(全学)		○			運動部
133	バレーボール部(医学科)	○	○	○		運動部
134	バレーボール部(保健学科)		○			運動部
135	ハンドボール部	○				運動部
136	フットサル部	△		○		運動部
137	フィールドホッケー部	○				運動部
138	フリースタイル・フットボールサークル	○		○		運動部
139	メモリアルテニス部	○				運動部
140	ラグビー部(全学)	○		○		運動部
141	ラグビー部(医学部)	○	○			運動部
142	陸上競技部	○		○		運動部
143	陸上競技部(医学部)	○	○			運動部
144	ワンダーフォーゲル部	○	○	○		運動部

平成28年度学部卒業生の進路状況（9月卒業を含む）

H28卒 平成29年5月1日現在

区分 学部	卒業生数 (A)		進学者数						就職者数										就職活動中	その他 (D)	就職率 (E) $E=C/(A-B-D) \times 100$	
	大学院・専攻科	他大学学部等	研究生等	各種専修学校等	留学	計 (B)					業種別内訳						計 (C)					
						計 (B)					教員			医療機関	企業等	公務員等		自営業				左欄以外
						小	中	高	特別支援	その他												
教育学部	25	1	1	0	2	29	4	77	27	22	11	1	2	21	17	0	8	190	9	2	95.5	
社会情報学部	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	85	18	0	3	106	3	3	97.2	
医学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	112	0	0	0	0	112	6	2	94.9	
保健学科	32	0	0	0	0	32	0	0	0	0	0	0	119	3	5	0	0	127	4	3	96.9	
理工学部	318	1	2	1	0	322	0	0	0	0	0	0	0	154	21	0	1	176	0	8	100.0	
工学部	9	0	2	0	0	11	0	0	1	0	0	0	0	17	2	0	0	20	1	7	95.2	
夜間主コース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0	
合計	386	2	5	1	2	396	4	77	27	23	11	1	233	280	63	0	12	731	24	25	96.8	

備考：その他(D)欄は、各種試験準備、留学生の帰国、家事従事、不明である。

平成28年度学部卒業生の就職先

(順不同) 青字は、県内就職先

【教育学部】

■教育

〈幼稚園・認定こども園〉

高崎市立吉井西幼稚園 すぎの子幼稚園 清心幼稚園(認定こども園) 真砂幼稚園

〈小学校〉

前橋市 伊勢崎市 高崎市 館林市 藤岡市 桐生市 安中市 太田市 沼田市 渋川市 みどり市
吉岡町 大泉町 邑楽町 嬭恋村 群馬大学教育学部附属小学校 さいたま市 朝霞市 深谷市 足利市
那須塩原市 塩谷町 川越市 横須賀市 八潮市 葛飾区 西尾市 白石市 銚子市

〈中学校・中等教育学校〉

桐生市 前橋市 高崎市 太田市 渋川市 伊勢崎市 安中市 玉村町 下仁田町 群馬大学教育学部附属
中学校 蕨市 宇都宮市

〈特別支援学校〉

群馬県 埼玉県

〈高等学校〉

群馬県 桐生市 太田市 利根沼田学校組合立利根商業高等学校 高崎商科大学附属高等学校
前橋育英高等学校 埼玉県 長野県 富山県 足利工業大学附属高等学校 鎌倉女学院・中学・高等学校

■公務

国土交通省航空局

群馬県学校事務
館林市役所
みどり市役所
埼玉県小中学校事務
常総市役所

群馬県警察
太田市役所
玉村町役場
坂戸市役所

前橋市役所
伊勢崎市役所
甘楽町役場
豊田市役所

■企業・法人等

群馬県市町村職員共済組合
群馬県農業共済組合
ガトーフェスタハラダ
こいけ整形外科クリニック
(株)上毛新聞社
タルヤ建設(株)
(株)アイヴィジット
(株)アクセス
True Japan Tour(株)
東日本旅客鉄道(株)
小池化学(株)

(公財)群馬県教育文化事業団
心水塾
(株)トウシン
Gabaマンツーマン英会話
日本赤十字社(前橋)
(株)エスティーカンパニー
(福)愛の泉
富士通FIP(株)
P&Gプレステージ合同会社
日本年金機構

群馬県職業能力開発協会
(株)あさひ
(福)鼻高保育園
(株)KRC
育英短期大学
(株)トライグループ
(株)シラカワ
メイドキッチン
全国大学生生活協同組合連合
全日本空輸(株)

【社会情報学部】

■公務

群馬県庁
 渋川市役所
 昭和村役場
 山形県警察

前橋市役所
 富岡市役所
 郡上市役所

伊勢崎市役所
 安中市役所
 山武市役所

■企業・法人等

(株)群馬銀行
 桐生信用金庫
 コーエイ(株)
 群馬県農業協同組合中央会
 ファームドゥ(株)
 朝日印刷工業(株)
 (株)リクルート北関東マーケティング
 (株)正和
 (株)ゆうちょ銀行
 東京東海フィナンシャルホールディングス(株)
 T&D情報システム(株)
 永山コンピュータサービス(株)
 (株)あたらす二十一
 (株)ジュピターテレコム
 (株)デジマース
 (株)フルアウト
 JA新潟中央会
 松竹芸能(株)
 めもりあるグループホールディングス(株)
 ガリバーインターナショナル(株)
 リンベル(株)
 (株)京都西川
 トーヨーカネツソリューションズ(株)
 ハイビック(株)
 (株)浅沼経営センターホールディングス
 イオンモール(株)
 佐川急便(株)
 JA秋田厚生連

(株)東和銀行
 サンデンシステムエンジニアリング(株)
 (株)アイ・リンク
 前橋市農業協同組合
 (株)プレッセイ
 (株)田村屋
 (株)ぐんま安全教育センター
 日本瓦斯(株)
 三菱UFJ信託銀行(株)
 全国共済農業組合連合会栃木県本部
 北港情報サービス(株)
 (株)JR東日本情報システム
 (株)オフィステ・ら
 (株)創輝
 (株)パラゴン
 (株)ユーザーローカル
 関東サービス(株)
 大学生協同組合グループ(関東甲信越)
 浜友観光(株)
 ジュピターショップチャンネル(株)
 (株)ビックモーター
 共立印刷(株)
 日本水産(株)
 ブルドックソース(株)
 (株)フロンティアインターナショナル
 大東建物管理(株)
 東日本旅客鉄道(株)
 (株)山形銀行

しののめ信用金庫
 コンピュートロン(株)
 (株)クラフト
 カネコ種苗(株)
 SRDホールディングス(株)(坂本工業株)
 東和広告システム(株)
 (福)群馬県社会福祉協議会
 積水ハウス(株)
 住信SBIネット銀行(株)
 全国労働者共済生協共同組合連合会
 コムチュア(株)
 (株)アイティーフォー
 (株)システムシェアード
 (株)ソフト
 (株)光通信
 (株)レンターズ
 公益財団法人JKA
 (株)エントリー
 (株)ジェイティービー(JTB)
 リネットジャパングループ(株)
 住理工商事(株)
 サンワ(株)
 日本臓器製薬(株)
 (株)ウィルグループ
 (株)アカデミー
 (株)世界貿易センタービルディング
 三菱倉庫(株)

【医学部 医学科】

※病院名は通称で表記

■医療・福祉業

群馬大学医学部附属病院	伊勢崎市民病院	桐生厚生総合病院
群馬中央病院	高崎総合医療センター	済生会前橋病院
前橋赤十字病院	藤岡総合病院	富岡総合病院
太田記念病院	渋川医療センター	利根中央病院
日高病院	東北大学附属病院	東京大学医学部附属病院
筑波大学附属病院	横浜市立大学附属病院	島根大学医学部附属病院
名古屋大学医学部附属病院	獨協医科大学病院	国際医療研究センター国府台病院
自治医科大学附属さいたま医療センター	青梅市立総合病院	獨協医科大学越谷病院
日本大学医学部附属板橋病院	横浜市立みなと赤十字病院	神戸市立医療センター中央市民病院
横須賀市立うわまち病院	さいたま赤十字病院	横浜市立市民病院
さいたま市立病院	NTT東日本関東病院	山梨県立中央病院
総合病院国保旭中央病院	湘南藤沢徳洲会病院	上尾中央総合病院
伊勢原協同病院	関越病院	荻窪病院
帯広厚生病院	公立昭和病院	関東中央病院
関東労災病院	広島西医療センター	国際医療研究センター病院
埼玉病院	災害医療センター	大手前病院
小諸厚生総合病院	相模原病院	三楽病院
湘南鎌倉総合病院	厚生中央病院	荏原病院
聖隷佐倉市民病院	豊島病院	東京済生会中央病院
東京都健康長寿医療センター	平塚共済病院	虎の門病院
都立広尾病院	船橋二和病院	武蔵野赤十字病院
横須賀共済病院	東京新宿メディカルセンター	大阪病院

【医学部 保健学科】

※病院名は通称で表記

■公務

前橋市	桐生市	太田市
栃木市		

■医療・福祉業

群馬大学医学部附属病院	群馬中央病院	前橋協立病院
前橋赤十字病院	伊勢崎市民病院	太田中央総合病院
桐生厚生総合病院	藤岡総合病院	高崎総合医療センター
県立心臓血管センター	県立小児医療センター	日高病院
美原記念病院	沼田脳神経外科循環器科病院	老年病研究所附属病院
利根中央病院	社団法人平成苑	内田病院
伊勢崎福島病院	関越中央病院	堀江病院
前橋市地域包括支援センター	自治医科大学附属病院	自治医科大学附属さいたま医療センター
慶應義塾大学病院	東海大学医学部附属病院	日本大学病院
順天堂大学医学部附属病院	獨協医科大学病院	久喜すずのき病院
埼玉医科大学病院	佐久総合病院	虎の門病院
聖路加国際病院	竹重病院	春日部中央総合病院
国立病院機構関東信越グループ	大宮シティクリニック	埼玉県立循環器・呼吸器病院
戸田中央総合病院	済生会習志野病院	筑波メディカルセンター病院
埼玉県立小児医療センター	水戸中央病院	山梨県立中央病院
長野市民病院	埼玉協同病院	成仁病院
神戸市民病院	健和会病院	総合病院国保旭中央病院
牛久愛和総合病院	鳥取県立中央病院	中嶋病院
都立墨東病院	新座志木中央総合病院	西千葉整形外科
新潟市民病院	水戸済生会病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
三郷中央総合病院	八王子医師会立訪問看護ステーション	横浜新都市脳神経外科病院
深谷赤十字病院	前橋市地域包括支援センター	

■企業・法人等

NPO法人リンケージ	(株)EP総合	(株)日本セルネット
------------	---------	------------

【理工学部 化学・生物化学科】【工学部 応用化学・生物化学科】

■教育

桐生第一高等学校

■公務

館林市役所
行田市役所

東京消防庁
川口市役所

埼玉県庁

■企業・法人等

スリースター製菓(株)
(株)キンセイ産業
クシダ工業(株)
マック食品(株)
(株)山岸製作所
赤城乳業(株)
(株)富士薬品
フェイスラボ(株)
(株)大川原製作所
(株)バレックス
テクノプロ・デザイン社
マタイ紙工(株)
(株)アイコン・ジャパン
出光ライオンコンビジット(株)
三福工業(株)
小野薬品工業(株)
キャン化成(株)
(福)愛知慈恵会

カネコ種苗(株)
(株)原田
サンデンシステムエンジニアリング(株)
(有)竹内園芸群馬農場
柴田合成(株)
キャンコンポーネンツ(株)
(株)サイサン
興亜工業(株)
(株)アイル
第一屋製パン(株)
ニチアス(株)
リケンテクノス(株)
(株)ウインローダー
第一生命保険(株)
日立ジョンソンコントロールズ空調(株)
ミネベア(株)
富士食品工業(株)
メロディアン(株)

(株)KGT
(株)村山製作所
(株)東和銀行
(株)ミツバ
ブリジストンフローテック(株)
山本食品工業(株)
町田食品(株)
(株)トライグループ
前澤化成工業(株)
ワットコンサルタンティング(株)
(株)コンヴァノ
東洋エアゾール工業(株)
滝沢ハム(株)
(株)テクノクラーツ
(株)横浜銀行
アズワン(株)

【理工学部 機械知能システム理工学科】【工学部 機械システム工学科】

■企業・法人等

(株)ウエノテクニカ
理研鍛造(株)
(株)クライム
サンデンシステムエンジニアリング(株)
太陽誘電(株)
キャンコンポーネンツ(株)
日特エンジニアリング(株)
日本電産バルコ(株)
伸和コントロールズ(株)
東芝三菱電機産業システム(株)

(株)小林機械
両毛システムズ(株)
(株)ミツバ
(株)古川製作所
(株)翔栄
(株)沖データ
シナノケンシ(株)
日本精機(株)
三菱電機(株)
新潟原動機(株)

坂本工業(株)
沖電気工業(株)
(株)ヤマト
(株)山田製作所
三益半導体工業(株)
アルプス電気(株)(マレーシア)
カルソニックカンセイ(株)
立山オートマシン(株)(マレーシア)
日本精工(株)
リオン(株)

【理工学部 環境創生理工学科】【工学部 社会環境デザイン工学科】

■公務

群馬県庁
東京都庁
静岡県庁

前橋市役所
岩手県庁
足利市役所

渋川市役所
埼玉県庁

■企業・法人等

(財)群馬県建設技術センター
パナソニックリビング(株)
小倉クラッチ(株)
第一テクノ(株)
東日本旅客鉄道(株)
ホリー(株)
キャン・コンポーネンツ(株)

佐田建設(株)
(株)ミツバ
ANAビジネスソリューション(株)
太平洋マテリアルズ(株)
富士電機(株)
(株)ワークスアプリケーションズ
(株)オーゼス総研

(株)富永調査事務所
しのめ信用金庫
(株)NEXCOシステムズ
パナソニック(株)エコソリューションズ社
(株)ユニマツプレシャス
(株)バルグループ

【理工学部 電子情報理工学科】【工学部 電気電子工学科、情報工学科】

■公務

川場村役場

長野市役所

■企業・法人等

(株)ナブアシスト
(株)ジーシーシー
東京パーツ工業(株)
明星電気(株)
(株)松村電機製作所
日本情報産業(株)
みちのく銀行
(株)ガラパゴス
白銅(株)
大正製薬(株)
東日本電気エンジニアリング(株)
ゼネラルエンジニアリング(株)
(株)NTTデータ
(株)デザインネットワーク
(株)メイテック
プログレス・テクノロジー(株)

(株)OKIソフトウェア
高崎共同計算センター
沖電気工業(株)
(株)沖データ
MHI情報システムズ(株)
(株)三菱電機インフォメーションシステムズ
(株)NDD
三菱電機(株)
(株)IIJグローバルソリューションズ
ユニパルス(株)
日本工営(株)
(株)本田技術研究所
(株)イー・アンド・ディ
野村不動産パートナーズ(株)
曙ブレーキ工業(株)
みずほ情報総研(株)

(株)ミツバ
(株)SUBARU(富士重工業(株))
(株)日立オートモティブシステムズ
杉原エスイーアイ(株)
日信ソフトウェアエンジニアリング(株)
エム・オー・シー(株)
東京ガスiネット(株)
ホリー(株)
AGS(株)
三菱電機ホーム機器(株)
(株)ヨシカワ
(株)ナビタイムジャパン
(株)きんでん
京セラコミュニケーションシステム(株)
(株)アイ・ティイー・フォー

【理工学部 総合理工学科】【工学部 生産システム工学科】

■企業・法人等

(株)ミツバ
(株)沖データ
(株)ミック・ケミストリー

サンデンホールディングス(株)
Sky(株)
横河商事(株)

正田醤油(株)
アイシン精機(株)
(株)イー・イー・エス

4 学生受入センター

4.1 はじめに

学生受入センターは平成18年4月に発足され、センターにはセンター長（理事（教育・企画・国際交流担当）・副学長）と副センター長、兼任教員（各学部の入試又は広報担当委員会の委員長）が在籍する組織である。センターの運営については、学生受入センター運営委員会が設置されている。また、下部組織として入試部会・広報部会を組織し各学部等から委員が選出されている。審議内容は、学生募集に係る広報活動に関すること、入学者選抜方法の改善に関すること等（これらを以下、「入試関係業務」という）である。当該入試関係業務の事務は、入学試験委員会と連携を図るほか、学生受入課が各学部の担当係と連携を図り業務を遂行している。平成28年度の主な入試関係業務等の事項は、次のとおりである。

4.2 オープンキャンパス

本学の教育研究及び学園生活の現状を、具体的に分かりやすく伝える場として、また、受験生の進路決定に資することを目的として、全学のオープンキャンパス「群馬大学オープンキャンパス」と各学部学科等が開催する「学部別オープンキャンパス」を実施している。これらのオープンキャンパスに対して、群馬県内の全高等学校（99校）と全中学校（172校）、東北・関東・中部地方の平成26年度から28年度の入学試験において志願者のあった高等学校（760校）に案内した結果、延べ7,340名の参加者があった。

4.2.1 群馬大学オープンキャンパス

「群馬大学オープンキャンパス」は、平成28年7月30日（土）～31日（日）の2日間にわたって、主に高校1、2年生を対象として荒牧キャンパスで開催した。1日目は医学部（医学科・保健学科）・理工学部、2日目は教育学部・社会情報学部を対象とした大学紹介・学部説明を行い、延べ3,000名の参加者があった。

当日実施した参加者へのアンケート調査では回答者の92.1%から進路選択の役に立った旨の回答が得られたこと等から、本行事の実施の意義を確認することができた。ただ、より有意義なオープンキャンパスとするために、今後の実施内容・体制などに関し、改善すべき点を実施状況から確認した。

4.2.2 学部別オープンキャンパス

各学部学科等が開催する「学部別オープンキャンパス」は、主に高校3年生を対象として、教育学部、社会情報学部、医学部医学科、医学部保健学科、理工学部それぞれのキャンパスで開催した。各学部学科とも、学部学科説明、在学生の体験発表、模擬授業等を行い、延べ4,340名の参加者があった。

4.3 学生募集に係わる広報活動

学生受入センターでは、学生募集に係わる様々な広報活動を行っており、平成28年度の主な学生募集に係わる広報活動の事項とその状況は、次のとおりである。

4.3.1 出前説明会、出張模擬授業及び大学見学

出前説明会については、高等学校からの依頼に基づき、36校へ出向いて大学・学部学科の教育内容・入学試験等の説明を行った。出張模擬授業については、高等学校等からの依頼に

基づき、69校へ出向いて大学での学びを講義形式により紹介した。大学見学については、来学した23の高等学校等の生徒・教諭等に対し、学部学科説明や施設紹介を実施した。その他、社会情報学部及び理工学部においては、高等学校を訪問して進路指導担当教諭等に対して学部説明を行った（社会情報学部48校、理工学部191校）。

4.3.2 進学相談会

受験産業が主催する会場形式の進学相談会には、関東地区を中心に延べ22会場に参加し、受験生、保護者等からの個別相談に対応した。そして、これらの進学相談会にて延べ600名以上の受験生、保護者等に対して入試広報を行った。

4.3.3 大学案内、大学紹介動画の作成

広報活動のためのツールとして、冊子体の大学案内を作成して、オープンキャンパスや出前説明会等において配付した。また、大学紹介の動画を作成して、群馬大学公式チャンネル（YouTube）に掲載した。

4.3.4 ウェブサイト等による広報

本学ウェブサイト等を活用し、受験者等への情報発信（LINE、Twitter等のSNSを含む）を種々行っている。入学者選抜に関する要項や学生募集要項の発表、受験状況の公表のほか、平成25年度からは試験問題及び解答例・評価のポイント、群馬大学入学者選抜における受験上の配慮内容、次年度以降の入試の変更点を公表している。

また、大手の受験産業が運営する進学情報ウェブサイトに入試情報を掲載し、より広範な広報活動を行った。

なお、本学ホームページ上の入試情報に関して、「学部」の入試情報と「大学院」の入試情報が明瞭に分かれておらず、容易に各種情報にたどり着けない旨の指摘があったことから、今回、受験希望者側から見て、一見してわかり易い配置へと変更した。

4.3.5 高等学校等の教員を対象とした説明会

高等学校等の進路指導担当等の教員を対象とした「高等学校等の教員を対象とした入学試験に関する大学説明会」を、平成28年7月8日（金）に開催した。これは、高等学校等の進路面談（7月中旬頃）の前に行って欲しい旨の意見を進路指導担当等の教員から受け、開催日時を従来の7月下旬より前倒しして行った。当説明会では各学部学科の教育内容や入学試験について担当の教職員から詳しく説明を行った。なお、群馬県内の全高等学校（99校）、東北、関東（群馬県を除く）、中部地方の平成26年度から平成28年度入学試験において志願者のあった高等学校760校に案内した結果、65校100名の教員が参加した。

4.4 広報戦略の立案

平成25年度に作成した本学の広報活動の基本方針である「群馬大学学生募集に係わる広報戦略」について改善事項をとりまとめ作成された「群馬大学学生募集に係る広報の改善」を確認し、いわゆる2018年問題に向け、効率的かつ有効な広報を大学全体として組織的に行っていくことを再確認した。

4.5 入学者の選抜方法改善と追跡調査

前年度入試の実施状況等については、受験産業による報告会を学内で複数回実施して最新動向の把握を行った。これらで得た情報に、本学で実施した各種アンケートや入学後の成績等の追跡調査結果も加えて、平成28年10月前半に入学者選抜方法研究報告に関して各学部学

科等に対しヒアリングを実施した。このヒアリング時の回答内容等を加えて、平成28年12月に学生受入センターとして入学者選抜方法研究報告書を作成し、次年度以降の入試改革に役立てることとした。

4.6 その他

平成25年度に取りまとめた「群馬大学入学者選抜改善に関する検討課題」について、平成28年度の検討状況及び改善状況の更新を行った。

「群馬大学オープンキャンパス」の実施体制の問題点、改善点等を広報部会にて整理した。これらを踏まえ検討した結果、平成29年度の「群馬大学オープンキャンパス」の実施内容を大幅に変更し、従来2日間開催を1日開催、そして在学生を大幅に動員した体制で実施する基本方針を決めた。

資料

資料 4-1：平成28年度 入試広報活動実績

資料 4-2-1：平成28年度 群馬大学及び学部別オープンキャンパス参加者数

資料 4-2-2：平成28年度 群馬大学オープンキャンパス各学部・各種説明会参加者数

資料 4-3：平成28年度 群馬大学オープンキャンパス（7／30, 31）参加者アンケート結果
(抜粋)

平成28年度 入試広報活動実績

資料 4-1

1. 群馬大学オープンキャンパス

開催日	会場	主な対象者	主催
7月30日(土)、31日(日)	荒牧キャンパス	高校1、2年生	学生受入センター

2. 各学部オープンキャンパス

開催日	イベント名	主な対象者	主催
7月16日(土)	社会情報学部オープンキャンパス	高校2、3年生	社会情報学部
7月18日(月・海の日)	教育学部オープンキャンパス	高校2、3年生	教育学部
7月23日(土)	理工学部オープンキャンパス	高校2、3年生	理工学部
7月24日(日)	理工学部オープンキャンパス	高校2、3年生	理工学部
7月26日(火)	医学部医学科オープンキャンパス	高校2、3年生	医学科
8月10日(水)	医学部保健学科オープンキャンパス	高校2、3年生	保健学科
9月11日(日)	理工学部オープンキャンパス	高校2、3年生	理工学部

3. 高等学校等の教員を対象とした群馬大学説明会

開催日	会場・参加高等学校数・参加者数	主な対象者	主催
7月8日(金)	荒牧キャンパス・65校 100名	進路指導担当教諭等	学生受入センター

4. 出前説明会・進学相談会

開催日	実施場所	主な対象者	主催
4月～12月	高崎健康福祉大学高崎高校 外57会場	高校生、保護者、教諭	学生受入センター 各学部

5. 出張模擬授業等

開催日	実施場所	主な対象者	主催
6月～2月	伊勢崎高校 外68校	高校生、教諭	学生受入センター 各学部

6. 高校訪問

訪問日	訪問先	主な対象者	主催
5月～10月	吉原高校 外190校	進路指導教諭	理工学部
8月～10月	飯田高校 外47校	進路指導教諭	社会情報学部

7. 群馬大学見学

実施日	来学校	主な見学者	対応
4月～11月	日本文理高校 外22校	高校生、教諭	学生受入センター 各学部

平成28年度 群馬大学及び学部別オープンキャンパス参加者数

(単位:人)

区 分	開 催 日	参 加 者		
		28年度	27年度	比較増△減
群馬大学 オープンキャンパス (荒牧キャンパス)	7月30日(土)	1,364	1,080	284
	7月31日(日)	1,636	2,018	△ 382
	小 計	3,000	3,098	△ 98
教育学部 オープンキャンパス (荒牧キャンパス)	7月18日(月)	720	709	11
社会情報学部 オープンキャンパス (荒牧キャンパス)	7月16日(土)	323	306	17
医学部医学科 オープンキャンパス (昭和キャンパス)	7月26日(火)	339	350	△ 11
医学部保健学科 オープンキャンパス (昭和キャンパス)	8月10日(水)	1,110	900	210
理工学部 オープンキャンパス (桐生キャンパス)	7月23日(土)	687	630	57
	7月24日(日)	719	775	△ 56
	9月11日(日)	442	429	13
	小 計	1,848	1,834	14
合 計		7,340	7,197	143

平成28年度 群馬大学オープンキャンパス各学部・各種説明会参加者数

(単位:人)

○ 参加者総数

実施日	人数
7月30日(土)	1,364
7月31日(日)	1,636
計	3,000

【学部等説明会参加者数】

○ 7月30日(土)

① 午前の部

説明会	区分	教室名	生徒	保護者等	計
医学科説明会	午前	GB155	128	94	222
保健学科説明会	午前	教育学部C204	239	94	333
理工学部説明会	午前	教育学部C201	143	54	197
女子高校生向け説明会		教育学部C204	168	74	242
合 計			678	316	994

② 午後の部

説明会	区分	教室名	生徒	保護者等	計
医学科説明会	午後	GB155	72	45	117
保健学科説明会	午後	教育学部C204	154	80	234
理工学部説明会	午後	教育学部C201	110	43	153
合 計			336	168	504
7月30日合計			1,014	484	1,498

○ 7月31日(日)

① 午前の部

説明会	区分	教室名	生徒	保護者等	計
教育学部説明会	午前	GB155	298	115	413
社会情報学部説明会	午前	教育学部C204	233	112	345
女子高校生向け説明会	第1回	GB155	168	71	239
合 計			699	298	997

② 午後の部

説明会	区分	教室名	生徒	保護者等	計
教育学部説明会	午後	GB155	283	129	412
社会情報学部説明会	午後	教育学部C204	139	72	211
女子高校生向け説明会	第2回	GB101	32	18	50
合 計			454	219	673
7月31日合計			1,153	517	1,670
2日間合計			2,167	1,001	3,168

平成28年度 群馬大学オープンキャンパス(7/30, 31)参加者アンケート結果(抜粋)

1. 参加状況

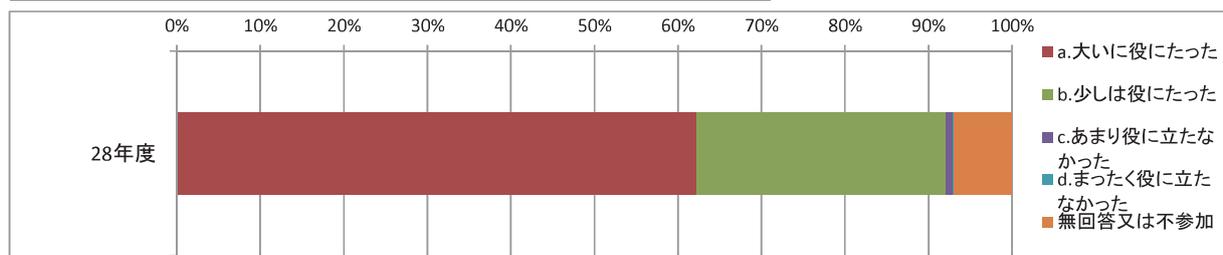
	H28. 7. 30 (土)			H28. 7. 31 (日)		H28. 7. 30(土), 31(日)	
	医学科	保健学科	理工学部	教育学部	社会情報学部	大学概要	女子高生向け
申込者数(A)	425	710	400	950	726	3,211	747
参加者数(B)	339	567	350	825	556	2,637	531
参加率(%) (B/A*100)	79.8	79.9	87.5	86.8	76.6	82.1	71.1

※「大学概要説明会」は各学部・学科説明会に先立ち実施したため、各説明会参加者数の合計とした。

2. 参加者の感想等

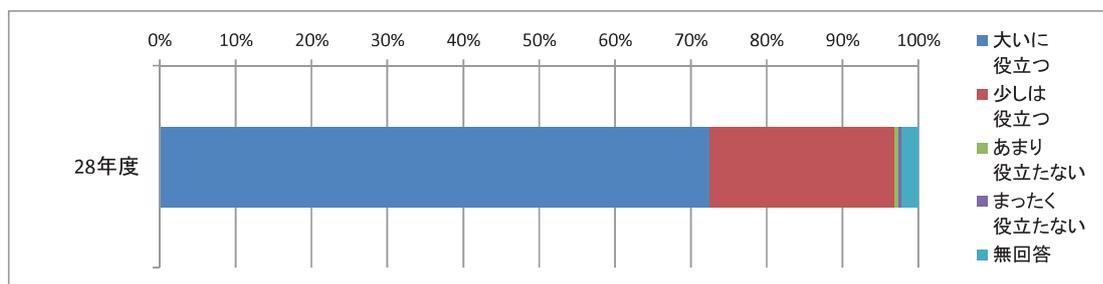
(1) 参加した説明会等は進路選択の役に立ちましたか。

年 度	回答項目				
	a. 大いに役にたった	b. 少しは役にたった	c. あまり役に立たなかった	d. まったく役に立たなかった	無回答又は不参加
28年度	314	151	4	1	35



(2) 配付資料は進路選択の役に立ちますか。

年 度	回答項目				
	大いに役立つ	少しは役立つ	あまり役立つたない	まったく役立つたない	無回答
28年度	366	123	3	2	11



5 健康支援総合センター

5.1 はじめに

健康支援総合センター（以降「センター」と表記）は、学生ならびに教職員の心身の健康の保持増進を図るため、学生健康診断やその事後措置としての助言・指導、健康に関する相談対応、感染症の流行情報の把握と予防教育活動、及び健康に関連した調査や研究を行っている。センターの最近の活動は、第1期、2期中期計画に従い、着実に拡充を行ってきている。配置されている医療職は不足したままであるが、大学を取り巻く環境が変化していく中で、業務内容の拡充が進められている。具体的な内容に関しては、第2期中期計画として引き継がれ進行中であるが、さらに時代の変化に基づく要請に応じ、以下の方針について確認を行った。

- ・教職員のメンタルヘルス対策を含む健康管理(平成27年度12月施行 改正労働安全衛生法：ストレスチェック制度)
- ・学内の円滑な連携に基づく学生のメンタルヘルス支援拡充
- ・障害学生支援室との協力強化（平成28年度4月施行 障害者差別解消法）
- ・学外の医療・教育関係機関との連携による地域貢献活動の充実

5.2 平成28年度実施事業

5.2.1 学生定期健康診断の実施

平成28年度の学生定期健康診断は、資料5-1に示す日程で実施した。

健診当日は、医学部附属病院の派遣協力による医師延べ28名（桐生地区派遣医師を含む）、学外機関からの派遣協力による看護師延べ40名体制で滞りなく実施した。

受検状況は、資料5-2に示すとおりである。学部学生の受検率は前橋地区全体で93.1%（数値は「血圧測定・尿検査・内科診察」を示す。以下同様）、桐生地区では全体で89.4%と良好な結果であった。学部別では教育学部96.7%，社会情報学部92.2%，医学部医学科81.3%，医学部保健学科97.1%，理工学部1年98.7%，理工学部・工学部昼間2年以上89.5%，工学部夜間主33.3%の受検率となった。1年生に関しては、教育学部100%，社会情報学部100%，医学部医学科98.2%，医学部保健学科99.4%，理工学部98.7%と例年と同様、ほぼ全員が受検した。資料5-3は、各検査結果について示したものである。要精検者については、医療機関への紹介状を作成し、円滑な受診につなげている。

5.2.2 精神保健調査の実施

各学部新入生、大学院新入生（医学系研究科生、保健学研究科生、理工学府生を除く）、特別支援教育特別専攻科新入生及び編入生を対象に、「新入生版メンタルヘルス質問票」、また、その他の学生（在校生）を対象に「在校生版メンタルヘルス質問票」を用いた精神保健調査（スクリーニング検査）を行い、要面接者に対して、センター医師2名と非常勤臨床心理士及び附属病院精神科医師9名により、診断的面接を実施した。

方法は、メンタルヘルス質問票（新入生版33項目、在校生版19項目）を用い、抑うつ状態、気分変調、精神病像、食行動異常、生活支障度、相談希望、既往歴についてスクリーニングし、面接の要否を判定した。結果については資料5-4のとおりであった。

要面接者は、新入生については3.1%で昨年度よりやや減少、在校生においても2.7%から1.7%と減少を認めた。年度により若干の差はあるが、メンタルヘルス不調の中核群の抽出は堅持されていると考えられ、早期診断やその後の支援に向けたフォローにおいても効果的に機能している調査であると考えられる。また、新入生については、「学校生活に関する困

りごと調査」を入学時の健康診断に合わせて実施，結果から要面接者を抽出し，センター医師が面接を行なった。結果については資料5-4の通りであった。入学時の調査ということもあり、「新入学にあたっての困りごと（入学に対しての不安）」という観点から回答しており，実際の学校生活が始動されて解消されたという学生が要面接者の約半数を占めていた。来年以降については，調査時期を変えていくことも検討課題であると考えられた。

5.2.3 学生特殊健康診断の実施

特殊健康診断の受診対象者は，「常時使用する労働者」であり，教職員，非常勤職員であるが，学生も実習や実験研究を通じて，教員等と同様の環境下にあることから特殊健康診断の対象とすることが必要であると考えられる。このことから，平成26年度より「特殊健康診断を受診している教員の研究室に配属している理工学部4年生及び理工学府生，工学研究科生」，「作業環境測定結果が，第二及び第三管理区域であった研究室に配属している理工学部4年生及び理工学府生，工学研究科生」を対象に同健康診断を実施している。結果については資料5-5の通りであった。受診者223名中，異常なし207名，要経過観察者6名，要精密検査者は10名であった。要精密検査の学生には，医療機関を受診し必要な検査を受けるよう個別指導を行った。

5.2.4 外国人留学生健康診断の実施

平成21年度から感染性肺結核症の有無を検査するクオンティフェロンTBゴールド検査を実施している。平成28年度の受検率及び検査結果を資料5-6に示す。陽性者・擬陽性者15名については医療機関を紹介し，うち7名が潜在性肺結核として治療を開始した。

5.3 健康支援総合センター利用状況

5.3.1 利用人数及び件数

健康支援総合センター利用人数は，1,114名（年間延べ人数）であった。学部別結果については，資料5-7に示す。からだの健康相談，こころの健康相談，健康診断書の発行についての各件数を月別に集計した結果を資料5-7に示す。健康診断書については，そのほとんどが自動発行のシステムを利用して発行されている。所定の健康診断書への記入が必要であった99件に関してはセンターで発行した。

5.3.2 健康相談の対応内容別件数及びカウンセリング報告

健康相談を「からだの健康相談」と「こころの健康相談」に分けて月別に集計した結果を資料5-8に示す。大学病院勤務の産婦人科医による「レディースクリニック」を月3回開催しており，利用数については，資料の通りである。救急車やタクシーによる救急転送は3件であった。さらに，こころの健康相談者数とその内容については資料5-9に示す。また，全4キャンパスでの臨床心理士による月別カウンセリング利用者数及び動機内訳を資料5-10に示した。カウンセリングの開設時間は，荒牧では週14時間，昭和では週8時間，桐生では週16時間，太田では月1回3時間となっている。なお，教職員に対するカウンセリングは19回（年間）行われた。学生本人だけではなく，家族や担当教員との面談や電話・メール相談も実施した。今後とも，センターで受ける健康相談数は増加することが予測され，センター医師や臨床心理士が対応する相談やカウンセリングに要する時間の増加は避けられないと判断される。

5.3.3 疾病領域別利用者数

疾病領域別利用者数を月ごとに集計した表を資料5-11に示す。メンタル系症状に関連するものが圧倒的に多数を占め，次いで呼吸器系症状，外科・整形外科系症状に関連するものが

多数を占めた。呼吸器系症状では、流行性の感冒によるものが多く、外科・整形外科系症状では、打撲や擦過傷や捻挫など外傷によるものが多く見られた。必要に応じ、医療機関を紹介した。メンタル系症状については、前年度からやや減少している。内科医・カウンセラーによる心理相談を行い、必要に応じてセンター精神科医が面接し医療機関を紹介した。

5.3.4 診療科別医療機関紹介件数

センターから他の医療機関への紹介件数を資料5-12に示す。延べ学生68件、教職員3件であった。

5.3.5 薬剤別処方日数

健康支援総合センターで処方した薬剤の量を投与日数で集計し、資料5-13に示す。内訳については、総合感冒薬の処方が多く、次いで漢方剤、鎮咳剤、去痰剤の処方が多かった。

5.3.6 キャンパス・ソーシャルケースワーカーによる活動

キャンパス・ソーシャルケースワーカーの活動は、各キャンパスで教員からの要請に従い支援を行っている。平成28年度は桐生地区10名、荒牧地区3名、昭和地区1名の計14名の学生への対応の要請があった。事例から得られた経験を蓄積することで、更なる機能の向上をめざす。

5.4 教育関連活動

センターの医師は、教員として教養教育の講義を担当している。新入生を対象とした教養基盤科目のスポーツ・健康「健康教育」について、傷病対策及び精神の健康として、それぞれ90分の講義を5回（同一内容）行った。内科医からは「からだからのサインに気づく」と題して大学生に必要となる傷病対策についての講義を行い、精神科医からは「精神の健康」をテーマに発達障害を含めたメンタルヘルス不調全般について講義を行った。またそれとは別に、精神科医は、3月には学務部主催のクラブ・サークルリーダーシップ研修会において、「飲酒とタバコ 健康に関するルールとマナー」と題して60分間の講演を行った。更に、医学部非常勤講師として医学科3年生臨床行動科学講義「心の健康を保つには」及び公衆衛生学の医学科1年生の学生研究指導を行った。新入生に関しては、入学後のアルコールに関するトラブルを未然に防ぐ目的で、入学時オリエンテーションの際に入学後の飲酒によるトラブル対策の一環として、パッチテストを用いたアルコール感受性についての講習を行った。

5.5 健康管理に関する調査研究活動

平成25-27年度文部科学省科研費(平成28年度まで延長)
「学校現場の日常的活動の中で実施できる児童生徒の自殺予防プログラムの開発と応用」(課題番号25350837基盤研究(C) 研究代表者 竹内一夫)

5.6 健康支援総合センター主催の委員会等

下記の委員会等を主催した。

- 1) 平成28年度健康支援総合センター運営委員会(7月4日, 12月5日)
- 2) 平成28年度群馬県内大学等メンタルヘルス研究会「障害者差別解消法施行後発達障害学生への支援について」(講師 高橋知音 信州大学教育学部教授)(平成29年1月20日)
- 3) 群馬県内大学等保健管理担当者会議(9月16日, 平成29年1月20日)

群馬県内の大学, 短期大学, 高等専門学校の保健管理担当実務者及び事務担当者の出席に

より開催した。会議内容は、研究集会の報告、講義、「健康ミニガイド」の作成、情報交換などである。

5.7 健康支援総合センターの全国会議等出席

下記の全国会議等に健康支援総合センターの教職員が出席し、最新の情報の収集を行い、センターの機能強化に役立った。さらに関係大学との情報交換を行い、連携を深めた。

- 1) 第9回全国大学保健管理協会総会：京都（6月24日）副センター長が出席
- 2) 第54回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会：長野（7月7, 8日）副センター長、講師、看護師が出席
- 3) 社団法人全国大学保健管理協会関東甲信越地方部保健・看護文化会運営委員会：長野（7月7日）、東京（9月1日、平成29年1月26日）看護師が出席
- 4) 第54回全国大学保健管理研究集会：大阪（10月5, 6日）副センター長出席
- 5) 平成28年度 国立大学法人保健管理施設協議会総会：大阪（10月7日）副センター長がセンター長の代理で出席
- 6) 第38回全国大学メンタルヘルス研究会：東京一橋講堂 関連3学会合同（12月10, 11日）副センター長が出席
- 7) 第19回フィジカルヘルスフォーラム：長崎（平成29年3月16, 17日）副センター長が出席

5.8 学内行事実施に伴う救護業務

下記の学内行事に教職員が救護活動を行った。

- ・教育学部体育大会
- ・社会情報学部スポーツ大会
- ・オープンキャンパス
- ・荒牧祭
- ・教育学部、社会情報学部推薦入学試験
- ・関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験
- ・大学入試センター試験
- ・個別学力検査（前期、後期）
- ・学位記授与式

5.9 出版・広報活動

平成28年度は下記の出版、広報活動を行った。

- 1) 「健康ミニガイド2016 ～よりよいキャンパスライフを送るために～」を発行した。先に示した群馬県内大学等保健管理担当者会議が健康についての意識や知識を高めてもらうことを目的に共同で作成した冊子であり、新入生全員（1,190部）に配布した。
- 2) 「群馬大学 大学教育・学生支援機構報告書 健康支援総合センター」の平成27年度の原稿を作成して提出した。
- 3) 健康診断を受けた学生全員に健康支援総合センター案内と自己管理用の携帯用カードを作成配布した。
- 4) 群馬テレビ「ビジネスジャーナル」出演（副センター長）
6月3日（金）「ストレスチェック制度の実際～受診者の立場から～」
- 5) 共著（副センター長）「シンプル衛生・公衆衛生学 2016」（南江堂）、2016年、東京
- 6) 監修（副センター長）「衛生テキスト」（日本バーテンダー協会）、2016年、東京

5.10 社会貢献活動

センターの医師は、専門性を生かして下記の社会貢献活動を行った。

【精神科医（副センター長）】

各種外部委員，嘱託医及び各関係機関からのコンサルテーション要請への対応

平成28年度 群馬産業保健総合支援センター相談員

平成28年度 群馬大学医学部非常勤講師（公衆衛生学，精神医学）

平成28年度 群馬地方労働審議会委員

平成28年度 前橋市教育委員会学校問題対策委員

そのほか群馬県医師会，群馬県看護協会，群馬労働基準協会連合会，日本産業カウンセラー協会，日本バーテンダー協会などの要請に応じて各種講演や講義を行った。

【内科医】

嘱託医及び各関係機関からのコンサルテーション要請への対応

平成28年度 渋川看護専門学校非常勤講師

平成28年度 高崎市乳幼児健診事業 内科診察

5.11 産業保健活動

産業保健活動に関しては人事労務課が統括しているが，平成25年度途中から荒牧・上沖・若宮地区に関しては健康支援総合センター医師2名（内科，精神科）が兼務する体制をとっている。昭和地区は医学部専任教員である医師1名が兼務しており，桐生・太田地区は桐生市医師会医師に依頼している。平成27年度からこれらの産業医の意見を集約するための産業医部会が発足した。

5.11.1 安全衛生委員会

荒牧事業場は内科医が出席し，職場巡視報告を行い，職場環境改善のための指摘を行なった（1回／月，8月を除く）。若宮事業場は，副センター長が2回出席した（含・職場巡視）。

5.11.2 産業医部会

テレビ会議システムを活用した会議を年数回開催した。主に，平成27年12月施行・改正労働安全衛生法の中のストレスチェック制度の実施に向けた議論が行われ，それを基に，平成28年3月に安全衛生管理推進会議で，本学のストレスチェック制度の実施要項が決定された。

5.11.3 職員の定期健康診断

人事労務課からの依頼を受け，若宮事業場及び上沖事業場の職場健診における内科診察を行った。全事業場に勤務する教職員の健診結果の判定及び個別結果の事後措置についてはセンター内科医が対応した。

5.12 本来業務以外の支援業務

荒牧地区における医学部1年生へのB型肝炎ワクチン接種や教職員へのインフルエンザワクチン接種（任意）への依頼に関して，病院救急部など関係機関と連携を取り，実施体制や安全管理体制について明確化を行い，必要な人材を現地に派遣して対応した。

5.13 健康支援総合センターの現状及び今後の方向性

学生のメンタルヘルス不調，特に発達障害が疑われる学生への対応の要請が増えており，

修学が困難になるケースも多く、きめ細かい支援が必要なケースが認められた。障害学生サポートルームのスタッフとの連携を深め、ケースについて検討を実施する体制を充実させた。また、これらの学生の就職についても積極的な支援を開始することにした。特に桐生地区の学生への支援を強化した。本人はもちろん支援に関わる職員や教員と密に連絡を取り合い、情報を共有するシステム作りに取り組んできたが、キャンパス間でのスムーズな対応も含めての機能向上に向けた体制作りが急務である。また、人事労務課と協力し、学内産業医部会を正式に発足させ、教職員の健康管理や新設されたストレスチェックを実施した。

5.14 健康支援総合センター資料集

資料	5-1-1	平成28年度	前橋地区学生定期健康診断日程表
	5-1-2	平成28年度	桐生・太田地区学生定期健康診断日程表
資料	5-2-1	平成28年度	学生定期健康診断受検状況（前橋地区）
	5-2-2	平成28年度	学生定期健康診断受検状況（桐生・太田地区）
資料	5-3	平成28年度	学生定期健康診断結果
資料	5-4	平成28年度	精神保健調査結果
資料	5-5	平成28年度	学生特殊健康診断結果
資料	5-6	平成28年度	外国人留学生健康診断結果
資料	5-7	平成28年度	健康支援総合センターの利用状況
資料	5-8	平成28年度	健康相談の対応内容
資料	5-9	平成28年度	こころの健康相談者数
資料	5-10	平成28年度	学外臨床心理士による心理カウンセリング報告
資料	5-11	平成28年度	疾病領域別利用者数
資料	5-12	平成28年度	診療科別医療機関紹介件数
資料	5-13	平成28年度	薬剤別処方日数

平成28年度 前橋地区学生定期健康診断日程表

受付時間 実施日	午 前		午 後		対象数(概数) 3,850名
	9:00~10:15 (75分)	10:15~11:30 (75分)	13:00~14:15 (75分)	14:15~16:00 (105分)	
4. 1(金)	医学部(医学科・保健学科)4年		社会情報学部2年	社会情報学部3年	午前775名 午後405名 合計1,175名
	医学部医学科5年				
	大学院(医学系, 保健学)2~4年		社会情報学部4年		
	医学部医学科6年				
4. 4(月) ※全学 オリエンテーション	教育 学 部 2 年 (国語・社会・英語・ 数学・理科・技術) (音楽・美術・家政・ 保健体育・教育・ 教育心理・障害児教育)		教育 学 部 3 年 (国語・社会・英語・ 数学・理科・技術) (音楽・美術・家政・ 保健体育・教育・ 教育心理・障害児教育)		午前360名 午後330名 合計690名
	教育 学 部 4 年 (国語・社会・英語) (数学・理科・技術) (音楽・美術・保健体育) (家政・教育・教育心理・ 障害児教育)				
4. 5(火) ※入学式	医学部医学科3年	医学部保健学科2年 (看護)	医学部医学科2年	医学部保健学科2年 (検査・理学・作業)	午前350名 午後210+ α 名 合計560名+ α
	医学部保健学科3年 (検査・理学・作業)	医学部保健学科3年 (看護)	予備日		
4. 6(水) ※学部別 オリエンテーション	教育 学 部 1 年 (国語・社会・英語・ 数学・理科・技術) (音楽・美術・家政・ 保健体育・教育・ 教育心理・障害児教育)		社会情報学部1年		午前330名 午後365名 合計695名
			社会情報学部3年次編入生		
	大学院(教育学)1~2年		大学院(社会情報学)1~2年		
	特別支援教育特別専攻科		理工学部1年 (機械知能システム)	理工学部1年 (環境創生)	
4. 7(木)	医学部医学科1年 【ワクチン接種用採血あり】		理工学部1年 (化学・生物化学) (総合理工) (電子情報)		午前420名 午後310名 合計730名
	医学部保健学科1年 (検査・理学・作業) 【ワクチン接種用採血あり】	医学部保健学科1年 (看護) 【ワクチン接種用採血あり】			
	医学部医学科2年次編入生 【ワクチン接種用採血あり】				
	医学部保健学科3年次編入生 【ワクチン接種用採血あり】				
	大学院(医学系, 保健学)1年				

※ 健康診断項目: 既往歴, 身体計測, 血圧測定, 検尿, 胸部X線撮影, 内科診察, アンケート
 ※ 健康診断会場: 健康支援総合センター

平成28年度 桐生・太田地区学生定期健康診断日程表

キャンパス	検査項目	実施日	時間	対象数(概数) 2,530人
桐生 キャンパス	胸部X線撮影・ 検尿	4/12(火)	9:00～11:30 13:00～16:00	2,420人
		4/13(水)		
		4/14(木)		
	内科診察・ 計測	4/19(火)	13:00～17:00	
		4/20(水)		
		4/21(木)		
		4/22(金)		
太田 キャンパス	全項目	5/11(水)	13:30～14:30	110人

<健康診断項目>

4月12日～14日 胸部X線撮影・検尿・アンケート

4月19日～22日 既往歴・身体計測・血圧測定・内科診察

5月11日 胸部X線撮影・検尿・既往歴・身体計測・血圧測定・内科診察・アンケート

平成28年度 学生定期健康診断受検状況 (前橋地区)

	対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影	
		受検者数	受検率	受検者数	受検率
学部合計	3,316	3,086	93.1%	3,085	93.0%
大学院等の合計	590	202	34.2%	193	32.7%
合計	3,906	3,288	84.2%	3,278	83.9%

対象者数は平成28年4月1日現在の学生数とし休学者は除いた。

受検率は小数点第二位を四捨五入

上記の他に、下記の30名が受検した。

教育学部14名【研究生1名・特別聴講学生9名・教員研修留学生2名・日本語・日本語文化研修留学生2名】

社会情報学部9名【研究生2名・特別聴講学生7名】

理工学部7名【4年生5名、大学院理工学府前期課程2年生2名】

<学部学生>

		対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影		
			受検者数	受検率	受検者数	受検率	
教育学部	1年	231	230	100%	230	100%	
	2年	226	213	94.2%	213	94.2%	
	3年	223	216	96.9%	215	96.4%	
	4年	246	236	95.9%	236	95.9%	
	合計	926	895	96.7%	894	96.5%	
社会情報学部	1年	100	100	100%	100	100%	
	2年	102	96	94.1%	96	94.1%	
	3年	127	114	89.8%	114	89.8%	
	4年	133	116	87.2%	116	87.2%	
	合計	462	426	92.2%	426	92.2%	
医学部	医学科	1年	112	110	98.2%	110	98.2%
		2年	137	125	91.2%	125	91.2%
		3年	131	75	57.3%	75	57.3%
		4年	108	89	82.4%	89	82.4%
		5年	125	93	74.4%	93	74.4%
		6年	118	102	86.4%	102	86.4%
		合計	731	594	81.3%	594	81.3%
	保健学科	1年	164	163	99.4%	163	99.4%
		2年	160	155	96.9%	155	96.9%
		3年	163	156	95.7%	156	95.7%
		4年	165	159	96.4%	159	96.4%
		合計	652	633	97.1%	633	97.1%
		合計	1,383	1,227	88.7%	1,227	88.7%
		理工学部	1年	545	538	98.7%	538
学部合計	3,316	3,086	93.1%	3,085	93.0%		

<大学院学生>

		対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影			
			受検者数	受検率	受検者数	受検率		
教育学研究科	修士課程	1年	27	27	100%	27	100%	
		2年	29	25	86.2%	25	86.2%	
	専門職学位課程	1年	19	6	31.6%	6	31.6%	
		2年	17	4	23.5%	4	23.5%	
	教育学部特別支援教育特別専攻科		11	9	81.8%	9	81.8%	
合計		103	71	68.9%	71	68.9%		
社会情報学研究科	修士課程	1年	10	6	60.0%	6	60.0%	
		2年	14	8	57.1%	7	50.0%	
	合計	24	14	58.3%	13	54.2%		
医学研究科	医科学専攻	修士課程	1年	16	13	81.3%	11	68.8%
			2年	10	8	80.0%	8	80.0%
		博士課程	1年	56	16	28.6%	13	23.2%
			2年	63	19	30.2%	18	28.6%
			3年	65	15	23.1%	13	20.0%
	4年	101	7	6.9%	7	6.9%		
	合計	311	78	25.1%	70	22.5%		
	保健学専攻	博士前期課程	1年	50	15	30.0%	15	30.0%
			2年	54	22	40.7%	22	40.7%
		博士後期課程	1年	12	1	8.3%	1	8.3%
			2年	10	1	10.0%	1	10.0%
3年			26	0	0.0%	0	0.0%	
合計		152	39	25.7%	39	25.7%		
合計	463	117	25.3%	109	23.5%			
大学院等の合計		590	202	34.2%	193	32.7%		

平成28年度 学生定期健康診断受検状況（桐生・太田地区）

区 分			対象者数	内科診察・計測		胸部X線撮影・検尿	
				受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)
理工学部・工学部	昼間	2年	566	530	93.6	537	94.9
		3年	602	493	81.9	511	84.9
		4年	564	528	93.6	523	92.7
		昼間計	1,732	1,551	89.5	1,571	90.7
	夜間	4年	6	2	33.3	2	33.3
	学部合計	1,738	1,553	89.4	1,573	90.5	
理工学府・工学研究科	修士	1年	332	314	94.6	315	94.9
		2年	323	309	95.7	308	95.4
		修士計	655	623	95.1	623	95.1
	博士	1年	26	10	38.5	10	38.5
		2年	24	14	58.3	14	58.3
		3年	34	18	52.9	17	50.0
		博士計	84	42	50.0	41	48.8
	大学院合計	739	665	90.0	664	89.9	
	合 計	2,477	2,218	89.5	2,237	90.3	

※対象者数は平成28年4月1日現在の学生数(休学者を除く)

受検率は小数点第2位を四捨五入

平成28年度 学生定期健康診断結果

(1) 身体測定

	受検者数	結 果									
		やせ		正常				肥満			
		BMI 17.0以下		BMI 17.1~18.6		BMI 18.6~24.9		BMI 25.0~29.9		BMI 30.0以上	
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
教育学部	966	27	2.8%	63	6.5%	782	81.0%	75	7.8%	19	2.0%
社会情報学部	440	15	3.4%	50	11.4%	330	75.0%	29	6.6%	16	3.6%
医学部	1,344	18	1.3%	122	9.1%	1,095	81.5%	93	6.9%	16	1.2%
理工学部	538	12	2.2%	51	9.5%	399	74.2%	66	12.3%	10	1.9%
合 計	3,288	72	2.2%	286	8.7%	2,606	79.3%	263	8.0%	61	1.9%

(2) 血圧測定

1) 一次検査

	受検者数	結 果					
		正常血圧		高血圧疑い		低血圧症	
		人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	966	954	98.8%	5	0.5%	7	0.7%
社会情報学部	440	421	95.7%	9	2.0%	10	2.3%
医学部	1,344	1,302	96.9%	22	1.6%	20	1.5%
理工学部	538	524	97.4%	8	1.5%	6	1.1%
合 計	3,288	3,201	97.4%	44	1.3%	43	1.3%

2) 二次検査

	対象者数	結 果				医療機関紹介結果		
		正常血圧	経過観察	医療機関紹介	未受検	異常なし	経過観察	要治療
教育学部	5	5	0	0	0	0	0	0
社会情報学部	9	8	0	0	1	0	0	0
医学部	22	21	0	1	0	1	0	0
理工学部	8	7	1	0	0	0	0	0
合 計	44	41	1	1	1	1	0	0

(3) 尿検査

1) 一次検査

	受検者数	結 果		陽 性 項 目 内 訳			
		陽性者数	%	蛋白	潜血	蛋白・潜血	糖
教育学部	966	8	0.8%	2	4	0	2
社会情報学部	440	7	1.6%	0	5	0	2
医学部	1,344	20	1.5%	1	14	0	5
理工学部	538	4	0.7%	1	2	1	0
合 計	3,288	39	1.2%	4	25	1	9

2) 二次検査

	対象者数	結 果						医療機関紹介結果			
		異常なし	蛋白陽性	潜血陽性	蛋白・潜血陽性	糖陽性	未受検	異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし
教育学部	8	7	0	1	0	0	0	1	0	0	0
社会情報学部	7	5	0	2	0	0	0	1	0	0	1
医学部	20	13	0	6	0	0	1	5	0	0	1
理工学部	4	2	0	2	0	0	0	2	0	0	0
合 計	39	27	0	11	0	0	1	9	0	0	2

(4) 胸部X線間接撮影検査

	受検者数	要 精 検		医療機関紹介結果		
		人数	%	異常なし	経過観察	要治療
教育学部	965	0	0.0%	0	0	0
社会情報学部	439	1	0.2%	1	0	0
医学部	1,336	2	0.1%	1	1	0
理工学部	538	2	0.4%	2	0	0
合 計	3,278	5	0.2%	4	1	0

(5) 内科診察

	受検者数	要 精 検						医療機関紹介結果			
		心雑音		貧血(眼瞼結膜所見)		甲状腺腫		異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし
		人数	%	人数	%	人数	%				
教育学部	966	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	1	0	0	1
社会情報学部	440	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0
医学部	1,344	2	0.1%	0	0.0%	2	0.1%	1	1	0	2
理工学部	538	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	0	0	0
合 計	3,288	4	0.1%	1	0.0%	2	0.1%	3	1	0	3

平成28年度 精神保健調査結果

(1) 新入生の精神保健調査

新入生の精神保健調査は、健康診断時に提出する「健康状態記録票」内の「メンタルヘルス質問票(新入生版)」を基に要面接者を抽出し、健康支援総合センター副センター長兼教授(精神科医)・講師(内科医)・臨床心理士・附属病院精神科医師9名との面接をすすめた。対象学生は、各学部入学生の「健康状態記録票」提出者とし、大学院入学生(医学部・理工学部を除く)、特別支援教育特別専攻科、編入生(社会情報学部・医学部・理工学部)を含めた。

	対象学生数	要 面 接		面接を うけた 学生数	結 果					要 面 接			
		人数	%		問題なし	随時の相談 を推奨	カウンセリング 継続	医療機関 紹介	通院中	H27		H26	
										人数	%	人数	%
教育学部	278	7	2.5%	6	2	1	3	0	0	10	3.6%	12	4.4%
社会情報学部	123	8	6.5%	8	2	5	1	0	0	9	6.8%	3	2.2%
医学部	286	3	1.0%	3	2	1	0	0	0	4	1.4%	4	1.4%
理工学部	556	21	3.8%	16	6	5	4	1	0	21	3.8%	25(1)	4.4%
合 計	1,243	39	3.1%	33	12	12	8	1	0	44	3.5%	44(1)	3.5%

※これまでに精神科、心療内科、神経科に通院歴あり:24名(1.9%)

(2) 在校生の精神保健調査

本調査は、健康診断時に提出する「メンタルヘルス質問票(在校生版)」を基に要面接学生を抽出し、健康支援総合センター副センター長兼教授(精神科医)・講師(内科医)・臨床心理士が面接した。対象学生は、荒牧・昭和・太田地区で「メンタルヘルス質問票(在校生版)」を提出した学生とした。

	対象学生数	要 面 接		面接を うけた 学生数	結 果					要 面 接			
		人数	%		問題なし	随時の相談 を推奨	カウンセリング 継続	医療機関 紹介	通院中	H27		H26	
										人数	%	人数	%
教育学部	649	19	2.9%	17	5	4	6	0	2	31	4.9%	11	1.7%
社会情報学部	307	6	2.0%	5	0	2	3	0	0	5	1.8%	7	2.2%
医学部	980	8	0.8%	6	1	0	3	0	2	15	1.5%	18(1)	1.9%
理工学部	2,185	37(4)	1.7%	16	1	11	2	1	1	57(5)	2.7%	50(3)	2.3%
合 計	4,121	70(4)	1.7%	44	7	17	14	1	5	108(5)	2.7%	86(4)	2.1%

注:()は、通院中またはカウンセリング中にて、面接除外を希望した学生数で内数

※過去1年間に精神科、心療内科、神経科に通院歴あり:77名(1.9%)

(3) 追記

質問内容

昨年度と同じ、新入生33項目在校生19項目を用い、抑うつ状態、気分変調、精神病像、食行動異常、生活支障度、相談希望、既往歴等をスクリーニングした。ただし、本年度より「相談を希望するか」の項目の回答選択肢を、従来の「希望する」「希望しない」の2択から、「相談するかどうか迷っている」という選択肢を加えて3択とした。

結果の分析

対象学生数は新入生(1,243名;前年1,250名)、在校生(4,121名;前年4,026名)、ともに若干減少していた。

要面接者(スクリーニング陽性者)の割合は、新入生は昨年度よりやや低い3.1%(33名)、在校生は半減に近い1.7%(44名)と減少した。これは面接希望の尋ね方を変更した影響もある。今回の尋ね方で「相談を希望する」という回答が減り、その分が「迷っている」へ移行した可能性がある。念のため、「迷っている」と回答した学生にも面接希望の有無を電話で確認したが、ほとんど希望しない由の回答となった。

一方、実際に面接を受けた者は新入生は36名から33名と減少(ただし前前年は21名)、在校生は69名から44名(ただし前前年度40名)と減少していた。これは前年が、ともにスクリーニング陽性者の内で面接を希望する(2択時)者が例年に比べて多かったためと考えられ、数年間の範囲ではほぼ平均的な人数と考えられる。

面接結果について、新入生においては「問題なし」とされた割合は1/3程度で、前年度や前前年度と比べると減少しており、相対的に、「カウンセリング継続(新規)」とされた者が増加していた。在校生においても「カウンセリング継続」「随時相談」が相対的に増加傾向にあり、カウンセリング業務の維持あるいは拡充の必要性が引き続き認められた。

面接実施状況について

面接施行にあたって、精神科医である副センター長兼教授が、桐生キャンパスに2日赴いた(今年度は16名、前年度よりは減少しているが前前年度とほぼ同数)。なお、今回は太田キャンパスにおける該当者は2名であり、桐生キャンパスにて併せて面接した。

平成28年度 新入生の「学校生活に関する困り事調査」結果

健康診断時に提出する健康状態記録票「学校生活に関する困りごと調査」を基に要面接者を抽出し、健康支援総合センター講師(内科医)が面接した。対象学生は、各学部入学生の「健康状態記録票」提出者とし、大学院入学生(医学部・理工学部を除く)、特別支援教育特別専攻科、編入生(社会情報学部・医学部・理工学部)を含めた。17名の面接の結果、入学時の調査ということもあり、「新入学にあたっての困り事(不安事)」という観点から回答しており、実際の学校生活が開始されて解消されたという学生が8名であった。来年以降、調査時期を変えていくことも検討課

	対象学生数	要 面 接		面接をうけた 学生数	結 果		
		人数	%		問題なし	随時の相談を推奨	カウンセリング継続
教育学部	278	2(1)	0.7%	2	1	0	1
社会情報学部	123	3(2)	2.4%	3	2	0	1
医学部	286	1	0.3%	1	1	0	0
理工学部	556	12(8)	2.2%	11	4	3	4
合 計	1,243	18(11)	1.4%	17	8	3	6

注:()は、精神保健調査での要面接者数であり、内数

平成28年度 学生特殊健康診断結果

特定化学物質及び有機溶剤を取り扱う学生を対象とする特殊健康診断を実施した。

実施日：平成28年12月6日(火)・7日(水)

受検者数	結 果		
	異常なし	要経過観察	要精密検査 (二次検査)
223	207	6	10

要精密検査(二次検査)項目内訳

尿蛋白	肝機能
1	9

※要精密検査(二次検査)の学生には、医療機関を受診し検査を受けるよう指導した。

平成28年度 外国人留学生健康診断結果

本学では、過去、感染性結核症の学生が3名発生し、すべて外国人留学生であった。そのため、第8回健康支援総合センター運営委員会(平成21年8月3日開催)において、外国人留学生に対しクオンティフェロンTB(結核感染診断マーカー検査)を特別健康診断項目として行うことが決定された。

1. 受検状況

	対象者数	受検者		※未受検者内訳
		人数	%	
教育学部	11	11	100%	
社会情報学部	16	15	93.8%	帰国中1名
医学部	21	18	85.7%	来日しておらず1名、出国中2名
理工学部	51	50	98.0%	帰国中1名
合計	99	94	94.9%	

対象者:学部および大学院1年生、学部3年次編入生、平成28年4月以後に入学した研究生・聴講生・特別研究生・特別聴講学生
昨年度未受検者

※未受検者5名は来年度の学生定期健康診断を受検するよう説明し、来年度の留学生健康診断対象者とした。

2. クオンティフェロンTBゴールド検査結果

	受検者数	陰性(-)		陽性(+)		擬陽性(±)	
		人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	11	10	90.9%	1	9.1%	0	0%
社会情報学部	15	15	100%	0	0%	0	0%
医学部	18	12	66.7%	3	16.7%	3	16.7%
理工学部	50	42	84.0%	4	8.0%	4	8.0%
合計	94	79	84.0%	8	8.5%	7	7.4%

※今年度 医学部1年クオンティフェロンTBゴールド陽性率 0%

※陽性者・擬陽性者は医療機関を紹介した。

【参考資料:過去3年間の留学生健康診断結果】

	受検者数	陰性(-)		陽性(+)		擬陽性(±)	
		人数	%	人数	%	人数	%
平成25年度	102	90	88.2%	12	11.8%	0	0%
平成26年度	90	81	90.0%	7	7.8%	2	2.2%
平成27年度	77	71	92.2%	3	3.9%	3	3.9%

※平成25～27年度 医学部1年クオンティフェロンTBゴールド陽性率 0%

3. 医療機関受診結果

	医療機関紹介者数	受診結果		
		正常	潜在性結核として治療	経過観察
教育学部	1	0	1	0
社会情報学部	0	0	0	0
医学部	6	2	4	0
理工学部	8	4	2	2
国際教育・研究センター	0	0	0	0
合計	15	6	7	2

陽性者・擬陽性者全員は、医療機関を紹介した。

4. メンタルヘルス質問票による精神保健調査

	受検者数	問題なし		要面接者数	
		人数	%	人数	%
教育学部	11	11	100%	0	0%
社会情報学部	16	15	94%	1	6%
医学部	21	21	100%	0	0%
理工学部	51	51	100%	0	0%
国際教育・研究センター	0				
合計	99	98	99.0%	1	1.0%

要面接者1名はセンター内科医が面談し、随時相談となった。

平成28年度 健康支援総合センターの利用状況

利用人数(学生・教職員)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
教育学部	42	47	39	34	20	5	84	35	29	21	13	12	381
社会情報学部	21	19	26	23	16	11	30	19	29	24	12	11	241
医学部	10	5	9	9	3	1	4	12	7	0	2	0	62
理工学部	17	38	30	32	7	6	16	17	14	18	5	7	207
国際教育・研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医学部	9	11	10	6	5	4	9	5	6	7	5	5	82
理工学部	5	4	4	3	2	6	9	7	6	11	7	11	75
学生合計	104	124	118	107	53	33	152	95	91	81	44	46	1,048
教職員	8	8	5	1	3	7	3	3	4	13	5	6	66
合計	112	132	123	108	56	40	155	98	95	94	49	52	1,114

※昭和キャンパスで実施しているカウンティングをうけた人数も含む。

利用件数(学生)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
からだの健康相談	64	70	51	55	17	12	42	27	39	29	11	9	426
こころの健康相談	38	56	66	53	36	23	51	43	49	52	33	32	532
健康診断書発行	2	0	1	2	1	0	60	25	3	0	0	5	99
合計	104	126	118	110	54	35	153	95	91	81	44	46	1,057

利用件数(教職員)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
からだの健康相談	4	4	3	0	2	2	0	1	1	2	1	0	20
こころの健康相談	4	4	2	1	1	5	3	2	3	11	4	6	46
健康診断書発行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	8	5	1	3	7	3	3	4	13	5	6	66

平成28年度 健康相談の対応内容

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
からだの健康相談	相談のみ(助言・指導)	7	6	8	0	1	3	5	2	1	2	1	0	36	
	肥満治療	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	レディースクリニック	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	外傷処置	6	13	4	6	2	1	2	2	5	1	0	0	42	
	検査	2	3	2	3	2	3	2	0	1	0	0	0	18	
	投薬	43	36	30	39	8	3	30	16	29	22	7	8	271	
	休養ベッド使用	5	6	5	5	5	0	3	4	4	0	2	0	39	
	健康・保健用器具貸し出し	2	2	2	1	0	0	1	1	1	0	1	0	11	
	医療機関紹介	7	14	7	10	2	4	2	3	2	4	1	1	57	
	救急転送	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
こころの健康相談	医師	メンタルヘルス相談	14	25	29	26	17	9	22	18	18	18	13	17	226
		カウンセラー紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		投薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医療機関紹介	1	1	1	1	0	0	2	0	1	3	0	1	11
	セカラウン	カウンセリング	24	31	37	27	19	14	29	25	31	34	20	15	306
		精神科医(当センター)紹介	1	1	1	1	0	0	3	0	0	2	0	0	9
		医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		114	139	127	119	56	37	101	71	93	86	45	42	1,030	

※「こころの相談」の「カウンセラー」部分は、荒牧・昭和キャンパスで実施した結果を集計。

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
健康相談	相談のみ(助言・指導)	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	4	
	肥満治療	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	レディースクリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	外傷処置	1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	
	検査	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	投薬	3	3	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	10	
	休養ベッド使用	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	3	
	健康・保健用器具貸し出し	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	医療機関紹介	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	
	救急転送	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
こころの健康相談	医師	メンタルヘルス相談	3	3	0	1	1	3	3	2	2	11	4	5	38
		カウンセラー紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		投薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	セカラウン	カウンセリング	1	1	2	0	0	2	0	0	1	0	0	1	8
		精神科医(当センター)紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		11	10	5	1	3	9	3	3	4	14	5	6	74	

※「こころの相談」の「カウンセラー」部分は、荒牧・昭和キャンパスで実施した結果を集計。

平成28年度 こころの健康相談者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧キャンパス	教育学部	13	22	17	12	9	4	12	5	11	9	9	3	126
	社会情報学部	10	9	15	15	14	8	16	15	17	14	9	8	150
	医学部	0	0	3	4	2	0	0	6	1	0	0	0	16
	理工学部	2	13	19	14	4	2	8	7	8	11	4	7	99
	国際教育・研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昭和キャンパス	医学部	8	8	8	5	5	4	9	4	6	7	5	3	72
桐生・太田キャンパス	理工学部	5	4	4	3	2	5	6	6	6	11	6	11	69
学 生 合 計		38	56	66	53	36	23	51	43	49	52	33	32	532
教 職 員		4	4	2	1	1	5	3	2	3	11	4	6	46
合 計		42	60	68	54	37	28	54	45	52	63	37	38	578

平成28年度 こころの健康相談内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	14	15	37	32	22	12	20	18	21	19	18	12	240
対人関係	12	16	18	9	7	2	8	11	10	17	5	3	118
心体の不調	16	22	13	11	4	6	18	12	15	14	8	6	145
修学	1	2	0	2	3	4	5	4	1	2	2	3	29
その他	1	5	2	0	1	4	3	0	6	11	4	14	51
合 計	44	60	70	54	37	28	54	45	53	63	37	38	583

1回の相談につき、相談内容が複数の場合があります。

資料 5-10

平成28年度 学外臨床心理士による心理カウンセリング報告

【学生】

カウンセリング人数

実施キャンパス	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数										
荒牧地区	12	0	14	1	17	0	14	2	15	1	7	1	15	5	13	0	12	1	12	2	9	2	5	0	145	15
昭和地区	6	1	6	0	4	2	4	1	4	0	2	0	3	0	1	0	4	1	3	0	3	1	2	0	42	6
桐生地区	20	8	17	2	22	6	22	7	11	0	13	3	13	3	15	3	15	2	16	2	16	4	15	2	195	42
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	38	9	37	3	43	8	40	10	30	1	22	4	31	8	30	4	31	4	31	4	28	7	22	2	383	64

新規受付者数は内数

カウンセリング回数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	17	25	33	23	15	10	23	23	26	31	17	12	255
昭和地区	7	6	4	4	4	4	6	2	5	3	3	3	51
桐生地区	29	24	37	34	12	19	21	23	22	25	24	23	293
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	53	55	74	61	31	33	50	49	53	59	44	38	600

カウンセリング動機内訳

実施キャンパス	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数										
心理性格	20	3	17	1	38	2	24	1	16	0	21	2	20	2	19	2	23	1	20	0	26	3	18	0	262	17
対人関係	16	3	21	2	16	1	14	1	8	0	3	1	10	2	13	0	9	1	12	0	7	1	4	0	133	12
心体の不調	10	2	11	0	14	4	15	4	3	0	4	1	10	2	10	1	13	1	11	2	8	2	3	0	112	19
修学影響心理等	7	1	4	0	5	0	8	4	3	0	5	0	9	1	7	1	6	0	10	2	3	1	8	2	75	12
その他	0	0	2	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	1	6	0	0	0	5	0	18	4
合計	53	9	55	3	74	8	61	10	31	1	33	4	50	8	49	4	53	4	59	4	44	7	38	2	600	64

新規受付者数は内数

カウンセリング動機内訳は複数の場合あり

【教職員】

カウンセリング人数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	1	1	2	0	0	2	0	0	0	0	0	1	7
昭和地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
桐生地区	0	3	2	3	0	0	1	1	0	0	2	0	12
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	4	4	3	0	2	1	1	0	0	2	1	19

カウンセリング回数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	1	1	2	0	0	2	0	0	0	0	0	1	7
昭和地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
桐生地区	0	3	2	3	0	0	1	1	0	0	2	0	12
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	4	4	3	0	2	1	1	0	0	2	1	19

カウンセリング動機内訳

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
対人関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心体の不調	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修学影響心理等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	4	4	3	0	2	1	1	0	0	2	1	19
合計	1	4	4	3	0	2	1	1	0	0	2	1	19

カウンセリング動機内訳は複数の場合あり

	荒牧地区	昭和地区	桐生地区	太田地区
鈴木 志津先生	隔週月曜日13:00~17:00 火曜日9:00~17:00	金曜日9:00~17:00	木曜日13:00~17:00	
大須賀英理先生				木曜日(月1回)15:00~18:00
諸里 聡美先生			隔週月曜日13:00~17:00 水曜日10:00~14:00	
安田 淑美先生	木曜日13:00~17:00			
川合 利恵先生			隔週金曜日13:00~17:00	

平成28年度 疾病領域別利用者数

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	呼吸器系	14	9	16	14	2	2	19	10	21	16	2	4	129
	消化器系	10	5	5	5	2	1	1	3	4	1	3	2	42
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他	5	5	11	4	4	3	5	3	1	3	2	0	46
精神科	38	56	66	53	36	23	51	43	49	52	33	32	532	
外科・整形外科	12	33	8	12	6	2	13	6	6	6	2	1	107	
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
泌尿器科	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5	
耳鼻咽喉科	2	3	1	5	1	0	0	0	0	2	0	0	15	
眼科	6	1	2	3	0	1	0	0	0	2	2	1	18	
皮膚科	8	12	6	9	0	2	2	5	2	1	1	1	49	
歯科・口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
産婦人科	3	2	2	2	1	1	2	0	0	0	0	0	13	
合計		102	126	117	108	53	35	93	70	88	81	44	41	958

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	呼吸器系	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	消化器系	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
精神科	4	4	2	1	1	5	3	2	3	11	4	6	46	
外科・整形外科	1	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
眼科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
皮膚科	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
歯科・口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
産婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	
合計		8	8	5	1	3	7	3	3	4	13	5	6	66

平成28年度 診療科別医療機関紹介件数

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	循環器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	呼吸器系	1	3	1	2	0	1	1	0	0	0	1	0	10
	消化器系	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
精神科		1	1	1	1	0	0	2	0	1	3	0	1	11
外科・整形外科		1	2	1	3	0	0	1	1	0	1	0	1	11
脳神経外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
耳鼻咽喉科		1	2	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	8
眼科		2	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	6
皮膚科		0	3	1	2	0	1	0	1	0	1	0	0	9
歯科・口腔外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科		0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
合計		8	15	8	11	2	4	4	3	3	7	1	2	68

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	循環器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	呼吸器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	消化器系	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
精神科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科・整形外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
歯科・口腔外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3

平成28年度 薬剤別処方日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
抗 生 剤	5	0	0	5	0	0	0	0	7	0	0	0	17
解熱・消炎・鎮痛剤	2	1	4	7	2	1	1	0	3	4	0	3	28
感 冒 剤	20	8	25	14	2	0	18	15	41	33	3	6	185
鎮 咳 剤	9	6	9	10	3	0	14	9	3	6	0	9	78
去 痰 剤	9	6	9	10	3	0	14	9	3	6	0	9	78
漢 方 剤	20	3	6	12	0	0	15	6	18	12	0	3	95
健胃剤・抗潰瘍剤	0	1	3	10	4	0	0	0	9	0	3	6	36
整 腸 剤	27	6	6	4	3	0	3	3	6	3	6	0	67
止 瀉 剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
鎮 吐 剤	4	0	2	5	6	0	0	3	3	3	0	2	28
抗アレルギー剤	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
※含嗽剤	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3
※口腔内塗布剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
※外用副腎皮質ホルモン剤	7	5	3	9	0	1	0	2	1	0	1	0	29
※外用抗生剤	2	5	2	4	0	0	0	0	1	0	0	0	14
※外用抗ウイルス剤	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
※外用保湿剤	0	2	1	1	1	0	0	1	1	0	1	1	9
※外用消炎剤	7	17	5	3	1	1	7	8	9	10	8	0	76
※点眼薬	2	0	1	3	0	0	0	0	1	1	1	0	9
合 計	114	63	76	98	26	4	73	58	106	78	24	39	759

※の薬剤については、処方日数ではなく、個装単位とした。

6 教育改革推進室（平成28年7月設置）

6.1 はじめに

平成28年度概算要求「地域と連携した教育体制の整備と展開」が予算措置されたことを受け、平成28年7月に、大学教育・学生支援機構の教育基盤センター及び教育企画室の改編とともに「教育改革推進室」を設置した。教育改革推進室は、大学教育に関する、(1) 教育実施体制及び教育方法、(2) 地域と連携した教育、(3) 社会ニーズを踏まえた教育プログラム、(4) アクティブラーニング に関する企画立案を行うことが業務となっている。

6.2 平成28年度取り組み概要

発足後、第1回の室会議を平成28年8月5日に開催し、教育改革推進室の設置の経緯及び取り組むべき課題等の確認を行い、続いて、平成29年度概算要求、三つのポリシーガイドライン等、専任教員公募等、中期目標・中期計画、大学教育再生加速プログラム（AP）への申請及び国立大学の将来ビジョンに関するアクションプランについて議論を行った。

第2回の室会議は、平成28年10月24日に開催し、専任教員の選考審議を経て候補者を決定した。なお、その後、候補者が辞退したため、再度候補者の選考をメール会議で行い、最終候補者を決定した。

平成29年2月1日付けで専任教員を採用した。

資料 6-1：教育改革推進室設置の経緯、取り組むべき課題等

教育改革推進室設置の経緯，取り組むべき課題等

大学教育・学生支援機構 教育改革推進室の設置

(1) 第2期中期計画の28年度計画および27年度の教育基盤センターからの引継ぎ事項として懸案となっていた、「教養教育から大学院教育までの一貫したポリシーの確立，その下での教育体制と内容の整備」という課題，とりわけ「教育基盤センターの在り方」について，平成27年度に設けられた「教育実施体制の再構築に関するWG」において検討を重ねてきた。そこでは，「質保証された学士課程教育の構築のためには，学士課程全体を見通した教育体制の企画・立案を専門とするスタッフが不可欠であること」，「これまでの教育基盤センターの下にある教育企画室の体制では継続的な検討ができず，この体制を改編して高等教育学等を専門とする専任のスタッフを配置した部署を新たに設けること」，「カリキュラム・ポリシーの見なおしを通して，教養教育を中心に教育内容・方法についての改善（具体的には，質保証につながるシラバスの改革や学修成果の可視化など）を進めること」等の必要性が確認されてきた。その中心となるテーマは，大学教育全体にわたる教学マネジメント体制の構築を如何に進めていくかという課題である。

(2) この課題に対処すべく，H28年度の概算要求において，教育に関する機能強化策として「地域と連携した教育体制の整備と展開」を提案し，その中で大学教育の改革の推進を中心になって企画・立案し進める組織として教育改革推進室を設置すること，PBL教育を通じた教育改革の推進等を計画した。

(3) 一方，H27年度に行われた大学機関別認証評価においても，教育の内部質保証システムの問題として，「教育の取り組み状況等について自己点検・評価する体制は整備されているものの，これらの評価により見出された課題等への対応は各学部には任されている。今後，大学全体として改善・改革を推進する体制の整備が望まれる」として，学部任せ（極端な場合には学科・教員任せ）とせず，教学のPDCをAにつなげる全学的な体制を構築していく必要性が指摘された。

(4) 他方，時を同じくして，中央教育審議会大学分科会大学教育部会で3つのポリシーが27年度にかけて検討されてきていたが，H28年3月31日付でそのガイドラインが提出され，「3つのポリシーに基づいた教育のPDCAサイクルの構築を進めることにより，大学教育の改革を実現していくこと」が求められた。これは，教学マネジメント体制の構築を3つのポリシーを基準として進めるという意味で，上記(1)のWGで検討してきたことに完全に対応するものである。

(5) このガイドラインの提出を踏まえ，また(2)のH28年度概算要求の教育改革の取り組み案の経費が予算措置されたことを受け，教育実施体制の整備，大学教育・学生支援機構の教育基盤センター及び教育企画室の改編，新組織計画を策定し，役員連絡会，教育研究評議会に提案し審議をしてきたが，H28年度6月の役員会で最終的に承認された。

(6) その内容は，①大学教育の実施体制及び教育方法等に関する企画立案等を行う教育改革推進室（主担当を命ぜられた者をおく）を機構の下に設置する，②推進室には教育企画部門と地域と連携した社会人学び直し教育等を主導する地域協働部門の2部門を設ける，③それにともない教育企画室を廃止する，④大学教育全体を所管することを明示するため教育基盤センターを大学教育センターと改称する，⑤あわせて関係する諸機関の規程を整備する，と

いうものである。

教育改革推進室において取り組むべき課題（の一部）

3つのポリシーを基に、大学教育における教学マネジメントを確立するために必要な取組

①入学から卒業までの一貫した体系的教育課程の構築

- ・学生の入学前の学習・活動履歴や選抜方法による意欲・能力の差も踏まえた大学教育における学生の主体的・能動的な学修を促進するための初年次教育の見直し・充実
- ・教養教育と専門教育の適切なバランスの確保と質の充実，教材の開発
- ・産業界等の社会とのつながりや大学院教育への接続を見通した教育課程づくり
- ・教育内容及び学修成果の可視化や情報の発信

②知識の伝達を中心とした教育から主体性を引き出す能動的授業への転換

- ・履修科目の登録上限の設定など，教員の授業内容の充実や学生の学修時間の増加による単位制の実質化のための取組の充実
- ・少人数のチームワーク，集団討論，反転授業等の教育方法の充実
- ・海外留学，インターンシップ等の学外学修プログラムの充実
- ・社会人学び直し教育との融合，地域連携事業との連携，PBL教育の推進

③学修成果の可視化，PDCAサイクルの確立（シラバス，ポートフォリオ）

- ・学生の学修履歴の記録や自己評価のためのシステムの開発
- ・具体的な学修成果の把握・評価方法（アセスメント・テスト，学修行動調査，ルーブリック等）の開発・実践
- ・学生の卒業後の追跡調査

④大学教育の質的転換を支える体制の整備

- ・各大学におけるFD・SDの充実
- ・教員の教育業績評価（授業評価，ティーチング・ポートフォリオ等）の促進
- ・大学入学者選抜や教学マネジメントに係る専門的な人材の育成・配置
- ・アドミッション・オフィス等の機能強化
- ・TA等の教育サポートスタッフの充実
- ・ラーニングコモンズや図書館等，学生の能動的な学修を可能とする環境の整備
- ・授業教材やFD教材を収集したポータルサイトの構築（教務システム）